

標準時数の変遷に関する調査

—結果と提言—

2024年 5月 7日

東京学芸大学大森直樹研究室

はじめに

小学校の授業時数は国が定める標準時数にもとづいています。標準時数は学習指導要領とあわせて改訂されてきました。学習指導要領の改訂にむけた議論が始まっていますが、標準時数の改訂にむけた議論についても同時に進めていくことが、「働き方改革の視点」からだけでなく、「子どもに相応しい教育課程の視点」からも重要と思われます。いま多くの学校では1日に6時間の授業をしているけれども、それは子どもの生活に合っているのか。そうした問題意識から、標準時数の変遷について公立小学校教員の見解を把握して、標準時数の改善に活かすための調査を2023年7月から9月にかけて行いました。本書にはその結果とあわせて提言についてもまとめています。どうか忌憚のないご意見をいただけるようお願いいたします。

大森直樹

目次

はじめに	2頁
I. 調査概要	4頁
II. 標準時数の改善に向けた提言 — 教育史研究と本調査から	5頁
III. 調査のきっかけ	7頁
IV. 調査前提 — 教育史研究から	7頁
V. 調査結果1 — 図表 1～5から	10頁
図表1 1977・1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員293人の回答	
図表2 1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員487人の回答	
図表3 1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員668人の回答	
図表4 2008・2017標準時数下で勤務した教員699人の回答	
図表5 2017標準時数下で勤務した教員248人の回答	
VI. 調査結果2 — 自由記述から	18頁
1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向 81件	
2. 標準時数の量 447件	
3. 標準時数の中の特活の時数 183件	
4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること 21件	
5. 特別活動の標準時数が35しかないこと 11件	
6. 時数編成の工夫 86件	
7. 要望や提案 216件	
8. 不登校との関係 20件	
VII. 自由記述一覧	22頁
調査用紙(依頼書及び質問書)	88頁

I. 調査概要

1. 調査者 東京学芸大学大森直樹研究室
2. 調査目的 標準時数の変遷について公立小学校教員の見解を把握し標準時数の改善に活かす
3. 調査項目 各期の標準時数下の教育課程への評価
4. 調査対象 1977・1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した公立小学校教員
5. 調査協力 一般財団法人教育文化総合研究所
6. 実施方法 一般財団法人教育文化総合研究所を通じ調査票を配布し、回答者が調査票のQRコードを読み取りインターネットの画面上から回答 (2023年7月18日～9月29日)
7. 回答者(有効票) 2,445人

表 回答者の内訳

1977 標準時 数下で勤務 310人	1989標準時 数下で勤務 802人	1998標準時 数下で勤務 1,478人	2008標準時 数下で勤務 2,185人	2017標準時 数下で勤務 2,411人		
○	○	○	○	○	○印全てで勤務 5期経験者	293人
	○	○	○	○	○印全てで勤務 4期経験者	487人
		○	○	○	○印全てで勤務 3期経験者	668人
			○	○	○印全てで勤務 2期経験者	699人
				○	○印全てで勤務 1期経験者	248人
以上の他の○印の組み合わせによる勤務経験者						50人
計						2,445人

回答者の勤務校所在地は、回答数が多い順に北海道、静岡、兵庫、神奈川、大阪(以上100人以上)、大分、福岡、石川、鹿児島、岩手、三重、茨城、沖縄、広島、長崎、新潟、長野、佐賀(以上10人以上)、その他17県で、計35都道府県。

Ⅱ. 標準時数の改善に向けた提言 — 教育史研究と本調査から

- 2008標準時数と2017標準時数については、時数が多すぎて子どもの生活に合っていないし、子どもの学習の充実にも寄与していない。そのように多くの小学校教員が考えていることが本調査からわかった。標準時数の5期経験者と4期経験者780人の8割以上が、子どもの生活に「やや合っていなかった」「合っていなかった」と回答している。子どもの学習の充実についての回答も同様の傾向だった(10～13頁)。2017標準時数は第4～6学年が額面で週29コマ。実質週30コマ(特活を補正)、毎日6コマになっている。子どもは我慢を強いられている。子どもの生活と学習を充実させるためにも、不登校の急増に対処するためにも、今の時数を見直すことは急務であると考えられる。制度的に文科省が標準時数を決めているが、その立案能力に現場からは疑問も出始めている。
- 教員の働き方改革を進めるためにも、病休者増に対処するためにも、標準時数の見直しは避けて通れない。いま国と民間の双方から、教職員の配置を充実させて、1人の教員あたりのコマ数を削減する方向性が出されている。それは進めるべきだが、あわせて標準時数の見直しが必要。勤務は8時台に始まり16時台に終わる。毎日6コマだと子どもの下校は15時台。勤務時間内に全員参加の職員会議や研修を設けることは困難で、授業準備や休憩を勤務時間内で行うことも難しい。専科教員や交換授業(教師Aが2クラスの音楽、教師Bが2クラスの図工を担当し準備を合理化)の導入が難しい小規模校ではなおのこと。
- 災害多発と地球沸騰化時代の標準時数という観点が重要。高温多湿の教室でも、子どもに我慢をさせて、夏休みを短縮して毎日6コマ授業を受けさせる光景が全国化している。その背後には、標準時数を下回る編成を恐れる教育界の傾向もある。2008標準時数の実施年が東北地方太平洋沖地震で、2017標準時数の実施年が新型コロナウイルスの流行だった。災害多発と地球沸騰化時代の標準時数という問題を、正面から考えることが必要。
- 標準時数の見直しは「特活の時数」「35の倍数」「教科領域の見直し」「教育内容の見直し」という4つの視点で進めるべきである。難易度は、「特活の時数」「35の倍数」が容易で「教科領域の見直し」「教育内容の見直し」が困難。
- 「特活の時数」の視点とは「学習指導要領の特活の内容」と「標準時数の特活の時数」の不一致を改める視点。不一致が少なかったのは1977標準時数と1989標準時数だった。それをふまえ第4～6年を特活週2コマとするべき。この見直しをするだけでも、授業時数管理のための二重帳簿(いまは標準時数に対応した特活のカウントと標準時数に対応しない特活のカウントが全国の学校で行われている)が改善され、授業時数の正確な把握が進む。不可欠の視点。
→「5」で標準時数は週30コマになる

「学習指導要領の特活の内容」と「標準時数の特活の時数」(4～6年の1学年あたり)

学習指導要領の特活の内容	1968標準 時数	1977標準 時数	1989標準 時数	1998標準 時数	2008標準 時数	2017標準 時数
児童会活動						
学級活動(1968・1977は学級会活動)		35	35	35	35	35
クラブ活動(4～6年)		35	35			
学校行事						
計	0	70	70	35	35	35

標準時数の中の35で割り切れない数

小学 5年	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外語	道徳	外活	総合	特活	総時数
1968 標準時数														
1977 標準時数														
1989 標準時数														
1998 標準時数	180	90	150	95	50	50	60	90				110		
2008 標準時数		100			50	50	60	90						
2017 標準時数		100			50	50	60	90						

6 「35の倍数」の視点とは標準時数の中の35で割り切れない数を改める視点。音楽・図工が70のとき週2コマだったが、いま音楽・図工が50で週1.4コマ。子どもは週ごとに異なる時間割で忘れ物が増える。教員は時数の編成と管理が煩雑になる。専科教員や交換授業の導入も難しくなる。いま35で割り切れないのは社会・音楽・図工・家庭・体育。これを35の倍数だった1989標準時数のときにひとまず戻すと週2コマ増になる。不可欠の視点。
→「5」「6」で標準時数は週32コマになる

7 「教科領域の見直し」とは教科領域の見直しと標準時数の見直しについて歴史的経験を活かす視点。
1998改正は総合を新設したが、「従前教科領域の時数削減をとまなう教科領域の新設」。
2008改正は外国語活動を新設したが、「従前教科領域の時数削減をしない教科領域の新設」だった(週1コマ増)。
2017改正は外国語活動を第3・4学年に下ろし、第5・6学年は外国語科に再編新設。これも「従前教科領域の時数削減をしない教科領域の新設」に分類しておきたい(週1コマ増)。
2008改正と2017改正は、教科領域の新設に伴う生みの苦しみを回避し、教科領域の新設を標準時数の純増による子どもと教職員の負担により進めるものだった。これらの政策的な不合理を一度白紙に戻すことも選択肢の一つとなる(週2コマ削減)。
→「5」「6」「7」で標準時数は週30コマになる

8 「教育内容の見直し」とはまず標準時数(授業時数基準)を見直してから学習指導要領(教育内容基準)の見直しを行う視点。週30、毎日6コマでは、子どもも教職員も疲弊するばかりとの声が多いことを踏まえて、「5」「6」「7」による週30コマから週5コマを減らして標準時数を週25コマ、毎日5コマとすることを提案したい。学習指導要領の都合から標準時数を定めるのではなく、標準時数の変遷と現場の声をふまえてまず適切な標準時数を定めて、それにあわせて学習指導要領の見直しをするべき。

9 2007年に始まった全員参加の学力テスト(2010抽出2011中止)は対策授業蔓延と特定の子どもの排除等の問題が指摘されてきたが、授業時数にもマイナスの影響がある。テスト学力向上のためには授業時数確保が必要との思い込みから、教育委員会や校長には標準時数を下回る編成をおそれる傾向がある。全員参加の学力テストの廃止も必要。

10 近年の国際法と国内法で大切にされている「当事者による自己決定」の重要性。学校の時数や内容に、どれだけ子どもと教職員の意見が反映されているのか。日本の教育は子どもと教職員を決定から締め出すことが続いていることを改める必要がある。

Ⅲ. 調査のきっかけ

「近頃は子どもたちがなかなか学校から学童に来ない」「やっと学童に来てもぐったりしている」「放課後の遊びをつうじて子どもは育ってきたのに」(2015年度の所沢市6年制学童保育の指導員の言葉)。

Ⅳ. 調査前提 — 教育史研究から

1. 1968年から標準時数を国定しそれにもとづき学校が授業時数を定める制度になっている

週時数の国定

国は1886省令(小学校ノ学科及其程度)で毎週授業時間27.5。1900省令(小学校令施行規則)で21~27。1907省令(同規則)で21~30(1コマ45分)。1941省令(国民学校令施行規則)で23~33(1コマ40分)。

国定の廃止

1947省令(学校教育法施行規則)により省令で週時数を国定した制度は廃止。

年最低時数の国定

1958同省令改正により年最低時数を国定する制度へ。÷35で週時数。道徳の時間特設が背景(大森2018)。

年標準時数の国定

1968同省令改正により年標準時数を国定する制度へ。 実施年度は5頁帯グラフ参照

2. 標準時数の変遷—小5を中心に 35の倍数でないものに下線 枠外「標準時数÷35」で算出した週時数

小学 5年	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外語	道徳	外活	総合	特活	総時数	週
1968 標準時数	245	140	210	140	70	70	70	105		35				1085	31
1977 標準時数	210	105	175	105	70	70	70	105		35			70	1015	29
1989 標準時数	210	105	175	105	70	70	70	105		35			70	1015	29
1998 標準時数	<u>180</u>	<u>90</u>	<u>150</u>	<u>95</u>	<u>50</u>	<u>50</u>	<u>60</u>	<u>90</u>		35		<u>110</u>	35	945	27
2008 標準時数	175	<u>100</u>	175	105	<u>50</u>	<u>50</u>	<u>60</u>	<u>90</u>		35	35	70	35	980	28
2017 標準時数	175	<u>100</u>	175	105	<u>50</u>	<u>50</u>	<u>60</u>	<u>90</u>	70	35		70	35	1015	29

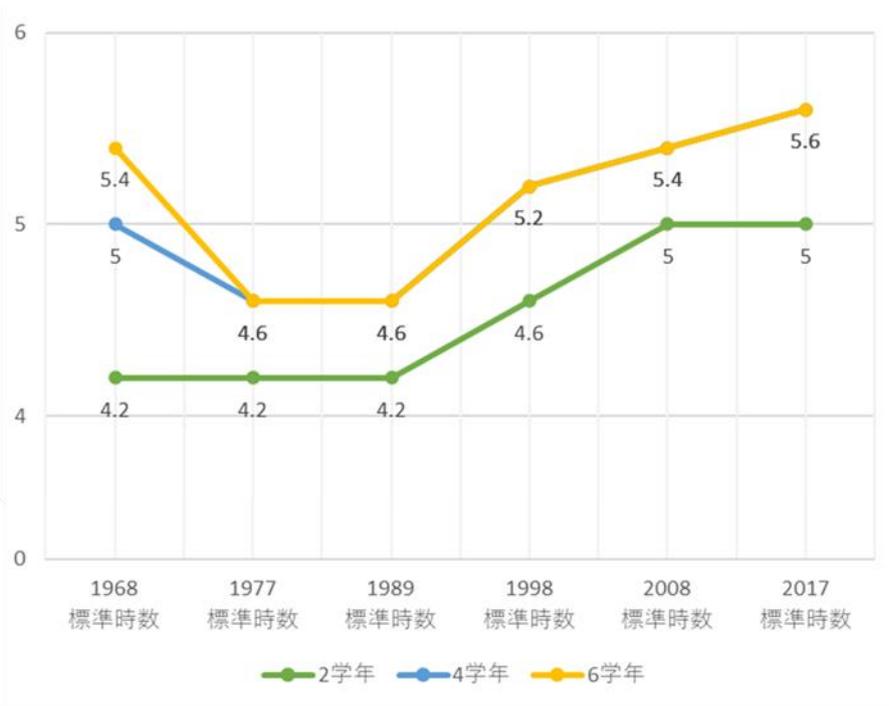
3. 文科省は標準時数の変遷をどうとらえているか

	1968 標準時数	1977標 準時数	1989 標 準時数	1998標 準時数	2008標 準時数	2017 標 準時数
小学校全学年の総標準時数	5821	5785	5785	5367	5645	5785
標準時数の中の特活の時数	0	314	314	209	209	209
文科省による特活の補正	5821+314=6135					

文科省による補正は文部科学調査室『文部科学関係 最近のニュース 臨時増刊号』2023年9月、8頁より作成。

- 1) 全学年の総標準時数に着目 → 子どもと教職員の日々の生活への影響が見えにくい
- 2) 特活の時数の補正不十分なまま変遷把握(11頁表) → 2008・2017標準時数を小さく見せている
- 3) 1998標準時数から6日制であることを軽視 → 同じ5785でも子どもと教職員への影響異なる
4. 変遷をとらえるために必要なこと — 特活の補正をした平日1日時数への着目

平日 1 日時数の変遷



- ・特別活動（特活）の標準時数は差し引いている（各期でカウントが異なるため）
- ・週 6 日の 1968～1989 標準時数については「週コマ数－4 時数（土曜の時数）÷5 日」で算出
- ・週 5 日の 1998～2017 標準時数については「週コマ数÷5 日」で算出
- ・週コマ数は「標準時数÷3.5」で算出（3.5 は標準時数を週標準時数に換算する係数）
- ・1977 標準時数より 4 学年・6 学年は 1 日時数が同じ

- 1) 1968 標準時数が「肥大なカリキュラム」(遠山啓 1966) を招いたことが国と現場と研究者の共通認識。
- 2) 1977 標準時数以降、4 年と 6 年は同一時数に。
- 3) 図表の 4 年と 6 年の時数に特活分 0.4 (週 2 コマ÷5 日) を足すと、リアルな学校の平日 1 日時数。

- ・「肥大」な 1968 標準時数 $5.4 + 0.4 = 5.8$
- ・第 1 次ゆとりの 1977・1989 標準時数 $4.6 + 0.4 = 5$
- ・第 2 次「ゆとり」の 1998 標準時数 $5.2 + 0.4 = 5.6$ → 4 年は「肥大」超 6 年は「肥大」手前
- ・2008 標準時数 $5.4 + 0.4 = 5.8$ → 4 年は「肥大」超 6 年は「肥大」復活
- ・2017 標準時数 $5.6 + 0.4 = 6$ → 4 年も 6 年も教育史上もっとも「肥大」

【要点】

- 平日 1 日時数から見たとき 2017 標準時数は教育史上もっとも「肥大」な教育課程になっている。
- 標準時数は 3.5 の倍数が基本だった。年時数を 3.5 で割ると週時数になる。この数字は 1958 省令で導入され現場に定着。1 年間 1 枚の時間割で済む。しかし、1998 標準時数から 8 教科 1 領域が 3.5 の倍数でなくなる (2008 標準時数から 5 教科に)。週ごとに時間割を変更しなければならない。時数管理が煩雑に。
 - 1998 標準時数以降、とりわけ、2008 標準時数以降の教育課程は子どもと教職員にとってマイナスの影響を及ぼしているのではないか。

5. 教員の調査の必要性

- 1) 働き方改革の視点から授業時数(主に持ちコマ数)の見直しについての議論が官民で行われていることは重要。
- 2) しかし、子どもの生活と学習にとってどうなのかという視点が欠けている。子どもの生活と学習にとって、どのような授業時数のあり方が望ましいのか、事実の解明が必要。
- 3) だが、1 人の子どもが経験する授業時数はその過ごした学年の 1 つ限りであり、1 人の子どもが同じ学年の複数の

授業時数について、自身の経験から比較を行い評価することはできない。

4)これに対して、教歴を重ねた教員は、各期の標準時数にもとづく複数の授業時数について、自身の経験から比較を行い評価ができる。子どもの生活と学習にとってどうなのか、教員の見解が持つ意味の重要性がある。

□文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査 概要・集計結果」(調査期間2023年1から2月)の中に以下の内容がある。

週当たりの授業時間について小学校教員の39%が「ちょうどいい」、59%が「多すぎる」「やや多い」と回答。

週当たりの授業時間について小学5年生の60.5%が「ちょうどいい」、36.3%が「多すぎる」「やや多い」と回答。

同じ設問に対する小学教員と小学5年生の回答の違いは、教員の多くが複数の授業時数を経験しているのに対して、小学5年生が当該学年について1つの授業時数しか経験していないことが関係していると思われる。

IVの参考文献

教育史研究

◎中央大学池田賢市研究室・東京学芸大学大森直樹研究室(2017)「教育課程の時数の歴史－小学校1886～2017年(研修資料)」

大森直樹(2018)『道徳教育と愛国心－「道徳」の教科化にどう向き合うか』岩波書店

◎大森直樹(2023)「小学校の週 29 コマをどう考えるか－教育課程基準と教員の経験」『教育実践アーカイブズ 第10号 特集 学校の時数の歴史と課題』

事例研究ほか

大森直樹(2019)「「知識詰め込み型」からの転換なのか？－改訂「学習指導要領」が子どもにもたらすもの」『世界』11月号、岩波書店

大森直樹(2023)「2つのカリキュラム・オーバーロード論－次期教育課程基準改訂の焦点」公教育計画学会第15回研究大会(口頭報告)

遠山啓(1966)「教育内容の対置」『教育』6月(『遠山啓著作集 教育論シリーズ2 教育の自由と統制』太郎次郎社、1989年に改題して所収)

◎中島彰弘(2023)「学校の時数の歴史－北海道の経験から」『教育実践アーカイブズ 第10号』

◎永田守(2023)「時数は足りないのではなくむしろ足りている」『同上書』

◎水野佐知子(2023)「コロナ対策から見えてきた学校の諸問題－時数を中心に」『同上書』

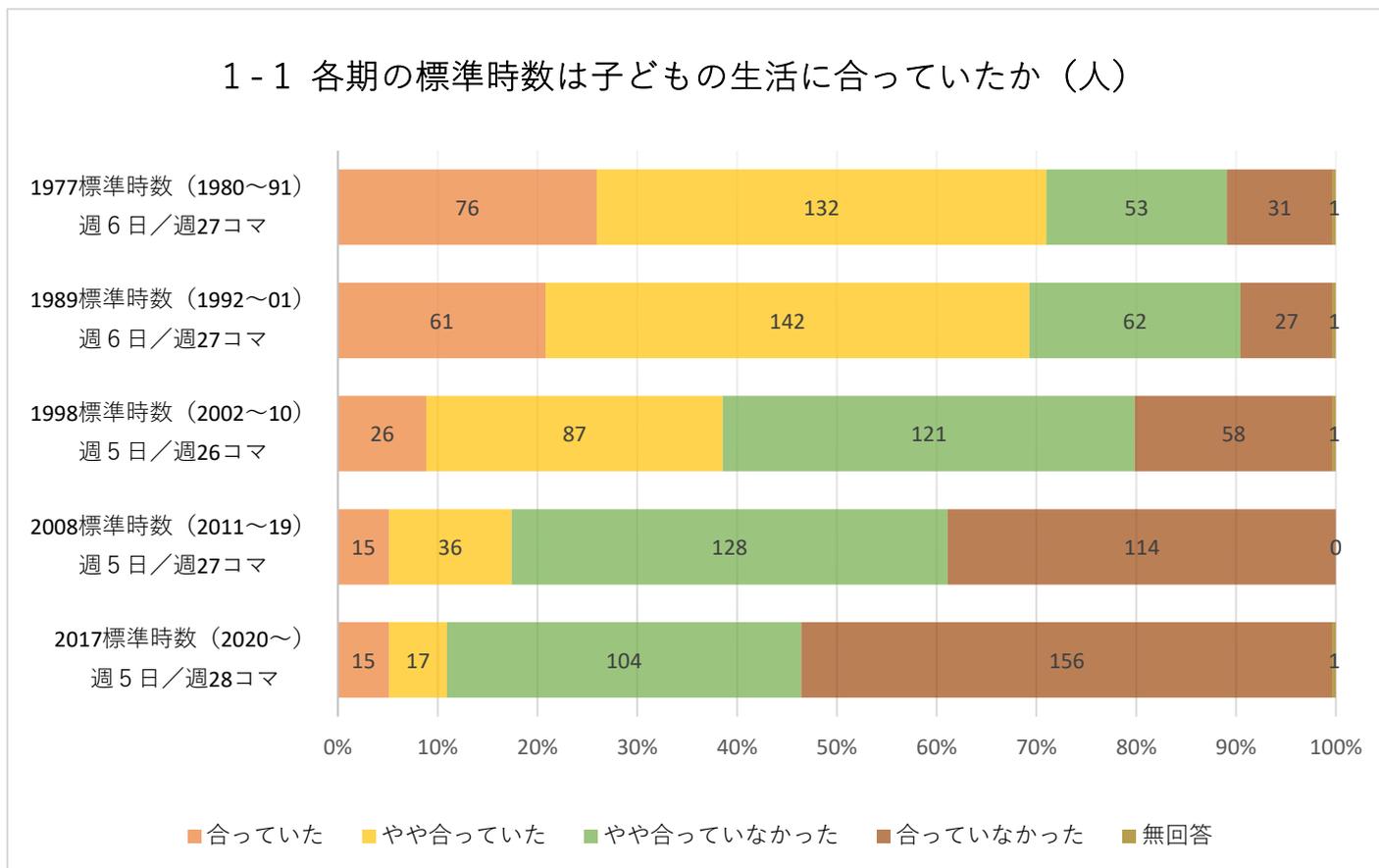
◎水本王典(2023)「標準時数を下回ったことが勇気を与えてくれる」『同上書』

矢定洋一郎(2011)『学校ぎらいのヤサ先生 連戦連笑－ホントに愉快なことは、これからサ?!』績文堂

◎の文献は大森直樹研究室 HP(<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~omoriken/>)

V. 調査結果1——図表 1～5から

図表1 1977・1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員 293 人の回答

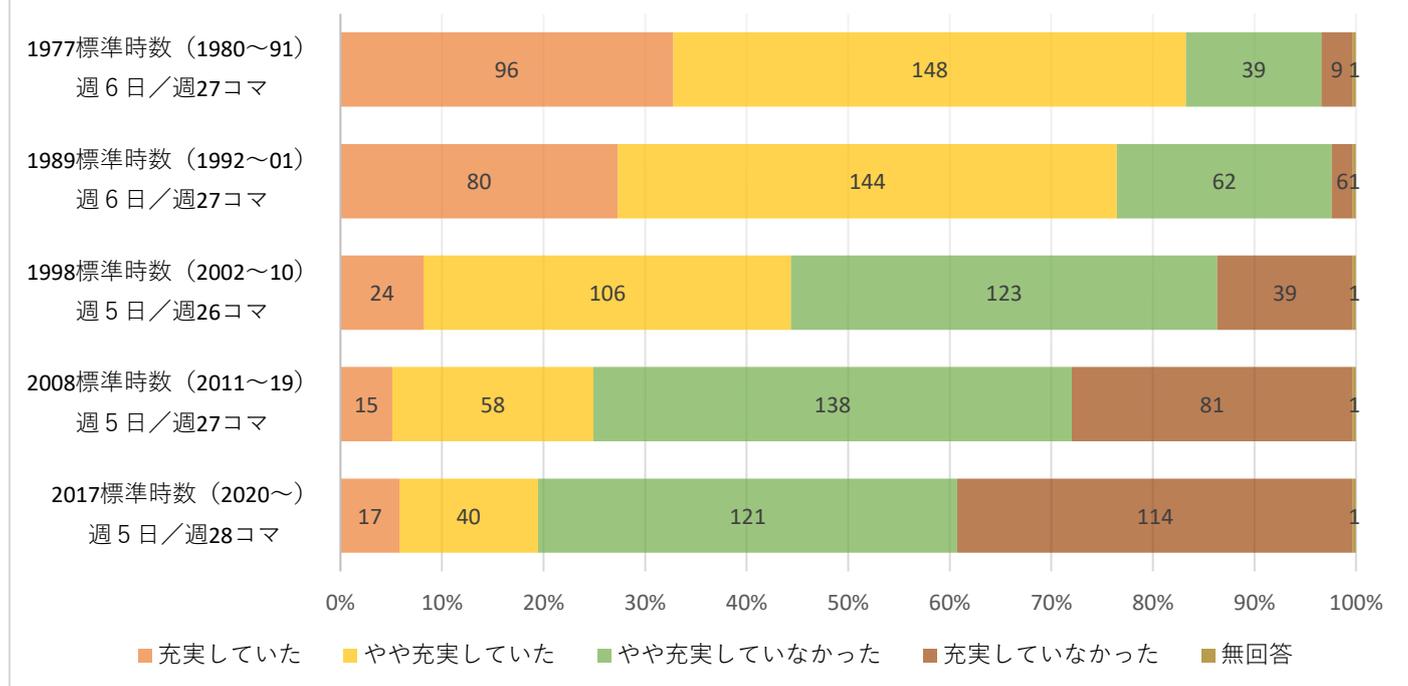


□ 「やや合っていなかった」と「合っていなかった」(以下、この2つをあわせて「合わない」とする)は1977標準時数が28.7%で最小、2017標準時数が88.7%で最大。1989標準時数が30.4%

■ 5期経験者は第1次ゆとりの1977標準時数と1989標準時数の「合わない」がいずれも30%以下 高評価

■ 5期経験者は2017標準時数の「合わない」が88.7% 低評価

1-2 各期の標準時数で子どもの学習は充実していたか（人）



□ 「やや充実していなかった」「充実していなかった」(以下、この2つをあわせて「充実しない」とする)は1977標準時数が16.4%で最小、2017標準時数が80.2%で最大。1989標準時数が23.2%。

■ 5期経験者は第1次ゆとりの1977標準時数と1989標準時数の「充実しない」がいずれも10~20%台 高評価

■ 5期経験者は2017標準時数の「充実しない」が80.2% 低評価

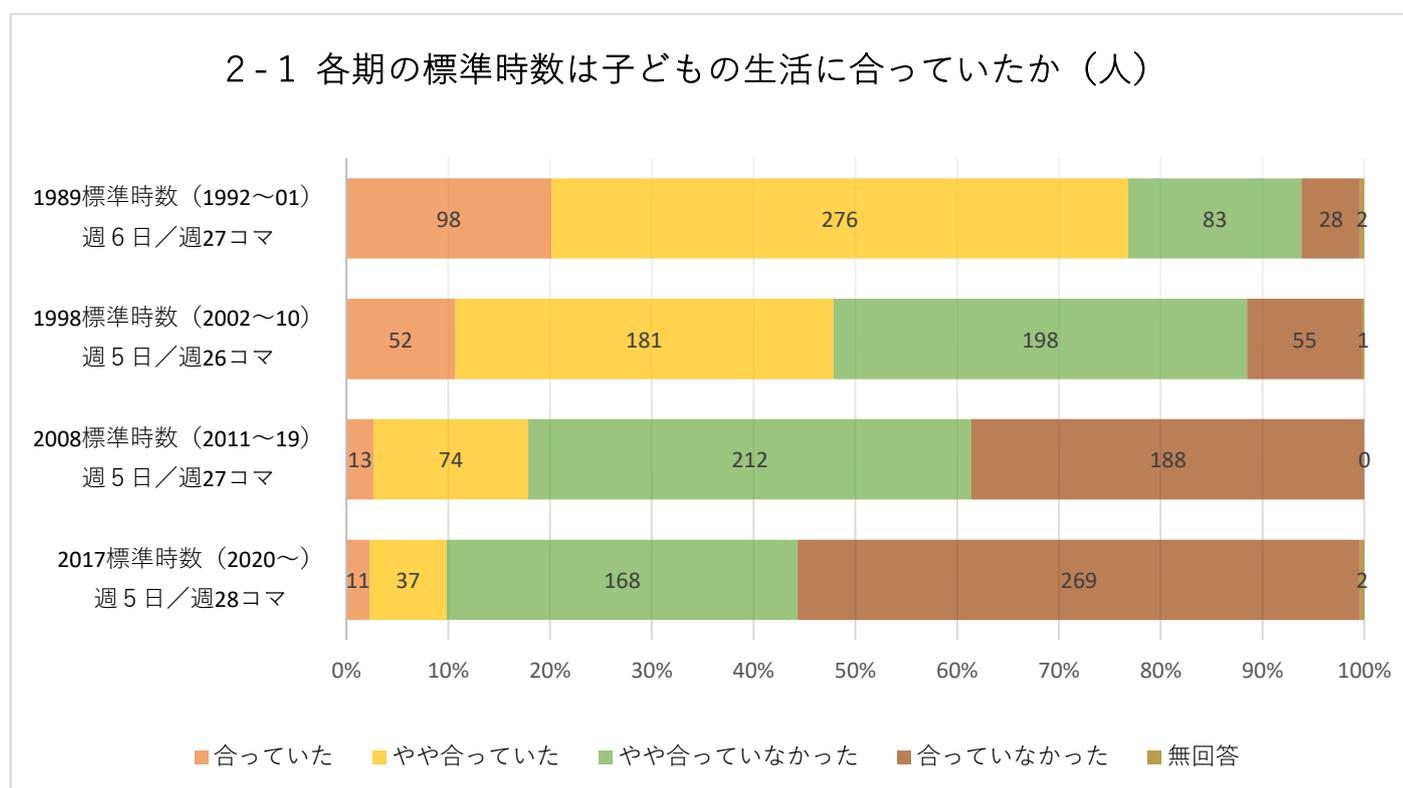
1-3 各回答のパーセンテージ（人）

子どもの生活に 合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答	回答 総数
1977 標準時数 (1980~91) 週6日/週27コマ	25.9% (76)	45.1% (132)	18.1% (53)	10.6% (31)	0.3% (1)	100% (293)
1989 標準時数 (1992~01) 週6日/週27コマ	20.8% (61)	48.5% (142)	21.2% (62)	9.2% (27)	0.3% (1)	100% (293)
1998 標準時数 (2002~10) 週5日/週26コマ	8.9% (26)	29.7% (87)	41.3% (121)	19.8% (58)	0.3% (1)	100% (293)
2008 標準時数 (2011~19) 週5日/週27コマ	5.1% (15)	12.3% (36)	43.7% (128)	38.9% (114)	0.0% (0)	100% (293)
2017 標準時数 (2020~) 週5日/週28コマ	5.1% (15)	5.8% (17)	35.5% (104)	53.2% (156)	0.3% (1)	100% (293)

子どもの学習は 充実していたか	充実してい た	やや充実し ていた	やや充実して いなかった	充実してい なかった	無回答	回答 総数
1977 標準時数 (1980～91) 週6日／週27コマ	32.8% (96)	50.5% (148)	13.3% (39)	3.1% (9)	0.3% (1)	100% (293)
1989 標準時数 (1992～01) 週6日／週27コマ	27.3% (80)	49.1% (144)	21.2% (62)	2.0% (6)	0.3% (1)	100% (293)
1998 標準時数 (2002～10) 週5日／週26コマ	8.2% (24)	36.2% (106)	42.0% (123)	13.3% (39)	0.3% (1)	100% (293)
2008 標準時数 (2011～19) 週5日／週27コマ	5.1% (15)	19.8% (58)	47.1% (138)	27.6% (81)	0.3% (1)	100% (293)
2017 標準時数 (2020～) 週5日／週28コマ	5.8% (17)	13.7% (40)	41.3% (121)	38.9% (114)	0.3% (1)	100% (293)

※週コマ数は特活を含まない

図表 2 1989・1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員487人の回答



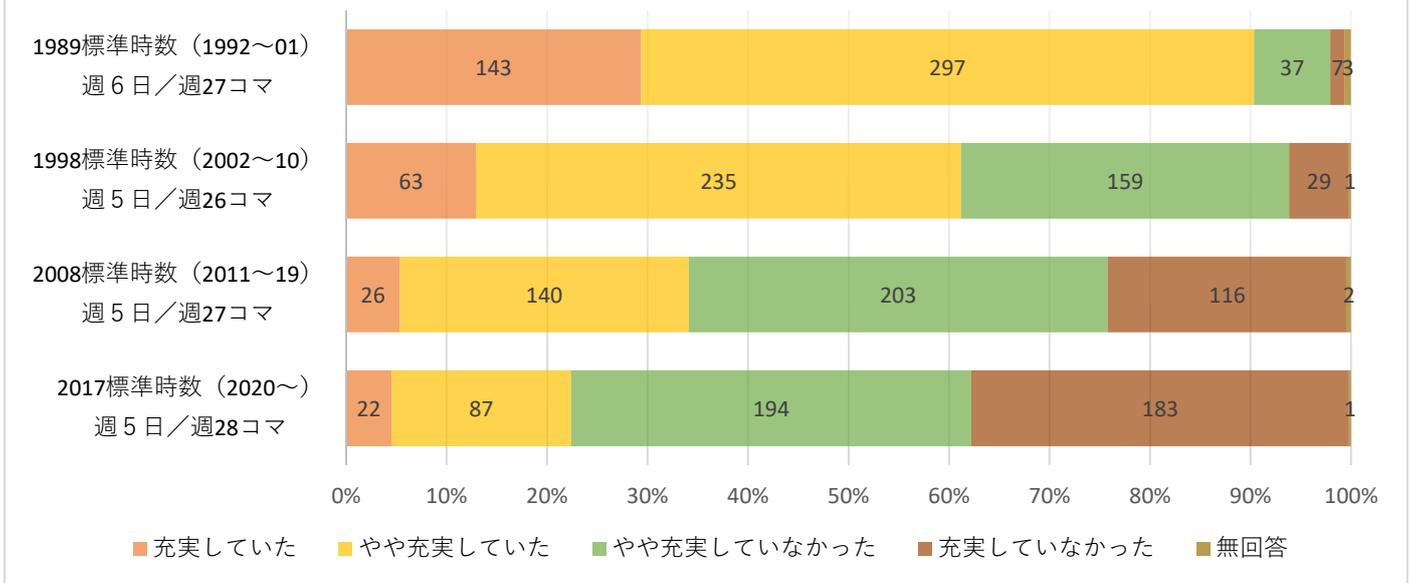
■4期経験者の回答にとくに注目したい。第1次ゆとりの1989標準時数から第2次「ゆとり」の1998標準時数の変化を経験し、かつ、その多くが現役の世代。2023年度におよそ44～53歳のベテラン教員。

■4期経験者は第1次ゆとりの1989標準時数の「合わない」が22.8% 高評価

■4期経験者は2017標準時数の「合わない」が89.7% 低評価

■4期経験者は第2次「ゆとり」の1998標準時数の「合わない」が52.0% 評価拮抗

2-2 各期の標準時数で子どもの学習は充実していたか（人）



■4期経験者は第1次ゆとりの1989標準時数の「充実しない」が9.0%

高評価

■4期経験者は2017標準時数の「充実しない」が77.4%

低評価

■4期経験者は第2次「ゆとり」の1998標準時数の「充実しない」が38.6%

評価拮抗

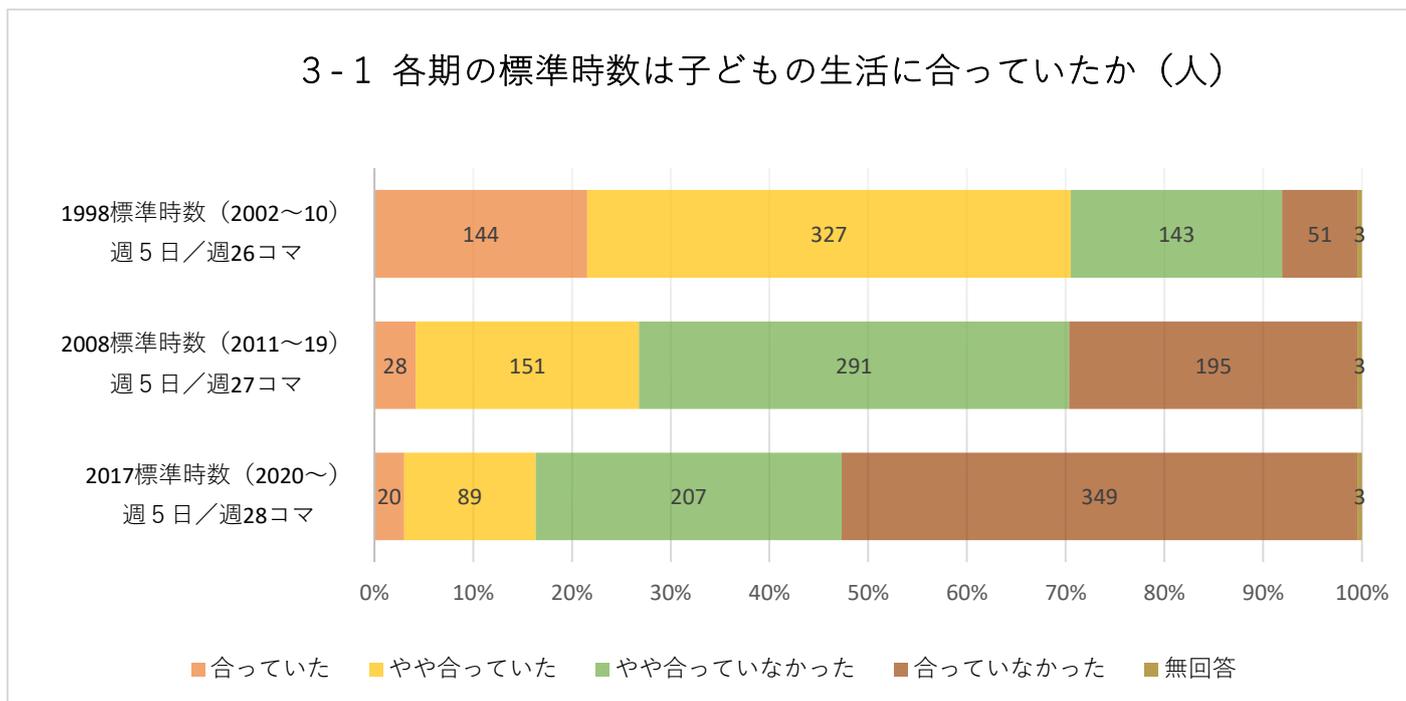
2-3 各回答のパーセンテージ（人）

子どもの生活に 合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答	回答 総数
1989 標準時数 (1992～01) 週6日／週27コマ	20.1% (98)	56.7% (276)	17.0% (83)	5.7% (28)	0.4% (2)	100% (487)
1998 標準時数 (2002～10) 週5日／週26コマ	10.7% (52)	37.2% (181)	40.7% (198)	11.3% (55)	0.2% (1)	100% (487)
2008 標準時数 (2011～19) 週5日／週27コマ	2.7% (13)	15.2% (74)	43.5% (212)	38.6% (188)	0.0% (0)	100% (487)
2017 標準時数 (2020～) 週5日／週28コマ	2.3% (11)	7.6% (37)	34.5% (168)	55.2% (269)	0.4% (2)	100% (487)

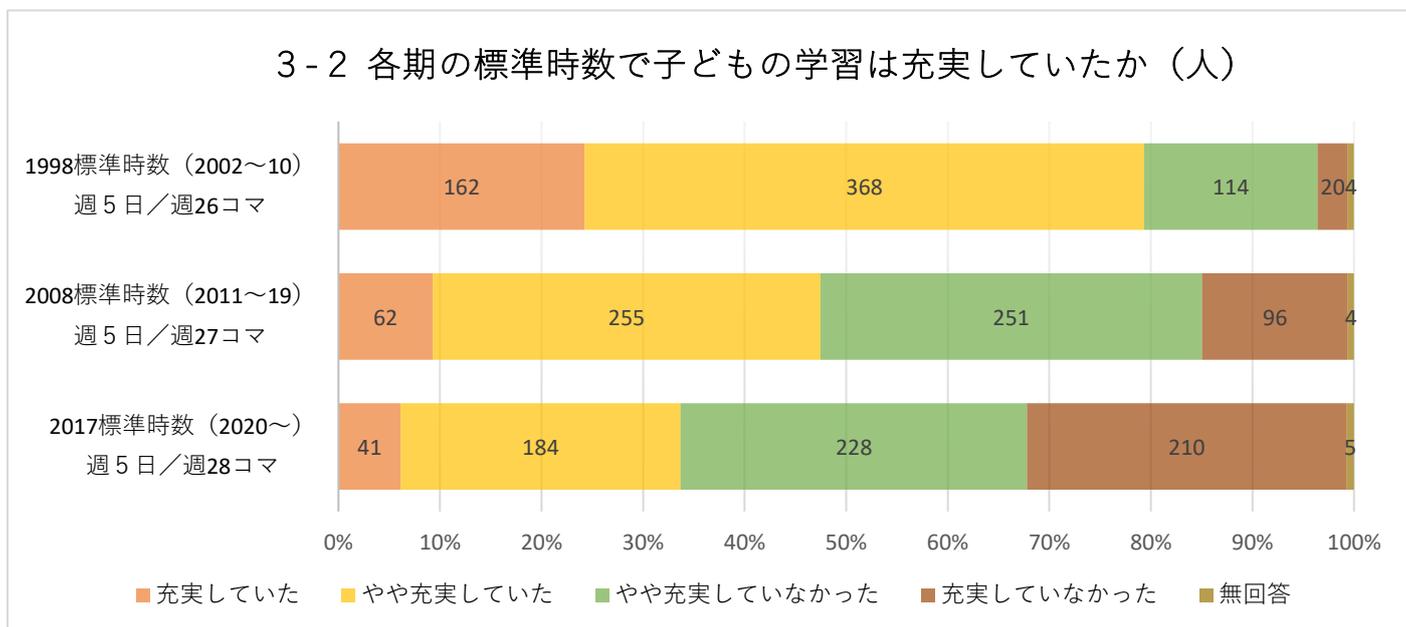
子どもの学習は 充実していたか	充実していた	やや充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった	無回答	回答 総数
1989 標準時数 (1992～01) 週6日／週27コマ	29.4% (143)	61.0% (297)	7.6% (37)	1.4% (7)	0.6% (3)	100% (487)
1998 標準時数 (2002～10) 週5日／週26コマ	12.9% (63)	48.3% (235)	32.6% (159)	6.0% (29)	0.2% (1)	100% (487)
2008 標準時数 (2011～19) 週5日／週27コマ	5.3% (26)	28.7% (140)	41.7% (203)	23.8% (116)	0.4% (2)	100% (487)
2017 標準時数 (2020～) 週5日／週28コマ	4.5% (22)	17.9% (87)	39.8% (194)	37.6% (183)	0.2% (1)	100% (487)

※週コマ数は特活を含まない

図表3 1998・2008・2017標準時数下で勤務した教員668人の回答



□ 「合わない」は1998標準時数が29.0%で最小、2017標準時数が83.2%で最大



□ 「充実しない」は1998標準時数が20.1%で最小、2017標準時数が65.6%で最大

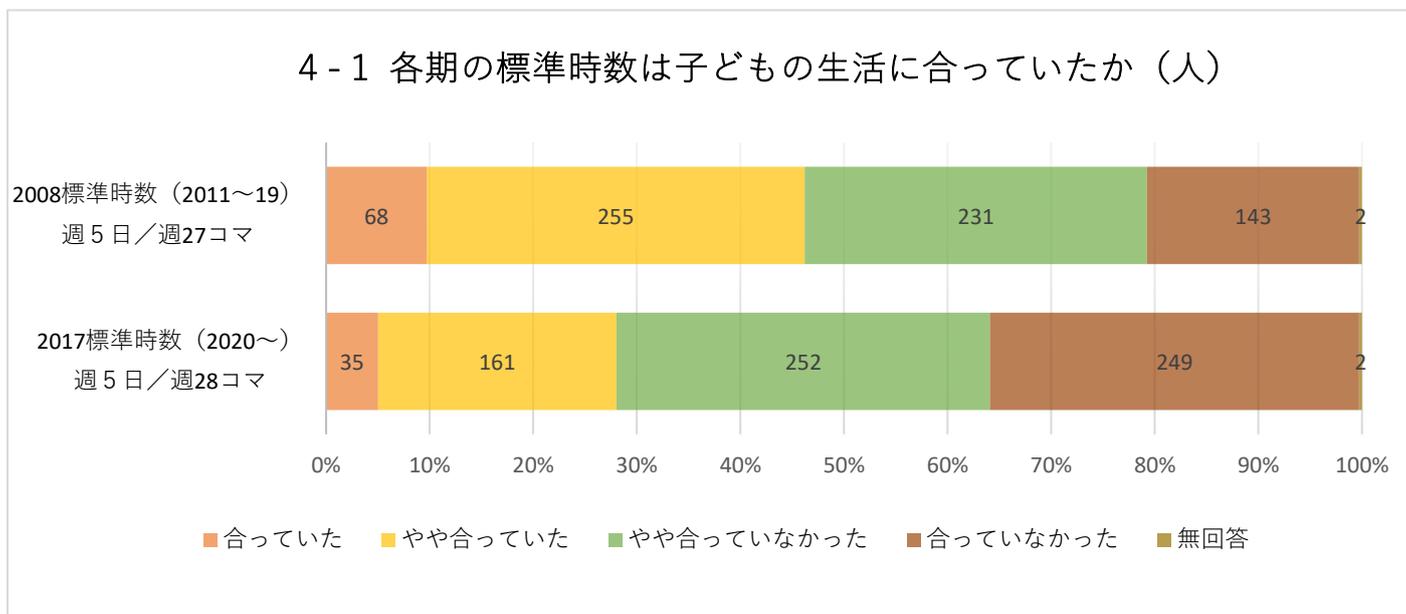
3-3 各回答のパーセンテージ（人）

子どもの生活に 合っていたか	合っていた	やや合っ ていた	やや合っ ていなかった	合ってい なかつた	無回答	回答 総数
1998 標準時数（2002～10） 週5日／週26コマ	21.6% (144)	49.0% (327)	21.4% (143)	7.6% (51)	0.4% (3)	100% (668)
2008 標準時数（2011～19） 週5日／週27コマ	4.2% (28)	22.6% (151)	43.6% (291)	29.2% (195)	0.4% (3)	100% (668)
2017 標準時数（2020～） 週5日／週28コマ	3.0% (20)	13.3% (89)	31.0% (207)	52.2% (349)	0.4% (3)	100% (668)

子どもの学習は 充実していたか	充実してい た	やや充実 していた	やや充実 して いなかった	充実してい なかつた	無回答	回答 総数
1998 標準時数（2002～10） 週5日／週26コマ	24.3% (162)	55.1% (368)	17.1% (114)	3.0% (20)	0.6% (4)	100% (668)
2008 標準時数（2011～19） 週5日／週27コマ	9.3% (62)	38.2% (255)	37.6% (251)	14.4% (96)	0.6% (4)	100% (668)
2017 標準時数（2020～） 週5日／週28コマ	6.1% (41)	27.5% (184)	34.1% (228)	31.4% (210)	0.7% (5)	100% (668)

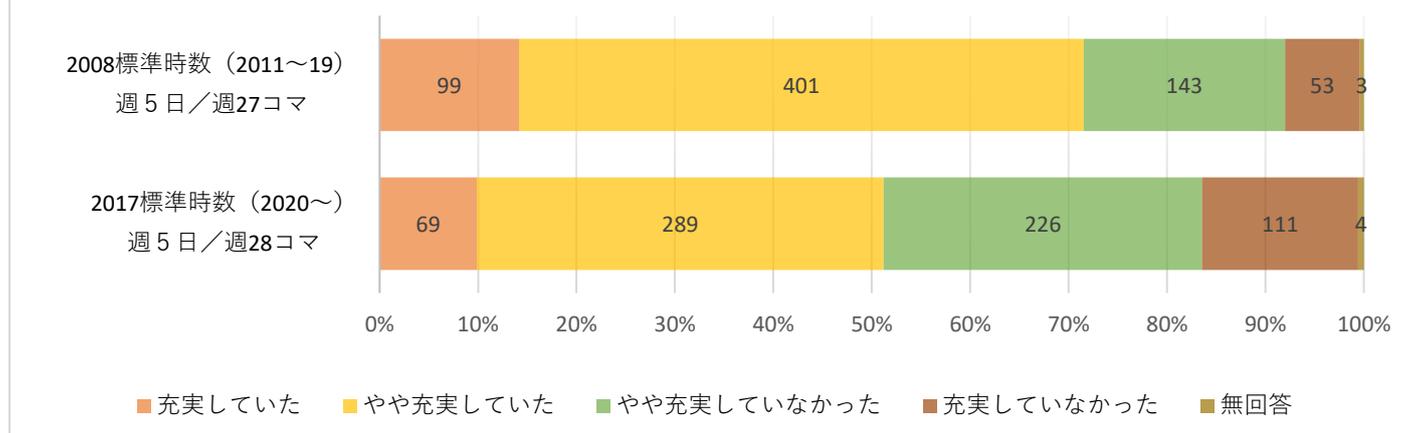
※週コマ数は特活を含まない

図表4 2008・2017標準時数下で勤務した教員699人の回答



□ 「合わない」は1998標準時数が53.5%で、2017標準時数が71.7%

4-2 各期の標準時数で子どもの学習は充実していたか（人）



□ 「充実しない」は1998標準時数が28.0%で、2017標準時数が48.2%

■ 2期経験者と1期経験者も2つの問いに対して2017標準時数をもっとも低く評価している

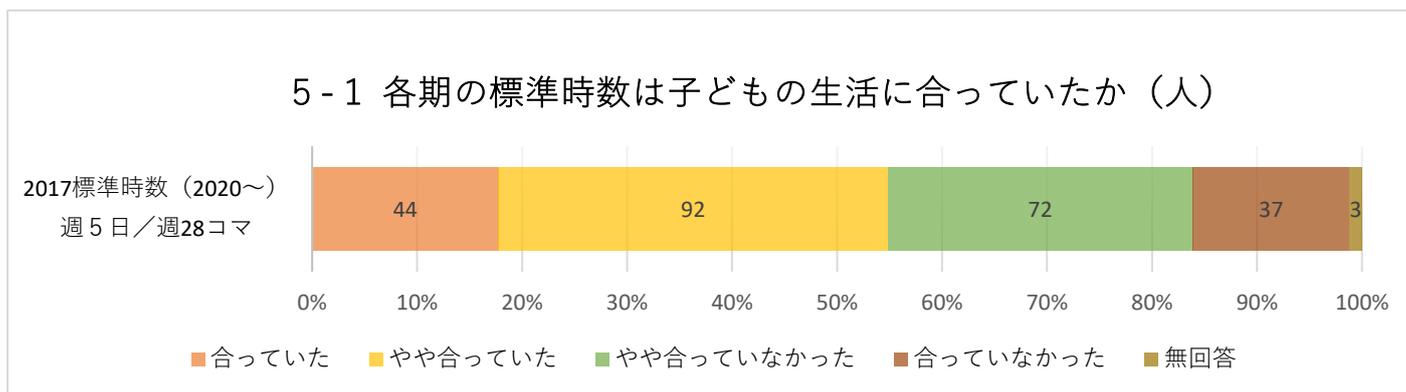
4-3 各回答のパーセンテージ（人）

子どもの生活に 合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていなかった	合っていなかった	無回答	回答 総数
2008 標準時数 (2011~19) 週5日／週27コマ	9.7% (68)	36.5% (255)	33.0% (231)	20.5% (143)	0.3% (2)	100% (699)
2017 標準時数 (2020~) 週5日／週28コマ	5.0% (35)	23.0% (161)	36.1% (252)	35.6% (249)	0.3% (2)	100% (699)

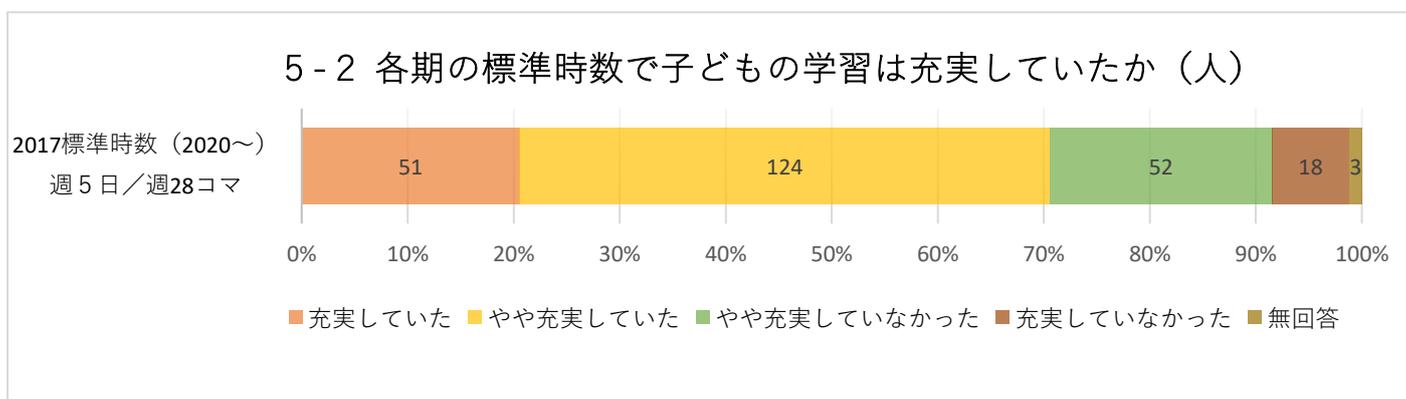
子どもの学習は 充実していたか	充実していた	やや充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった	無回答	回答 総数
2008 標準時数(2011~2019) 週5日／週28コマ	14.2% (99)	57.4% (401)	20.5% (143)	7.6% (53)	0.4% (3)	100% (699)
2017 標準時数 (2020~) 週5日／週27コマ	9.9% (69)	41.3% (289)	32.3% (226)	15.9% (111)	0.6% (4)	100% (699)

※週コマ数は特活を含まない

図表5 2017標準時数下で勤務した教員248人の回答



□ 「合わない」は 2017 標準時数が 44.0%



□ 「充実しない」は2017標準時数が 28.2%。

5-3 各回答のパーセンテージ (人)

子どもの生活に合っていたか	合っていた	やや合っていた	やや合っていないかった	合っていないかった	無回答	回答総数
2017 標準時数 (2020~) 週 5 日 / 週 28 コマ	17.7% (44)	37.1% (92)	29.0% (72)	14.9% (37)	1.2% (3)	100% (248)

子どもの学習は充実していたか	充実していた	やや充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった	無回答	回答総数
2017 標準時数 (2020~) 週 5 日 / 週 27 コマ	20.6% (51)	50.0% (124)	21.0% (52)	7.3% (18)	1.2% (3)	100% (248)

※週コマ数は特活を含まない

VI. 調査結果2 — 自由記述から

本調査では自由記述欄も設けた。有効な回答は1,136件あった。以下の項目ごとに回答を整理することにより見えてきたことを報告したい。1つの回答の中に複数の項目への言及がある場合は、そのいずれかの主題にその回答をふりわけている。なお回答者の特定につながる記述は〇〇市をA市に直すこと等をしている。

項目	件数	自由記述一覧頁
1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向	81件	22頁
2. 標準時数の量	447件	30頁
3. 内容量と時数の関係	183件	50頁
4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること	21件	61頁
5. 特別活動の標準時数が35しかないこと	11件	63頁
6. 時数編成の工夫	86件	64頁
7. 要望や提案	216件	72頁
8. 不登校との関係	20件	86頁
9. その他（本報告では割愛）	71件	
計	1,136件	

1. 標準時数を下回る編成を恐れる傾向

標準時数を上回る編成の具体例。5期経験者から。「A県では年間50時間超過時数の学校が多い」(22頁1098)。4期経験者から。「本校は6年生でいうと、年間時数が1095時間である。土曜授業が年間で10回」(23頁708)。「夏休み、わざわざ前倒し8月の何日かを授業日にする。そこまでして授業数を確保しなくても、授業数は確保できるのに」(24頁1025)。2期経験者から。「授業時数確保のために夏休みも1週間短くなった」(26頁49)。「夏休みは短く、始業式、終業式も給食を食べ午後から活動する。このように授業時数確保に躍起になりすぎて負担が増えている印象」(27頁127)。

標準時数を上回る編成が行われる原因について。管理職や主任に言及した回答。4期経験者から。「管理職は標準時数を超えて余裕をもった授業時数を確保しようとする」(23頁372)。3期経験者から。「標準時数を下回ることが許されないような雰囲気があり、教務、管理職ともにできるだけ授業時数を稼ごうとしている」(24頁27)。市町村教育委員会に言及した回答。3期経験者から。「現在週30コマあるのに加え、市から復習のためにモジュール時間の取り組みをするように言われている」(25頁483)。

なぜ管理職や市町村教育委員会は上回る編成を求めるのかを説明した回答もあった。5期経験者から。「「ゆとり教育」のアンチテーゼとしての「学力低下論」に後押しされるように「授業時数の確保」が至上命題となり、学校はどんどん忙しくなっていく。分刻みのスケジュールに加えて、「授業時数の確保」路線に忖度した地教委による過剰な「余剰時数」の上乗せ」(22頁735)。2期経験者から。「全国学力調査に始まる、各都道府県独自の学力調査への対応に労力が注がれ、「時数を減らしたら学力調査の点数が下がる」という強迫観念が現場を覆っている」(28頁790)。

2. 標準時数の量

5期経験者から。「低学年の5時間、高学年の6時間の多さが子どもたちにゆとりをなくしていると感じます」(30頁200)。「1日6時間の授業に苦痛を感じる児童もいます」(31頁701)。「6時間が増え、どんどん日々教師児童とも忙しくなり授業の準備時間や対話時間が減り、1時間の授業を充実させることが難しくなってきた気がします」(32頁956)。

4期経験者から。「今年の夏は特に熱く、午後の学習が難しいくらいでした。」「子どもたちも教員も、暑さで参って

いました。そのような時にすぐに午前授業にしたり、学級閉鎖などがあっても心配のないぐらいの必要時数、及び学習内容であれば良いのではと思います(35頁512)。「子どもは8時から16時近くまで学校で過ごしている。6時間目など疲れて国語などは実が入らない(33頁132)。「授業準備をする時間がありません。しかも複式学級で2学年分です。児童の下校時刻の10分後に休憩時間開始です。休憩時間は無いものと同じです(34頁397)。「授業時数が多く子どもたちが疲弊しているように感じる。6時間目は、集中力もなく形だけの学習になりがちだと思う(37頁1048)。「児童の放課後の時間がほぼなくなった。昔は欠席して学習が遅れた子や、授業中に理解できなかった子を居残り勉強させることができたが、今は授業が終わると下校時刻になってしまう」「放課後に、のんびりと子どもたちと他愛のない話をして、ゆったり過ごす余裕はない(37頁1109)。

3期経験者から。「週6時間が続くのは、児童にとって負担に感じると思う(40頁445)。「子どもも大人もつかれがひどい(40頁454)。「時数が多ければ学力が伸びるというものではない(41頁679)。「子どもたちに毎日6時間は負担が大きい。放課後の子どもの世界から学ぶものがたくさんあるはず(自分で時間の使い方を決める、友だちとの関わり等)。もっと子どもたちに放課後の自由時間を増やしてあげることが、子どもの自主性や協調性を育てることにつながると感じている(42頁842)。

2期経験者から。「6時間授業は子どもが集中できなく、時間ももったいない気がします(45頁219)。「時数と学力に相関性があるのかは甚だ疑問である(45頁426)。「今の時数では、これからも働き続けられない(46頁547)。

3. 内容量と時数の関係

5期経験者から。「時数が多すぎるだけでなく、学習内容も難しくなり、内容が定着できない子どもが増えた(50頁605)。「教師一人当たりの授業時数も多いが、授業時間に収まり切れない内容も押し付けられてきたと感じている。それはずっと改善されておらず、教師の工夫に頼ってきた。元々不可能なことを何とか辻褃を合わせてきた実態を教育政策に携わる方々に知っていただきたい(51頁810)。

4期経験者から。「時数もそうだが、教えるべき内容が多くなってきているので、だんだん窮屈になってきた(52頁449)。「させるべきことが多すぎる。こなせる子はいいが、低位の子はつらそう(52頁770)。「どんどんやることが増えていて、授業にゆとりがない。とにかくどんどん終わらせないと時間が足りない(52頁772)。「標準時数通りでは、指導要領の内容や教科書の内容が終わらない(53頁923)。

3期経験者から。「今の標準時数と履修内容はオーバーすぎて、子どもが荒れています。それに対応する教師は精神的にも肉体的にもやられ、それを証拠に毎年欠員がでている次第です(54頁95)。「子どもたちにとって、多すぎる内容を詰め込んでいるため、消化不良のまま、すぎていると思います(55頁510)。「こんなに年々時数を増やしていたのか、と驚きました。何か辛いなあということの積み重ねですね。時数は増えるけど、指導内容も増えるので、時間が増えても内容は薄いという矛盾した状態が引き起こされている(56頁904)。

2期経験者から。「時数が足りません。やることばかり増えて、教科書が終わりません(57頁203)。

4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること

5期経験者から。「毎週時間割を作成し配布する時間が増えた(61頁488)。「時間割の固定ができず、時数集計が複雑になり、教科の進度の調整が面倒になった(61頁494)。「時間割が組みにくく交換授業が行いにくい(61頁562)。「A週B週等時間割が複雑になった(61頁619)。「週あたりの時数が35の倍数でなくなったときから、毎週時間割を組む作業が入り、多忙化の一翼を担っていた(61頁922)。

4期経験者から。「時間割が毎週同じだった時代は、今よりずっと事務的作業が少なかった。余計な配慮余計な計算余計な作業に時間を取られている(61頁486)。「35週で考えられているので、35で割り切れる時数にしてほしい。子供たちのリズムがあちこち行くので、忘れ物などが多くなる(61頁812)。「35週で割り切れなくなった時から、時数集計の業務の負担がものすごく大きくなった(61頁1113)。「1コマを複数教科で分けなくてもいいように

すべき」(61頁1118)。

いずれも割り切れていた標準時数を経験していない3期経験者からも。「割り切れない時数は、煩雑化をより推し進める」(61頁382)。「教科担任制を導入するには、各教科、週数あたりの時数に端数が出ないほうが運用しやすい」(61頁691)。「毎週、時間割を作るのが大変なので、毎週同じ時間割でできる時数だと教員の業務負担が減ると思います」(62頁868)。

1期経験者からも。35で「割れない週数のため毎週教科が変わるのは子どもにとって良くない」(62頁1008)。

5. 特別活動の標準時数が35しかないこと

5期経験者から。児童会活動やクラブ活動を「時数外にプラスで入れなければ実施できなく」なり、そのことが「実質時数増」を招いた(63頁102)。学習指導要領で児童会活動やクラブ活動を求めながら「時数の保障がされていないことが納得いかない」(63頁713)。

3期経験者から。「自治的な活動が、子どもの休み時間を平然と削って行われる」ことを招いている(63頁110)。

「休み時間にも」児童会活動が行われている(63頁887)。

2期経験者から。「教科の時間を使って行事や特別活動に取り組まなければならない状況が1年を通してあるので、教師も子供も落ち着いて勉強できる時間がほとんどない」(63頁75)。

6. 時数編成の工夫

モジュール

5期経験者から。「時数を確保するために、モジュールを活用していましたが、端数の計算が面倒で、時数票を提出する時期は、憂鬱だったことを覚えています」(64頁1009)。4期経験者から。「管理職が、モジュールを時数として認めません。実際に朝学で漢字学習していますが、何のカウントにもならない時間になっています」(64頁93)。「朝にモジュール15分×3回で1時間にしています。全学年木曜日は5時間目までです」(64頁105)。3期経験者から。「6時間目を1日減らすために15分ずつの短期間学習を入れたことで逆に余裕がなくなってしまった」(67頁538)。

特活の削減

5期経験者から。「高学年がほとんど6時間授業になることで、放課後の余裕はなく、クラブ、委員会活動は縮小。学校行事も縮小になり、子どもたちが楽しみにしているものを減らすことになった」(64頁422)。

余剰時数の活用

3期経験者から。「標準時数が増加し、かつ必ずクリアしなければならないものとして扱われたことから、予備時数確保のために授業日数・総授業時数は増加の一途をたどりました。しかしここ数年で、やむをえない事情で標準時数に達しない教科があったとしても、そのことのみをもって法令違反とはしない、という文科省の通知が出されたことによって、余剰時数を抑え総授業時数を削減する教育課程編成が可能になりました。これにより、現任校では行事の見直しと併せて週時数を削減し、最大週28コマで運用しています。ただし、その分各教科の標準時数をより適切に管理する必要あるため、そちらに労力を割かざるを得ません」(67頁374)。

7. 要望や提案

標準時数は子どものために減らすべきとの意見が多数。4期経験者から。「小学生に6時間授業は長すぎる。集中力も続かず落ち着きもなくなり非効率」(75頁480)。教員のためにも減らすべとの意見も多数。4期経験者から。「週あたり、授業時数を詰め込むだけ詰め込んで、子どもたちと語らう放課後の時間も無くなった。職員会議の時間さえ生み出せない、放課後の打ち合わせもできない。そして、埋められないその時間は、超過勤務となって職員の心と身体健康まで奪うように」(74頁253)。

その削減幅について。5期経験者から。「6時間の日を減らすことが、必要」(72頁334)。3期経験者から。「今の時

代、毎日5時間授業が、子ども教師もゆとりをもって生活できるのではないのでしょうか」(81頁1053)。こうした意見が多かった。5期経験者から、「週時数は、28以内」という意見もあったが、そこには「学校行事や児童会活動なども含む」(73頁586)との但し書きがあった。

「時間割を組む作業」を考えて標準時数は「35で割り切れること」(73頁586)との意見も5期経験者ほかからあった。

8. 不登校との関係

5期経験者から。「不登校が増えたのも、日常のゆとりが減ったことは関係ないとは言えない」(86頁365)。

4期経験者から。「時数は増えたが、内容を詰め込みすぎて、子どもたちの中には、途中から、ついていけない子も。そこから学校に行きにくくなる子もいます」(86頁676)。「以前は放課後がゆったりしていたので、児童もリラックスして色々語り合っていた。そこで信頼関係も深まり、実は不登校も防げていたのでは…と思う」(86頁1042)。

3期経験者から。「毎日、6時間目までの授業、その後に習い事で子どもたちの余裕がありません。その結果、精神的に荒れたり不登校になったりしているように思います」(87頁838)。

2期経験者から。「不登校傾向の児童たちは、コロナの影響で行った分散登校や4時間目までの日は、登校することができていた。そのことから、今の子供たちにとって、6時間がたくさんある標準時数は、しんどいように思える」(87頁920)。

以上

Ⅶ. 自由記述一覧

1. 標準時数を下回る時数編成を恐れる動き 81件

整理番号	77年標準時数 下で勤務	89年標準時数 下で勤務	98年標準時数 下で勤務	08年標準時数 下で勤務	17年標準時数 下で勤務	自由記述
98	○	○	○	○	○	授業時数集計を正直に申告すると管理職や市教委から指導が入り、結局は虚偽の申告をすることになるから全く無意味。それよりかは正確な時数を報告させ文科省で検討材料にさせるべきだ
484	○	○	○	○	○	時数が多すぎる。また、学習内容も多く、英語やICTなど多岐に渡り、子ども教師も内容消化に追われている。放課後の時間がなく、会議が入ると授業準備、教材研究、学年での打ち合わせができず、満足な授業が出来にくくなった。A市は更に余裕時数として、標準時数より増やしているの、更に時間ばかりが取られている。5日制導入前の方が放課後にゆとりがあり、ゆったり同僚と話ができたり、子どもを残して個別指導なども行うことができた。5時から良くお茶を飲みに行ったりしていた。学習内容を精選し、時数を減らし、教師も子どもも放課後の時間を増やすべきだと思う。
735	○	○	○	○	○	「ゆとり教育」のアンチテーゼとしての「学力低下論」に後押しされるように「授業時数の確保」が至上命題となり、学校はどんどん忙しく窮屈な場所になっていった。分刻みのスケジュールに加えて、「授業時数の確保」路線に忖度した地教委による過剰な「余剰時間」の上乗せ、社会的、政治的要請による「〇〇教育」（例えば、放射線教育）の実施を求められるなど、学校という限られた器の中にあれもこれも盛り込んだ結果が、現在の学校の危機的な状況を招いている。文科省や地教委は、「授業時数の確保」が「学力向上」に必ずしも結びつかなかった事実を直視し、子どもにとって、そこで働く教職員やすべての職員にとって持続可能な学びの場として、いきいきとやりがいを持って働くことのできる場として再生させなければならない。
817	○	○	○	○	○	標準時数も大切だが、教科書の内容が多すぎる。教科書会社は選択してもらうため、内容の充実を図るが、必要以上の内容が教科書に載っている。我々はそれを取捨選択すればいいのだが、保護者は教科書の内容をすべて教えてもらう事が当たり前と考えている。教えなければ「手抜きだ」とクレームの嵐になる。だからと言って学校がそれをしようとするれば、当然標準時間数では足りなくなるので、余剰時間を計上することになる。または、子どもの理解よりも時間数と内容を無理に合わせてしまう傾向になる。時間数をとやかいう前に、教科書に載せるべき内容の精選をしていかないと、無理が生じるに決まっている。
870	○	○	○	○	○	標準時数を確保するために、多めの時間割で、行われて来ましたが、臨時休校などのために、特別にやらなくてはいいいという確認が、現場と行政とでなされていますが、現場は、多めの課程をくんでいます。
1060	○	○	○	○	○	そもそも、42週あるのにどうして35週で割るのか。標準なのに「超えなければいけない」という圧力が強すぎるのはなぜか。悪天候や流感等による学校学級閉鎖に備えるとしても、実際に閉鎖がなかった年は3月にはやる事がなくなった。今のほぼ毎日6時間では、子どもが趣味や遊びに使え時間が無い。
1098	○	○	○	○	○	A県では、年間50時間超過時数の学校が多い。全国学力テスト対策に追われて、教員ともに疲れている。
1114	○	○	○	○	○	学校5日制で、毎日6時間授業は子どもの疲労度も大きい。標準時数が多すぎるということになる。また、余時数が40時間以上とられているので、より余裕がなくなっている。

2		○	○	○	○	標準時数より、何時間も多く、授業をしています。しかし、学習内容は、煩雑&量が多いので、学習内容の理解度は、低いと思います。
10		○	○	○	○	A県は、標準時数に上乗せして余剰時数を確保する傾向が強い。
18		○	○	○	○	標準の意味が分かってる?と言いたい。エアコンが入る前、暑くても寒くても、子どもや教職員の命より大事なのは時数厳守。エアコン入ったら、夏休みカットして授業時数増やす。小1は、全て5時間で空き時間無し。小2は、6時間授業もあり、空き時間無し。子どもも担任も疲れ果てています。小6は、時数が足りなくかもと、台風や大雪でも、なかなか休校になりません。今なお、命より大事なのは標準時数厳守!です、現場では、
170		○	○	○	○	標準時数が1時間たりとも下回ってはいけないノルマとなっている現在、絶対に下回らないように、余剰時数を大量にして計画をしています。結果的に、授業以外では子どもと向き合うことが少なくなり、授業に追われ、膨大な残業と、持ち帰り仕事を抱える状況となっています。教員の増員と、標準時数削減を実現できるようにして欲しいと心から望みます。
372		○	○	○	○	余剰時数の考え方が学校ごとに異なるため、勤務校によっては年間の授業時数が異なる。教員の働き方に直結するため多忙な学校は多忙なまま。少し余裕もっている学校と多忙な学校の差がある。6時間目まで授業があるということは放課後の業務時間が短くなるということ。退勤時刻や勤務時間の議論になりがちだが、授業時数と勤務時間、業務内容の全体を考えなければならない。しかし、管理職は標準時数超えて余裕をもった授業時数を確保しようとする。標準時数という名称だが、実質「最低時数」として1コマも下回ることは許されない状況に問題がある感じている。委員会やクラブ、行事なども文科省は時数明示していないためどんなに教育課程を圧迫していると感じても、削減や廃止すること不可能。職員定数増やして業務量減らすか、授業時数減らして業務量減らすか。給料を増やせないならどちらかに取り組んでほしい。授業時数が増えて、放課後に授業準備もできない。授業の質は低下しがち。真面目な教師ほど時間外に授業の準備している。準備の少ない授業をしている教員はたくさんいます。体調や家庭事情などやむを得ない理由の教員も多い。勤務時間外に教材研究や保護者対応している。夏休みや冬休みがあるのは良いことだが、平日の忙しさを考えると長期休業を短くするしかないという教員もいる。一方、年度末年度始め休業は行うべき業務が多いため、最低でも2週間(勤務日のカウントで12日くらい)必要である。標準時数、長期休業、授業日数、放課後業務、職員定数、学級の児童数など全て学校制度・教育制度を改善しなければならないと感じている。子どもにとって必要な教育は現在できていない。教員も限界超えている。
447		○	○	○	○	標準時数が多すぎるし、加えて余裕時数確保…、どう考えても、現行が異常としか言いようがない。
544		○	○	○	○	余剰時数を確保することが当たり前になってしまっているため、標準時数が増えると、当然6時間授業が増える。余剰数はあってもゆとりはない。学習内容もほんとに必要なかどうか検証が必要だと強く感じる。
708		○	○	○	○	本校は、6年生でいうと、年間時数が1095時間である。土曜授業が年間で10回あり、30時間多くなるが、メリットを感じない。校外行事(市の綱引き大会)に向けての練習や出前授業などもあり、とても忙しい。もっと精選していけたらと思う。
720		○	○	○	○	だんだんと児童、教員ともに余裕や余白がなく、急かされていく印象がある。標準時数で、年間の授業時数が組まれているわけではなく、余剰時数、ゆとりの時間として、上乗せされた時間で運用している現状。臨時休校対策や学習補充のためだが、放課後の児童の時間を削り、教職員の休憩時間を全く取ることのできない勤務時間となっており、現場の疲弊感は解消されることのない状況。教員の責任感に頼るこの勤務に、心身の疲労が抜けない日々。

731		○	○	○	○	余裕のない、だんだん、ギスギスした学校になってきた。標準時数より、何十時間も多く授業を取っている学校ばかり!標準時数は、あってないようなもの。工夫したくても、学校長の一声で無くなる。管理職の意識を高めないとだめ!
871		○	○	○	○	標準と言いながら、その数を下回ってはいけない。さらには42週分の予定時数を下回ってはならないという指導が入り、ここ15年くらいは標準時数をかなり上回った授業時間数を行っています。天候悪化の臨時休業や学級閉鎖などがあると、毎日一時間増やして授業をしたり、長期休業中に授業日を設けたりしています。そのため現場では数に縛られ続け労働意欲が失われることもしばしばあります。さらに、単元の予定時間数を下回ってはいけないという指導もあり、自由な授業展開は難しくなっていると感じます
886		○	○	○	○	もう少し余裕があってもよいのではと思う。時数を確保するために、高学年は6時間目までびっしりだが、5時間で下校できる日を増やしたい。また、低学年は4時間の日があってもよいと思う。
1004		○	○	○	○	標準と謳いながら、下まわる事は許されないこと。
1025		○	○	○	○	標準時数をはるかに上回ってまで 授業時数を確保することが必要かと毎年おもう。バスでの下校のため、低学年が6時間目まで毎日居る その負担が大きい。夏休み わざわざ 前倒し8月の何日かを 授業日にする。そこまでして 授業数を確保しなくても 授業数は確保できるのに、警報が出た時のためとかで 授業数を確保することが必要なのか、と思います。
1046		○	○	○	○	余剰時数をどこまで確保すればよいのか示されないのかわからない。
1064		○	○	○	○	標準と言いながら最低になっており、必要以上に余時数を取っている。
1116		○	○	○	○	週時が数が決められ、年間時数が標準時数を大幅にこえても時数を削減することなくすすめられていた。放課後個別対応してあげたい児童がいても対応できない状況。週時数の他にたいていの小学校では毎日朝学習を10分程度とるので、見えない学習時間があるのではないのでしょうか。
1121		○	○	○	○	週休二日制の前の隔週で土曜日が休みの時は、余裕があったような気がします。今、時数に踊らされて、精神的にも体力的にも、一日の余裕が無くなっているような気がします。35週と言いながら、実質は40週をしていて、余時数がたくさんでも足りないような雰囲気になっています。なんか、時数、時数と言いながら、規定以上を守っているのが真面目な日本人の良さなのか、悪いところなのか、変だなあと思っています。確か、標準時数は目安であって、必ずその時数でなければならないのではないと聞いていたのですが、どうだったのか、今ではよくわかりません。
27			○	○	○	標準時数を下回ることが許されない雰囲気があり、教務、管理職ともにできるだけ授業時数を稼ごうとしている。(始業式の日について、一昔前は3時間授業だが、4時間授業にするなど)。教科内容が多岐に渡るため、ゆとりを持って授業計画が立てられない。さまざまな○○教育が積み重なっていくため、標準時数が下げられないのではないかと。

72			○	○	○	教育委員会より、標準時間数を超えなければ、次年度の夏休みを削って授業時数を確保するなど言われた。毎年、大幅にクリアしているのにも関わらず、インフルエンザ、コロナ感染のため学級閉鎖などあることを考えて、結局は削る事なくて必死にほぼ毎日6時間授業を網羅する。学級閉鎖等は、別に考えても良いと言われていても、授業時数のカウントを各自でさせられ、不安な気持ちになって、結局、大幅に超える授業をしている。小学校では6時間授業をしても結局子ども達もしんどそうにするだけ、午後に国語や算数の授業はきついため、午前中に5教科が偏る。毎日6時間目までとなると、放課後は既に定時退勤時間間近のため、定時に帰ったことが、余程の用事がある時以外ない。授業準備ができない。授業時数について文科省も見直すなど声がかがっているが、現場の忙しさはそれだけで解決できない。末端の現場の職員の仕事は一体どこまでをさせるべきなのか、真剣に考えて、提示して下さい。定時退勤日という日を作られても、結局仕事は減らず。みんな仕事してます。超過勤務を結局させられているが管理職や教育委員会は一応声はかけているが個人の判断でやってるからしょうがない的で済ましている。現場の実態を文科省の誰が本当にわかっているのか。いつも疑問に思います。抜本的な改革を望みます。
117			○	○	○	標準時数は多い。教員の負担にもなっている。さらに、標準時数を超えた計画をしているところもある。見直しを進めてほしい
129			○	○	○	標準時数が増える中で、学校はそれを大幅に超えた時数をこなしている。それにより、教職員は多忙化し、教材研究が十分にできないほどに疲弊している。時数を増やしても、有意義な教育活動ができていないのか、甚だ疑問である。また、授業をカットして校内全体で研修体制をとらない校長もあり、さらに教職員の見聞が深まりにくい状況が生まれている。
140			○	○	○	現代は、標準時数自体が多いのに加え、現場では何かあったときのための「余時数」を数十時間確保しようとするため、実際はもっともっと多い時数をこなしています。今の子どもは放課後活動も忙しく、子どもも大人も疲弊しています。本当に無駄をなくしていきたいです。
157			○	○	○	時間が多すぎる。授業時間が多のに、内容が終わらない。時数を上回らなければならない報告に追われる。
165			○	○	○	コロナで「標準時数を超えなくても良い」という文科省の見解が出ていたが、標準時数をクリアするために長期休みを削ったり、「7時間目」をやったりしていたので、「教科書が終わるなら時数を超えなくても良い」という雰囲気になって欲しい。天候による臨時休校に備えて予備時数を多く取る傾向がある。学校にもよるが低学年だと100時間近くなることもあったのでそれは問題だと思う。一方で、高学年で予備時数が少ないと習熟の時間や学級で自由に使える時間が無いのでつらい。小学校教員としては、学級・学年で自由に使える時間が年々減っていると感じる。いわゆる「お楽しみ会」のような学級独自で企画して楽しむ活動が難しくなっているので、今の子どもは本当にかわいそうだなと思います。
351			○	○	○	高学年は週30コマの週が多く、子どもも教師も疲弊している。天候やインフルエンザなどによる臨休を見越した分を上乗せして時数を取っているため、結果として標準時数より多くなっている。
439			○	○	○	標準時数をクリアすること、に注力するあまり、柔軟性がまったくなく、裁量の余地もなく、息が詰まる思いをしている、していた印象です。
483			○	○	○	現在週30コマあるのに加え、市から復習のためにモジュール時間の取り組みをするように言われている。カリキュラムの中でしっかり復習の時間をとっているのに、さらに上乗せとなると、時数が増えることになる。このような、時代に逆行したことを市で推し進めていることへの理解が到底できない。標準時数を過剰に上回る余剰時数をとらないことについて、もっと文科省に厳しく指示を出してほしい。学習指導要領から外れた内容をいろいろ実施しすぎて、子どもも大変そうだ。

503			○	○	○	標準時数を下回ってはいけないということが頻りに言われ、数十時間の余剰を設けていることが、近隣の学校で常態化している。やらなくて良い時間が、正式にやらなくてはいけない時間とされており、無駄に感じる。
549			○	○	○	授業をする教員に相談なく、教務や管理職の考えだけで時数を決めるのはおかしいと思う。
651			○	○	○	A市の教員です。とにかく時数が多すぎます。習い事、塾など、放課後も忙しい小学生。今は四年生でも水曜以外は6時間授業、水曜日でも5時間授業とへとへとです。教員も空き時間は音楽専科の2時間のみ。週27時間の授業は準備する時間が取れません。中学校と違い、同じ授業を二度やれないので準備が追いつきません。それだけではない教員の仕事も多く、学年が1.2クラスしかない超小規模校では、公務分掌も多いのです。学年主任か学年会計をかならずやる。学年だよりは2回に一回回ってくる。単級の場合は毎月です。それにホームページの更新も毎月しなければならぬ。でも残業手当は出ない。もう限界です。授業数を減らせないのなら、専科を増やしてほしいです。特別教室がある教科は、専科が必要だと思います。理科、家庭科、図工、体育、そして外国語です。専門的知識、技能が必要です。特に高学年の理科は実験の準備、片付けが必要だけでなく、危険なものもあり、それを担任1人で35人の児童と行うのは無理があります。安全を確保できません。それでもなにかあれば、責任を取らされるのは担任です。また、標準時数を下回らないために、『余剰時間』というのがあります。台風や学級閉鎖で学校が休みになった際のための予備です。これが30時間以上あります、つまり5日分です。これも、もう少し減らせないのか。時数さえこなせば良いのか。時数を越えられなくても、学習内容をしっかり終えられれば良いのではないのか。時数にこだわりすぎ、授業の日数が増えていることも教員の疲弊につながっています。残業代が出ないなら、有給を増やして、もう少し休めやすくする方法もあります。学校閉庁日も年休を取らないといけないので、閉庁日の意味がありません。年休を取らずに休める日を増やしたり、年休自体を増やすなど、お金をかけずに教員の働き方を変える方法はいくつもあります。現場の現状を知っていただき、検討を宜しくお願い致します。
723			○	○	○	標準時数に対して、学級閉鎖時に不足することを予想して「余剰時間」が設定されています。その時間が学校によって差があること、「最低30時間くらいはほしい」と管理職から催促されること、時数が増えても専科の教員は増えず、担任の負担が増えることなど、よいことはありません。子どもも1週間毎日6時間と、気の抜ける曜日がありません。「標準時数」は超えなくてもよいということを経験させていただき、子どもと教員の負担を少しでも減らしてほしいと思います。
824			○	○	○	そもそも災害等を想定して、標準時数を上回る設定をしている自治体が多く、夏期休業期間などを短くしているなど弊害が大きいと思う。 学校行事に多くの時数をとられて、本来の教科の時間が削られて、時数が足りなくなる。行事の精選、内容の簡素化は必須だと思う。 学習指導要領の内容の精選も必要だと思う。朝、8時前には学校に来て、3時半過ぎまで学校でびっしり学習をするのは、子どもにとっても負担は、大きい。
875			○	○	○	インフルエンザの学級閉鎖の回復で、1週間ほど7時間授業のことがあった。尋常ではなかった。
949			○	○	○	時数が取り切れず、7時間目を週に1時間とっていた。10年以上前
1003			○	○	○	標準時数自体はそんなに問題ではなかった印象ですが、数年前まで、予備時数を多く取り過ぎていると感じました。つまり、標準を上回ってたくさん授業をしていたということです。6時間も多く、それは子供も大人も負担が大きいと思いました。このところ、予備時数を減らしていく流れがあるので、それはよいことだと思っています。
1032			○	○	○	昔の方が、時数が少ないのに長期休暇が多く、今は毎日たくさん勉強しているのに夏休みが少ない。海外と比べてどうなんだろうと考えてしまいます。
1034			○	○	○	時数が増えすぎています。余時数もありすぎます。
49			○	○	○	授業時間数確保のために夏休みも1週間短くなった。多忙化も教職員の負担増も解消させるどころか重圧が高くなっていると感じる。

88				○	○	根拠のない不安から工夫することを恐れて大は小を兼ねるというカリキュラム編成がなされている現場は多いと思います。その不安を消し去るための工夫をする時間の捻出もできないような状態になっているんだろうかと思いました。
96				○	○	時数を増やそうとする工夫に関しては積極的に取り入れようとする(月曜6校時の日に祝日が多いから別の曜日で5校時までの日を6校時に変更する)のに、授業のカットの工夫は取り入れられない事が多い。 近隣の学校と足並みを揃えようとしすぎる為に、改善が進まない
109				○	○	年度が始まる以前から、余剰を設けて、保険をかけたような教育課程の編成をしていることに疑問を感じる。警報や閉鎖などはあくまでも予定にないイレギュラーな事態であり、起こったあとに対応すれば良いと思う。また、余剰がないと達成できないような学習内容が強いられている現状が解決されることで、教育課程における様々な問題がクリアになるのではないかと考える。現場に[精選]を求める前に、行政が[精選]をする責任はあるはずだと考える。
127				○	○	今の現場では、管理職が授業時数確保を意識するあまり、余裕のない毎日になっている。水曜を6校時まで行き、夏休みは短く、始業式、終業式も給食を食べ午後からも活動する。このように授業時数確保に躍起になりすぎて負担が増えている印象。
128				○	○	標準時数を大きく越えた授業時数が行われている。何かがあった時のためにと余剰をとっているが、働き方改革と逆行している。
181				○	○	標準時数は最低限超えていなければならない指標という捉えだったので、台風やインフルエンザで休校の場合は、無理に6時間を作ることもあった。
188				○	○	標準時数が増えるにつれ、授業時数を確保するために長期休みが短くなったり、長期休み明けすぐに6時間目授業がスタートしたりと、子どもたちに無理をさせることが増えたように思う。それに伴い、長期休み明けの行きしる子どもも増えている。
215				○	○	1年生で午前5時間授業を実施しているため、予備時数が年間で80時間近くになる。予備時数の扱いが異動した学校ごとに違っている。
224				○	○	市教委の標準日数や行事の計画が厳しく、多忙感を抱えながら教員は働いている。標準時数を今よりも各教科少なくして、ゆとりをもって子供の主体性を伸ばせるようカリキュラム・マネジメントを各学校の裁量にまかせてほしい。
236				○	○	標準時間に加えて、放課後学習を行ったり、行事で遅れる分を必死に時間を見つけてやっている姿から、本当に必要な時間なのかなと思っていました。
252				○	○	地域との関わりなどの学校ならではの学習が入ってくることで、標準時数を満たすことに目的がいきなり、余裕がない気がします。
424				○	○	標準時数や余剰時数の捉え方が、都道府県によって大きな違いがあると感じるし、同じ都道府県内でも地域によっても捉え方が違うと感じる。それによって、余剰時数に学校差が生じている。
463				○	○	標準時数を大きく超えていた。また、朝の活動など、授業時数にカウントされない時間もあった。
499				○	○	カレンダー通りに休まず行っているのに、台風等で1日休んだだけで、足りなくなったりして、休校のリカバリーが大変。の割に、年度末やることがなかったこともあった。
542				○	○	余剰の時間が多すぎます。教員の仕事内容もやるが多すぎて家に帰れません。もっと、働きやすくなることを願います。
555				○	○	台風による臨時休業やインフルエンザ等による学級閉鎖に備え、どの学校も標準より多くの時数を確保せざるを得ない。また小学校で考えると各教科を週あたりで計算すると教科によっては週2.6等の授業数となるため、余裕を持って3時間と計算する。標準時数をクリアしなければいけないという重圧がなくなる限り、自然と標準を上回る時数をこなすことにつながる。低学年でも6時間授業が増え子どもも疲弊しているとともに、放課後の時間が取れず、職員も疲弊している。標準時間の削減等、改善しなければならない点が多く感じる。

696				○	○	標準時数が多く、働き方改革が進みません。予備時数が多く、夏休み後も8月下旬からスタートし、低学年でも6時間の日があります。増える一方で、もう少し減らせるものがあつたらいいと思います。60代の先生方は、昔はこんなに慌ただしくなかったと、ゆとりがあつたとおっしゃっており、どんどん働き手がいなくなるので、時数を減らすのも、予備時数を減らすのも大事だと思います。
763				○	○	道徳の教科化、英語、情報教育、プログラミング、キャリア教育…と、教えるべき内容が増えたにも関わらず、何も減る事がないため時数を増やす事でその穴埋めを行った結果、子どもたちの十分に十分な教育機会が奪われていると感じます。時数を増やした事で子どもたちも教員も、じっくりと時間をかけて課題に向き合う事ができなくなり、バタバタと忙しい毎日過ごすことを強いられています。学校によって、時数のカウントの仕方が違います。帯時間を時数カウントをして余剰を確保している学校もあれば、そうでない学校もあり、働き方に差があります。それが、市で統一されておらず、学校独自の判断で行われている事に疑問を感じます。余剰を過度に確保する必要がない働き方を求めます。
777				○	○	学習指導要領で指導することがどんどん増え、教えきれないかも…と思っている教員が多いのが現状。そうすると、余剰時数も増えていってしまう。週29コマは多く、〇〇教育という名のもと、やる事がさらに増えていきます。これでは、やることに追われ、本来の学びの充実にはつながらない部分もあると思います。
790				○	○	標準時数はいわゆる「標準的」な児童のレベルで割り当てられているようで、年々厳しい学習状況の児童が増えている学校現場では、時数が足りなくなる。そのため「余裕時数」として標準時数より多くの時間をカリキュラムに組み込んでいる。このような背景があるため、現在の教育内容自体を減らしていかなければ、熱心な学校ほど時数を増やして対応しようとする。「ゆとり教育」へのバッシングによって、学校の教育内容詰め込みはすでに限界をこえている。のみならず、全国学力調査に始まる、各都道府県独自の学力調査への対応に労力が注がれ、「時数を減らしたら学力調査の点数が下がる」という強迫観念が現場を覆っている。
869				○	○	標準時数を大幅に超えている実態がある。
894				○	○	行事による授業時数が増えている。コロナが緩和されてから行事カウントの時数が増えた。創立150周年記念行事があり、それに力を入れているため、航空写真や練習など確実に増えている。
906				○	○	標準時数に対しての余剰が多すぎます。100時間を超えることもあります。採用された時は何も思いませんでしたが、新卒から8年経ち、日々の業務と時数について疑問を持っています。子供たちにとって学習時間を増やしても効果があまりないように思います。
908				○	○	6時間授業が当たり前で、7時間目なんかもあつた。
1044				○	○	自分の自治体だけかもしれませんが、標準時数+αの時間を予備でとりすぎていると感じます。特にコロナ禍の休校時、時数はそのまま良いと通達が来たはずなのに、小1でも6限目まで授業をしたり、長期休業日や土曜授業を行ったりと、子どもも先生も限界の状況でした。数ヶ月休校してもカリキュラム自体は終わることができたので、標準時数は明らかに多いと思います
1094				○	○	余時数が多い年があつた。
74				○		管理職が時数について細かい。目安となる時数は決めるべきだが、実態に応じてもっと自由がきけばよいかと思う。

76					○	2009年の新型インフルエンザ流行を機に、A市では2学期始業が8月25日となり、授業の週数が約38週となった。そのうえで、外国語活動、外国語科の導入に対応するため、15分を積み上げるモジュールなどで週の時間数を1増する形をとることとなり、現場の担当時間数はさらに大きくなってきている。教育活動でそれぞれの教職員が工夫して活用してきたとりくみには、それなりの時間的余裕が前提にあったが、現在は前提が崩れ多様性が著しく損なわれている。教育内容が膨大となり、新しい○○教育が山積みになっている状況もあり、標準時数と比較しても、どう考えても対応できないほどの状況である。教職員一人ひとりの持ちコマ数を削減することは、子どもたちにとってよりゆたかな学びを保障することにつながる。そのためには、教育内容の大綱的基準である指導要領の内容の削減、標準時数の削減、担当教職員数の増加しか道はない。新しいとりくみには、それ相応の人的物的予算を確保してからでなければ難しいものと考えられる。
107					○	時数カウントをして、教育委員会に報告しています。それを見て、夏休みを短縮するかしないかが決められます。だから、しっかりと超えていないと夏休み短縮になってしまうという現状があるため、大幅な短縮ができません。かつかつな毎日はかなりしんどく、休日出勤しないと間に合いません。
952					○	学校ごとに差があることが問題だと思う。地域連携や学校独自のものがあるのなら、その分は納得できるが、小学校においては、主任の裁量次第になってしまっている。例えば、4年が余剰に時数をとって計画を組むと、5・6年は先の下校しづらい状況も向いて生まれてしまう。つまり、学校間、学年間それぞれで示し合わせをしていかないと根本の解決には繋がらない。なので、校長や教育委員会を中心に余剰時数の扱いについて方向性を示す必要があると感じる。高学年の担任として、他校と比べてと明らかに6時間の授業が多いのは納得ができない。
171	○	○	○	○		自然災害などを理由に余剰時数を上乘せさせられ疲弊した。休校などにならない場合は、学力向上のために授業させられる。結局、学力向上と進度を合わせたり、補習の時間としてつかわれ、「標準」はあってないようなもので、とにかく時数を生み出すことを強要される。
20		○	○	○		2012年から2017年まで複式校に勤務していました。1年生と2年生、3年生と4年生は標準時数が異なるため、私はそれぞれの学年の時数で授業を組んでいましたが、教員によっては、上学年に合わせ時数にカウントせずに下学年も5(6)時間目に付き合わせている(学習させている)状況にありました。これまでも指摘されている通り、たくさん勉強をすればするほど子どもにとって良いという風潮をどうしたら変えていけるでしょうか。模索したいところです。
404		○	○	○		余剰時数を確保することにとられすぎていて、どんどん時数が標準時数からふえていく状況です。
511					○	余剰が多い学校での勤務は大変だった。学習時間が多いからといって、充実したり、学力が上がったりしていた印象はなかった。朝の会後の15分を朝学習としてカウントし、週3回×15分で1コマとして計算していた。教員の働き方改革としても、標準時数が今より減ってもいいと思う。また、教科や行事の精選も必要だと思う。

2. 標準時数の量 447件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
28	○	○	○	○	○	時数は多すぎです
33	○	○	○	○	○	1989年の頃は勤務時間内の教材研究で充実した授業を展開することができた。ところが、現在は勤務時間内に教材研究の時間を確保することができないのに、1時間の学習内容は増え、教材研究する必要がある教科も増えるというアベコベの状況となっている。それは、ICTを活用すれば解決されるような簡単なことではない。授業がやりたくて教師になったのだから、授業に妥協はしたくない。自分はもうすぐ退職だが、この先の教育がどうなっていくのか？不安でたまらない。
151	○	○	○	○	○	週5日制は必要だと思う。しかし6時間授業に耐えられない児童も増えてきており、6時間の日が増えすぎると、集中が続かない。以前は学期内に教科書を終わらせていたが、今はかなり厳しい状況である。
200	○	○	○	○	○	低学年の5時間、高学年の6時間の多さが子どもたちにゆとりをなくしていると感じます。ゆとりのないのは心の余裕もなくなります。単位時間が45分になったことで、休み時間も少なくなり、生活にもゆとりがなくなっています。心のゆとりが、子どもたちの思いやりのある心も育てられると思います。時間と教室の広さ、人クラスの人数を少なくするなど物理的なゆとりはとても大切だと思います。
226	○	○	○	○	○	小学校では、一人当たりの授業時数が多いと思う。中学と違い一つの教科を他学級と共通できるのとは違い、全ての教科に渡り毎日進めていく。1日の勤務時間を考えた時、授業して、研修会や会議、分掌上の仕事、その上次の授業を準備しての時間が確保されていないのが現実だ。ひとりあたりの持ち時間を減らすために、授業時数を減らす、もしくは担当人数を増やす必要がある。でないと、付けたい力も付けられないような授業内容が連続してしまう。
284	○	○	○	○	○	土曜日がなくなった頃は、まだ、社会的に土曜日が休みの企業が少なく、子どもたちを塾などに通わせる家庭が多くなった覚えがあります。 今の学校では、普通の日に放課後遊べる時間が少なく子どもたちが、可哀想に感じます。
301	○	○	○	○	○	毎日6時間授業は、子どもにとっても教師にとってもヘトヘトです。
304	○	○	○	○	○	だんだん余裕がなくなっている
309	○	○	○	○	○	じっくり考える学習はできる時数でない。教員も、教材研究に取り組むゆとりがない。
320	○	○	○	○	○	全くのゆとりなし。子どもとのゆとりの中での何気ない会話なし。なぜなら、授業間も授業の準備。早く下校を促さないと、会議あり、打ち合わせあり、退勤せまられる中、学校の施設を任されて、授業準備。時間外多すぎと言われ、ひどい話です。子どもにいいことはありません。
322	○	○	○	○	○	だんだん放課後の活用にゆとりがなくなった。
339	○	○	○	○	○	学校5日制の前も、現在の学校5日制になっても負担感がものすごく大きい。また、外国語 総合などが教科化されます負担感が大きい
376	○	○	○	○	○	時数が、多いと子どもはつかれます。余裕のある時数がいいです。
378	○	○	○	○	○	海外と比べて多すぎる
387	○	○	○	○	○	毎日、時間に追われている感じがする。ゆとりがほしい。
418	○	○	○	○	○	教科、時数が増えて、子ども達も教員も窮屈で忙しい生活になった。

435	○	○	○	○	○	昔は、子どもも教員ももっとゆとりがあった。放課後、子どもと話したりできていた。便利になっているはずが、忙しく希薄なつきあい方へと悪循環している。公教育はどこへ向かっているのだろう。
462	○	○	○	○	○	1990年代は、週6日でしたが、平日の時間割には余裕があり、子どもたちと向かい合う時間と精神的ゆとりがありました。週5日になってからは、次第に詰め込み授業になってきたと言わざるを得ません。指導内容は減るところか、外国語などの新たな教科が導入されるなど、現場の多忙化のみならず、子どもたちへの負担も増えています。できる子とできない子に分けられ、ふるいにかけているようです。公教育の本務が何なのか分からなくなってきたと思います。
496	○	○	○	○	○	無理です。詰め込みだけにしたとしても、子供に合ってません。
551	○	○	○	○	○	標準時数が多すぎる。子ども達が疲れている。取捨選択し、削る勇気をもって改革すべき。
615	○	○	○	○	○	時数が増えて教材研究の時間がなく、業務が逼迫してきたと思う。
617	○	○	○	○	○	大変になる一方です。現場の声が届きにくい状況です。
635	○	○	○	○	○	6時間目は子どもに負担が大きい
639	○	○	○	○	○	1日あたりの時数が増えることにより、子供たちの放課後が失われ、自主活動や遊びの時間が奪われた。1日あたり、週あたりの時数が増えることにより、1時間あたりの準備時間が短くなった。6校時が終わるとすぐ下校させなければならず、補充指導も児童との対話もする時間がない。
655	○	○	○	○	○	授業を充実させるための教員の時間が、様々な業務で確保されていない。時数が増えるほど負担感が増えているのが現状。
687	○	○	○	○	○	どんどん放課後の時間が無くなり、児童会活動の質が低下しているのを強く感じる。やりがいのないものになってきている。
697	○	○	○	○	○	児童を帰すと、会議などが入り、学級事務をする時間がない。
701	○	○	○	○	○	1日6時間の学習に苦痛を感じる児童もいます。外国語や道徳の教科化など、学習内容も多様化して時間の中で学ばなければならない内容が詰まっています。主体性が大切と言われていますが、それを支えるゆりの時間はほとんど無いのが実情です。
710	○	○	○	○	○	児童の放課後活動が多様化し、ほぼ毎日塾やスポーツ活動に取り組んでいる児童が多い。疲れを翌日まで持ち越している児童が多く、学習意欲も低い傾向が見られる。標準時数内で授業を行うことが、児童の学力の向上につながることを最近より強く感じるようになってきている。
714	○	○	○	○	○	いつでも学校では目一杯活動しているので、充実しているかという問いではどう答えたらよいか分かりませんでした。ただ昔は子ども同士のトラブルも生活に入っていました。今は事務的でまるで塾です
753	○	○	○	○	○	子どもが忙しすぎて、地域の子達と遊んだり家族と過ごす時間がないと思います
787	○	○	○	○	○	毎日、6時間授業になってから、教員も子どもも時間に追われているように感じられる。だんだんと柔軟な教育課程ではなくなっていると感じる。
793	○	○	○	○	○	教科数が増え、子どもは追われているような気がする。もっとゆったりと学ぶ必要があるような気がする。
844	○	○	○	○	○	とにかく余裕が必要。コマ数が増えても人が足りず現場は疲弊している
853	○	○	○	○	○	充実していたかどうかは指導内容によって変わると思うが6時間目の子どもたちは、元気がない。
892	○	○	○	○	○	土曜日があるのが当たり前ときは、土曜日は、けっこうゆとりと過ごし、他の教員とも昼ご飯を食べに行ったりして、話す機会も多かったように思います。また、夏休みも、その分の休みをとれていたもので、夏休みに、いろいろなことが出来ていたように思います。今は、何につけても、余裕がないように感じられます。きつさをすごく感じます。残念です。

898	○	○	○	○	○	週6日の頃は、毎日の時間数が目いっぱい入っていなかったもので、ゆとりが、時間的にも気持ちにもあったと思っています??教えることにも
901	○	○	○	○	○	いつの時代でも学校に余裕がありません。
907	○	○	○	○	○	学校の工夫次第で、放課後の時間は確保できるが、週の時数が、連日6時間というのは高学年の児童にもきつい。効率は上がらない。
915	○	○	○	○	○	放課後にのんびりと話したり、終わっていないことをさせたりとかが全くできなくなった。
925	○	○	○	○	○	勉強させすぎです。
929	○	○	○	○	○	だんだん、1日の授業時間が増えて児童も教師も余裕が無くなっている感じがする。
953	○	○	○	○	○	教科が増えたため、時数の融通がきかないように思います。
956	○	○	○	○	○	6校時が増え、どんどん日々教師児童ともに忙しくなり授業の準備時間や対話時間が減り、1時間の授業を充実させることが難しくなって来た気がします。
958	○	○	○	○	○	週5日になっているのに時数も教科も増え、教師も子供も苦しさをましていると思う
959	○	○	○	○	○	標準時数のあり方のことではないかもしれませんが、いろんな子がいてやることも増えて充実していると言われると、毎日が精一杯で過ごしているように思う。また、6時間は子供たちにとって学習の集中力が続く子が少ないように思う。
961	○	○	○	○	○	子どもも教員も生活に余裕がなくなったことを踏まえた改善が必要。
976	○	○	○	○	○	びっちり授業が埋まっていて、学習の定着をはかる時間もなく余裕がない。
982	○	○	○	○	○	週5日制は良いが毎日6時間で子どもたちが疲れている。
985	○	○	○	○	○	今から、30年前は、放課後、子どもたちと毎日遊んでいました。懐かしいです。
997	○	○	○	○	○	最近になるに連れて、教師も子どもたちも余裕が失くなってきている。
1028	○	○	○	○	○	5日制になったのに時数は増えて子ども達の余裕がなくなった気がします。それに伴って子ども達と向き合う時間が減ってきたと思います。 問題行動が増えたこと理由の一つだと思います。
1049	○	○	○	○	○	余裕がない
1055	○	○	○	○	○	標準時数が増えたことにより、学校生活そのものにゆとりが無くなった。加えて、防犯の意味から下校時刻を揃えることになり、放課後を使った活動が事実上できなくなっている。遡って、週5日生になった時から1日あたりの時数が増え、その後さらにその1日あたりの時数もだんだんとふえ、子どもたちは充実とはほど遠い状態にあると言わざるを得ない。私たち教職員も教育活動に加えて教育活動以外の業務に追われ日々多忙を極めている。自分は間もなく定年を迎えるが、日本の教育はどこへどのように向かっているのか憂慮している。
1059	○	○	○	○	○	忙しすぎる。ゆとりが無い。
1079	○	○	○	○	○	現在は、子供も教師もゆとりがない。学校がとても忙しい。6日制だった頃は休みが1日だけだったが、平日のゆとりはあったように思う。
1090	○	○	○	○	○	土曜日があることは、大変だったが、毎日の放課後が空いていて、子どもと遊んだり、児童会の仕事をしたり、余裕を持って教材研究していた。 今は、休憩時間まで、会議で埋め尽くされて、6時間続きで、だらだらと授業をこなしてる。教育の質も、新しく就職する教員の質も、そして子供の質も低下の一途。やりがいのある創意工夫のできる職場ではなくなった。
1097	○	○	○	○	○	直接子どもに関わる業務の割合がどんどん減ってきている。
1122	○	○	○	○	○	一年生は、午前授業が多かった。今は、教室にいられない児童が増えている。とにかく、みんな疲れている。
12		○	○	○	○	1日が6時間授業になると、子ども達の集中力は欠けてしまい、午後に図工や音楽、家庭科等を入れざるを得なくなる。外国語が増えたことにより授業内容が増え、技術系の学習をゆっくり取り組ませることができず、中途半端になりがちである。時数とともに学習内容を精選すべきだと感じている。
34		○	○	○	○	今の時数は余裕がなく、現場は苦しい

56		○	○	○	○	放課後の時間を活用することができなくなり、自由な教育活動に制限がもうけられてきたと感じている。
70		○	○	○	○	時間割を組むのがとても大変でした。午後からの2時間授業が続くのは子どもも教員も大変です。
131		○	○	○	○	学力重視の偏重で、子どもや教員も疲弊しているように思う。ゆとりが全くない。時数が増えて、指導する教科も増えている。そして、人が足りなくて、空き時間も減り、授業以外の校務をこなす時間が、勤務時間内にとれなくなっている。
132		○	○	○	○	子どもは、8時から16時近くまで学校で過ごしている。6時間目など疲れて国語などは身が入らない。
136		○	○	○	○	現在の標準時数は多すぎます。子どもたちにとっても教職員にとっても負担が大きいです。
139		○	○	○	○	授業時数が多すぎて、低学年も午後6時間目など本当に疲れている
159		○	○	○	○	やればそれなりに身になると思いますが、子どもや職員に余裕はなくなってきていると思う。
162		○	○	○	○	授業時数が多すぎます！
182		○	○	○	○	標準時数というか、高学年は放課が遅く冬は家に着く頃には暗くなる。習い事やら少年団やらもして、いつ友達と遊ぶのか…と憂えています。
183		○	○	○	○	標準時数がだんだん増えてきて、特に高学年はほぼ毎日のように6時間授業となり、さまざまな子どもがいる中で、子どももそして教職員も余裕がなくなってきたと感じる。
196		○	○	○	○	2023年に近づくほど、教育課程の授業数が詰め込みすぎていることに気が付きました。取り入れれば子供にプラスになることはわかりますが、取り入れた分、削ることも大切だと感じます。教員の成り手が不足しているの理由の一つになっていると思います。
205		○	○	○	○	教職員側の仕事量を考えると、六時間授業が終わった後、ほとんど時間が取れず、あっという間に退勤時間になる。五時間授業が増えるとはより業務をこなす時間、特に自分の場合は授業準備や保護者との連絡などに余裕をもち、結果子どもたちにもいい影響となる。標準時数を減らす、そのためには、学習内容の精選が不可欠だと考える。
209		○	○	○	○	行事、研修が多いだけでなく、授業時数も多いため、授業研究に時間を確保するのがむずかしい。結局、5時以降や土日持ち帰りの仕事が増えて忙し過ぎる。余裕がない。
237		○	○	○	○	現在の教育課程は、コマを5日の中に強引に押し込んだ結果、子供にとっても教員にとっても窮屈で辛いものになってしまった。昔は6日間ではあるが午前授業もあり、子供たちのモチベーション上昇や教師の放課後時間の確保など、むしろ余裕があったように感じる。早く学校が終わる日などは子供たちが放課後に遊ぶ約束をよくしていて、コミュニケーションもよく取れていたように思う。
242		○	○	○	○	標準時数が多すぎる。放課後の時間のゆとりがほしい。
244		○	○	○	○	時間数だけを追っても、一日にできる時間は限られています。時間だけ増やすと、とても負担になっています。
247		○	○	○	○	昔の方が学校現場にゆとりがあったように思います。
248		○	○	○	○	昔に比べて、とても忙しい。また、がまんができない子が増えたため、負担が大きい。午後は、算数や国語などの教科を入れても学習が進まない。
249		○	○	○	○	びっちりの6時間授業で児童も先生方もつかれている。
259		○	○	○	○	現在は詰め込みすぎです
266		○	○	○	○	放課後、子どもと話をしたり、遊んだりする時間が昔はあった。今は全くないので、子どもの実態がつかみにくい。
272		○	○	○	○	週27時間の時は、少し余裕をもって授業が行えていた気がする。
277		○	○	○	○	一人の教員の持ち時数が多すぎると感じている。

295		○	○	○	○	登校する日数が減った分、他の日の時間数が増え、全体にも増えていることを再確認した。減らせないものなのか。
296		○	○	○	○	土曜日の学校がなくなった分、夏休みが短くなっている。今年度も早いところでは8月24日？二学期がスタートしている。平日の時数が多いため、放課後に余裕がない。五時間の日はたいてい、放課後は終業後すぐに会議。以上の理由から、教材研究は勤務時間外にするしかないため、残業時間は必然的に増える。教員の余裕のなさは、子どもに悪影響を及ぼすと考える。
297		○	○	○	○	時数が多すぎるが多忙化につながっています。
300		○	○	○	○	高学年の児童でも6時間授業は負担が大きいと感じる。
308		○	○	○	○	時数が多い。教科担任制といわれても、教員の数が足りないので、苦しいと思います。
340		○	○	○	○	昔は教育の課題に対する変化があっても少しずつ変わっていくように授業でも試行錯誤しながら取り組めていました。今は上からあれもこれもと教材研究が進まないままに「しなければならない」状態で降りてきていて教材研究をする時間の確保が難しい。会議や保護者対応、ノートやテストの丸つけなど優先されてしまうから時間の確保が難しい。定時から残って仕事をせざるを得ない状態になっている。時間外も働かせているのは文科省や府や市の教育委員会です。時間数を増やして指導しなければならないことを増やして何かが減るわけでもないのに時間数は増えるだけで子どもはもちろん教員にとっても良くない状態にあると思います。
341		○	○	○	○	子どもも教諭もゆとりがどんどんなくなった。
350		○	○	○	○	過密過ぎます。子どもたちが外で遊べる時間と場所をもっと作ってあげたいです。
352		○	○	○	○	1日あたりの時数が多い。教員の仕事は授業だけではないのに、労働時間を無視している。
353		○	○	○	○	過密になると子どもの自由時間が無いのであまり良くないと思う
354		○	○	○	○	小学生が毎日6時間は子どもがつかうそうです。
360		○	○	○	○	学年によって苦しい学年と、余裕のある学年があると感じる
363		○	○	○	○	今や、子どもたちの学校生活は、学習や委員会活動、クラブ活動などで逼迫されています。教師も子どもたちも多忙で心のゆとりがなく何かに追われるような毎日です。
366		○	○	○	○	週5日制が始まる前は、土曜日に学校があっても、今ほど忙しいという感じはなかった。放課後、担任と児童が他愛もないことを話したり笑い合ったりする余裕があった。これから土曜日を復活させるというのは現実的ではないと思うが、あの頃よりもいろいろ便利な技術が進歩しているのだからこそ、あの頃あった余裕の時間を取り戻せるようにならないかと切に思う。週29時間は、子どもたちにとっての健やかな成長を脅かすことになるのではないかと思います。
369		○	○	○	○	現在の標準時数は多すぎる。内容ももっと減らすべきである。
380		○	○	○	○	子どもたちもせわしない
383		○	○	○	○	どんどん増えてばかりで、その割に学力が上がっている実感がない。今は学校が学習の場でなく、学童保育のようになっている。下校時刻も遅く、夏休みも短く、ただ学校で長い時間子ども達を預かっている感じになっている。
391		○	○	○	○	標準時数が多いことは子供も教員も負担が多くなるため、内容の充実を図るには逆効果になることもあると感じました。
394		○	○	○	○	総合的な学習の時間や外国語活動、英語と学ぶべきことが増え、学校での拘束時間が長くなって、子どもにも教員にも余裕がなくなってきている。また、時数を確保するために休み時間も短くなっている。もう少し、遊びの時間や自由に使える時間が必要ではないかと思う。
397		○	○	○	○	授業準備をする時間がありません。しかも複式学級で2学年分です。児童の下校時刻の10分後に休憩時間開始です。休憩時間は無いものと同じです。

412		○	○	○	○	児童が登校してから下校まで、児童、教員ともに全く時間の余裕がなく、ゆっくり話をする事もできません。
413		○	○	○	○	現状では子どもも教師も疲弊しています。学校に適應できない子どもが増えています。教育課程を見直し、ゆっくり、じっくり学ぶことができるようにしたいです。
430		○	○	○	○	とにかく余裕がない。時間外業務ありきの教育課程になっている。
443		○	○	○	○	年々忙しくなっている
446		○	○	○	○	多すぎる。減らして欲しい。
453		○	○	○	○	今の子どもたちはほぼ6時間で放課後はのんびりする時間もなく、心の余裕もないように感じます。学習も大事だけれど、みんなと公園で遊ぶ余裕も必要なのではないかと思うこともあります。
459		○	○	○	○	やらねばならないことがどんどん増え、こなすことに精一杯になってしまったように思います。もっと職員室で授業のこと、子どものことを話していたと思います。
468		○	○	○	○	小学校はほぼ6校時で、子どもたちもついていくのに必死でした。もちろん教師も空き時間はほぼなく(お休みしている先生の補充等も入るので)必死でこなしているという感じです。ゆとりをもって学級経営、学習活動をしていきたいです。
476		○	○	○	○	多すぎる
512		○	○	○	○	今年の夏は特に暑く、午後の学習活動が難しいくらいでした。(本当は午前中も)子どもたちも教員も、暑さで参っていました。そのような時にすぐに午前授業にしたり、学級閉鎖などがあっても心配のないくらいの必要時数、及び学習内容であれば良いのではと思います。
565		○	○	○	○	土曜日がなくなった分平日の授業が詰め込みになり、子どもも教員も疲弊している
572		○	○	○	○	ゆとりがある時の方が、自由がききました
590		○	○	○	○	授業が詰まりすぎて、持病の通院に行きにくいです。
628		○	○	○	○	児童のための時数になっていない。時の政権のエゴによって勝手に変えられている。
636		○	○	○	○	授業時数を増やせば学力が上がるという考えがあるのだと思いますが、そんな単純なことではないと思います。
644		○	○	○	○	標準時数が多いため、子どもたちへの平日の負担がかなり大きくなっている。ゆっくり過ごす余裕が足りない。
650		○	○	○	○	とにかく今は全く余裕がなく、教材研究の時間が取れない。
681		○	○	○	○	このアンケート内容について疑問を感じます。何をもって充実していた、合っていたとするのでしょうか。近年の授業数でも高学年の子どもたちは体力的には授業を受けられますが放課後に友達と遊ぶ時間はほぼありません。低学年では六時間目に机に突っ伏している子もチラホラいます。下校後に保護者が在宅していない家がと増えて、放課後の過ごし方が子供の世界ではなく大人の監視下でしか遊べなくなって、子供が大人のルールにずっと縛られているような気がします。
689		○	○	○	○	1日の時数が多すぎて、放課後の余裕がないのがつらいです。もっと時数を減らしてほしい。何でもいから放課後の時間を確保してほしい!!
695		○	○	○	○	子どもも教員も忙しすぎる
706		○	○	○	○	子どもが大変そうだなと感じています。
711		○	○	○	○	時数ありきの学校生活に息苦しさを感ずります。学校にはもっと大切な役割があるのでは、いつも思います。

716		○	○	○	○	時数が増えるにつれて、気持ちの余裕がなく、授業準備、教員間での打ち合わせや相談する時間が減った。子どもも同じように、詰め込まれている。また、インフルエンザ等学級閉鎖や休校を見越して標準時数より時数をふやしている。それでも学年が上がるほどに、教科書の内容が終わらない場合もあるのは、前述したように、相談したり授業準備したりできず、バタバタ当座しのぎになってるからだと思う。子どもに申し訳ないと思うくらい、準備できないことがある。
736		○	○	○	○	学校以外の、子どもの時間をもう少し充実させてあげたほうがいい。
755		○	○	○	○	毎日、6時間は子どもも教師も疲弊します。もっと家庭や地域に子どもを返してほしい
773		○	○	○	○	近年、時数が多く、ゆとりがなくなっている
782		○	○	○	○	だんだん時数が増えて窮屈、多忙感に苛まれている。
784		○	○	○	○	放課後の子どもと接する時間の確保を何とかしようとしていた。
786		○	○	○	○	標準時数がこれほどまでに増えていたことを自覚しないままに、振り回されていたことを数年前に気づき、目を向けるべきところを見ていなかったことに情けなく思いました。
801		○	○	○	○	現在のコマ数は多すぎです。
809		○	○	○	○	週の時数がいっぱいいっぱいです。子どもにも負担が大きく、余裕がありません。
816		○	○	○	○	時数がびっしり詰まりすぎていて、子供の学校生活にゆとりがないため、子どもとのコミュニケーションを取れない。
834		○	○	○	○	コマ数が多すぎる。児童も教師も負担。以前のように週に何回か5限の日があってほしい。会議する時間を確保したい。低学年で6限まで授業は集中力が続かない。教員同士のコミュニケーションが昔はもっとあった。今は同僚性が生まれる状況ではない。
843		○	○	○	○	詰め込みすぎ。余裕がありません。
863		○	○	○	○	特に高学年は、ほぼ毎日6時間授業で、教員も児童もゆとりがないと感じる、
872		○	○	○	○	以前より子どもが忙しくなったと感じます。放課後に友達と遊ぶ機会が減りました。放課後にほぼ時間がないこと、習い事が増えたこと、週休二日になり土曜は家族と過ごしていることなどが影響しているのかなと考えています。
882		○	○	○	○	標準時数が多いと感じます。もう少しゆとりのある教育がしたいです。毎日朝からびっちり6時間はきついです。
884		○	○	○	○	同じ学年で見ると、時数がどんどん増えていったことに気づいた。子どもたちは、6時間ばかりできつかったです。
905		○	○	○	○	子どもの放課後の自由な時間が減ってしまい、子どもも疲れているように感じる。遊び時間が少なく、余裕なく生活しているように見える。
917		○	○	○	○	学校の標準時数に合わせて子どもたちの生活も変化していると思います。放課後に遊ぶ時間が減り、土日も習い事等で遊ぶ時間や人との関わりが希薄になってきているように思います。
947		○	○	○	○	段々と苦しくなっています。
965		○	○	○	○	授業だけで時数が切り取られる感が否めない。子どもも教師も追われている。
969		○	○	○	○	多いです。
972		○	○	○	○	年々、仕事に追われる理由の一つだと思いました。
975		○	○	○	○	放課後の時間がありません
990		○	○	○	○	平日の授業時数が多い、子どもたちに余裕がなく疲れ切っている。加えて、教員も子どもたちが帰ってからの時間が限られていて、定時に帰れない
1007		○	○	○	○	色々な科目が次々に入り、その度に授業時数が増え、子どもに余裕がなくなっていく気がする。
1023		○	○	○	○	時数が多いすぎる。それ以外のやることも多いので、子供も教員も疲弊している。

1026		○	○	○	○	現在の学校は平日が忙しく、授業準備に時間もかけられません。昔の方がのんびりしていたと感じます。
1030		○	○	○	○	標準時数が多いと、子供も教員もとても窮屈な感じがする。
1033		○	○	○	○	子どもも大人も忙しそう
1048		○	○	○	○	授業時数が多く子どもたちが疲弊しているように感じる。6時間目は、集中力もなく形だけの学習になりがちだと思う。
1052		○	○	○	○	詰め込みすぎ。選択と効率化が必須。
1063		○	○	○	○	6時間授業が増えて、子どもたちの負担は大きいと思います。子どもたちの好きな図工や音楽、クラブなどが減ったのはどうかと思います。
1072		○	○	○	○	時数の足し算ばかりでは、子どもが疲弊します。
1074		○	○	○	○	時数をこなすことが何よりも大切にされていた印象です。それを五日間につめこむので、学校に余裕がなくなった。教員のしんどさが子どもに出てしまっていた。できる子、いわゆるよい子ではない子どもたちがしんどくなったと思う。
1077		○	○	○	○	時数が多すぎて、児童も教員も余裕がない。休み時間や放課後も時間がない。
1087		○	○	○	○	土曜日があった時の方が、ゆとりがあったように感じる。
1089		○	○	○	○	時数が多すぎ充実できるほど準備ができない。お互いに気持ちや体力的な余裕がない。
1103		○	○	○	○	午後は集中できず効率が悪いです。
1109		○	○	○	○	児童の放課後の時間がほぼなくなった。昔は欠席して学習が遅れた子や、授業中に理解できなかった子を居残り勉強させることができたが、今は授業が終わると下校時刻になってしまう。その分、休み時間を使うしかない。放課後に、のんびりと子どもたちと他愛のない話をして、ゆったり過ごす余裕はない。
1115		○	○	○	○	週末の午後の授業は、子ども達が疲れていたと思います。下校後に遊ぶ時間が短いと言っている事もありました。
1117		○	○	○	○	高学年が常に6時間授業というのは、大変無理がある
1125		○	○	○	○	平日6時間びっちり。これに加え、塾、習い事、学校からは毎日宿題が科され、子どもたちは疲弊している。現場の教員は、勤務時間と放課後の時間の関係を見ると教材研究の時間が十分ではなく、時間外労働や持ち帰りの業務(教材研究が中心)が過多となり、疲弊している。正に負のスパイラル。
1134		○	○	○	○	多すぎる
1135		○	○	○	○	忙しすぎて、自由に活動できる時間が少なかった。余裕が時間的にも心も体もないと、教育は貧弱になります。
16			○	○	○	外国語活動が導入されて以降、やる事がとにかく多すぎて、教員も子どももゆとりのない生活になってしまった。週に空き時間がほとんどないことによって、教材研究が十分できず、単元をこなすので精一杯。塾や英会話教室に通える子と何も習い事をできない子との間で、分断が起き、教育格差がどんどん広がってしまったように感じる。放課後、子どもたちが遊ぶ姿は、十五年前と比べて減り、体力づくりやコミュニケーション能力も心配。小学校では、専科によって担任の空き時間があっても、支援が必要な児童がいれば、純粋な空き時間にはならない。音楽会前は、音楽の空き時間は0になる。外国語も五六年は、週に2時間やるが、外国語専科やALTは週に1時間しか来ない学校もあり、担任が教材研究をしたり外国語専科と連絡を取り合う必要があって、負担に学校差がある。以前、5時間で子どもたちを帰して、会議が入らなかった日は、職員も、定時で帰った人が多いことに気がついた。そもそも、教える内容を精選しないと根本的な解決にならない。もう、工夫のしようがないところまで来ている気がする。
32			○	○	○	やるべき事に追われ、心の余裕がなくなっている気がする。増やすばかりでなく、いらぬものは削っていくべき
40			○	○	○	子どもが勉強ばかりでしんどそう。もっとゆったりとした時間を過ごしていいのではないかと思う。
41			○	○	○	子どもたちが疲弊しているようです。学校で教えることと社会教育等でまかなうことを分けてほしいと思います。

48			○	○	○	標準時数が増えることで、子どもの負担が大きくなっています。特に、特性のある子どもが増えてきている中で、そうした子どもにとっての負担感が大きくなっているように感じます。また、教職員にとっても、標準時数に追われ、学校現場に余裕が無くなり、学校現場の多忙化(多忙感)に拍車をかけています。
65			○	○	○	27コマのときほど、放課後にゆとりがあった。会議も少なかったように思う。また、集団下校もなく、放課後に子どもを残して、向き合う時間があったように思う。そんなことが今はできない。
73			○	○	○	子どもも教師も余裕が少ない気がします。
84			○	○	○	外国に比べて1日あたりの時間数が多く、ゆとりがない気がします。
86			○	○	○	新任の頃の指導要領の時数に対する回答はやや曖昧です。自身に規準がなかったので印象で回答しています。ただ、現場で先輩方を中心に新しい指導要領の時数に対してどのように現場で運用するのか、議論になっていたことはよく覚えています。しかし、その議論の内容は「どう教えていくのか。」よりも「どう時間割を組むのか。」や「他の行事や諸々の現場の都合とどう折り合いをつけるのか。」だったと記憶しています。「なにを子どもたちに学んでほしいのか、どう教えたいのか、なにを伝えたいのか。」といった子どもたち中心の議論ではなかったと感じています。個人の感想ですが、各種行事などの大きなとりくみがやりにくくなってきているように感じます。時間割上の制限やコロナ対応など、細かい条件が多々ある中で折り合いをつけながら大きなとりくみを行うことのハードルの高さを感じています。最近、同僚の20代の先生や教職経験年数が比較的浅い先生方と話していて「もっと子どもたちと遊びたい。」や「もっと放課後子どもたちを残して学習させたい。学校を子どもたちの居場所にしたい。」という話がでてきます。安全面や教職員の働き方として捉えると是非がある話ではありますが、「その余裕もないよなあ。」というのが私の感想です。
101			○	○	○	普段忙しさを理由に子どもの生活や時数の多さからのせわしなさなど、考えてきませんでした。改めて比較してみると、今の時数が多いかを実感します。そして、そういえば子どもたちは六時間目には疲弊しているし、放課後に遊ぶ時間がないなあと思いました。
121			○	○	○	標準時数が増えるとかなり色んな意味で余裕がなくなる。
122			○	○	○	下校の問題や、勤務の問題など、大変でした
137			○	○	○	標準時数が増えれば増えるほど子どもたちの余裕がなくなり、多忙感が増している感じがします。ゆとりの中で豊かな教育活動ができるようにしたいです。
148			○	○	○	今の時数は、子供も大人も窮屈である。
155			○	○	○	今は、子どもも教員も忙しい。
156			○	○	○	多すぎる。学習内容も多すぎる。
160			○	○	○	時数が多くなることで、子どもたちの心身の負担も大きくなっているように感じる。放課後も塾やスポーツなどの習い事、宿題とゆっくりする時間も取れなくなっている。
161			○	○	○	余裕がなさ過ぎる
166			○	○	○	授業時間が、多すぎる。
172			○	○	○	時数が増えて、子どもも教員も多忙化しています。
173			○	○	○	忙しすぎます
179			○	○	○	授業時間数が多くなると、子どももおとなも余裕がなくなると感じます。
189			○	○	○	現在、コロナ禍の休み以降、特に、子どもたちの集中力は、午後までもたなくなっているように感じている。また、教員の空き時間も減っている。子どもたちが主体的に学習できるように、授業の工夫も必要であるので、どうにかしてほしいと感じている。
198			○	○	○	今はゆとりゆとりと言っていた割に、詰め詰めになっているのだなと思いました。その分、休日が多かったり、長期休暇が多いのでしょうか。これからどこへ向かっていくのか不安でしかありません。
199			○	○	○	色々なことを学ぶのは大切だと思うが、放課後や習い事の忙しさに子どもたちは疲れている気がします。のびのび学ぶことから遠ざかっていて、寂しく思います。

202			○	○	○	以前に比べると、時数が増えることによって、子どもも教師も忙しくなったと思う。
208			○	○	○	学校で過ごす時間が長くなり、宿題や習い事との両立が難しそうだと感じた。
222			○	○	○	授業時数が多すぎる。
238			○	○	○	時数や学習内容がどんどん増え、児童にとっては負担が大きくなるばかりと感じています。
245			○	○	○	今の現場は、とにかく担任の持ち時数が多すぎると感じます。教員の数は全然足りていないので、時数も昔のように、減らしていくべきだと感じます。
246			○	○	○	今の教育課程は余裕がなく、先生も児童も疲れる。
257			○	○	○	日々子どもたちの負担が増えていると感じる。
260			○	○	○	授業時数が多く、子どもたちも教師も日々の生活をこなすのに疲れてしまっていました。もう少し、余裕のある学習計画が立てられるようにしてほしいです。
262			○	○	○	時数ばかりに追われて、本当に子どもと向き合って考えさせることが少なくなっている。
263			○	○	○	授業時数を増やしても教員の教材研究や心の余裕がないと、効果的な授業は行えない。放課後の余裕は教員にとっても子どもにとっても必要。子どもも習い事などの時間調整などで、今は忙しそう。
274			○	○	○	発展途上国では、授業時数が多ければ多いほど学力水準が高く、先進国では高い学力水準を保持している国の授業時数は少なめの傾向であったという調査結果を見たことがあります。日本は、授業時数を増やせば学力が伸びると思っているのかと疑問に思います。
281			○	○	○	昔より今の方が忙しさを感じるし、余裕がないように感じる。
288			○	○	○	いろんなことが増えたが、何も減らないので、先生も児童も疲弊している。
317			○	○	○	時数は増えているが、子供たちには負担が大きいように感じる。やらねばならぬことも多く、子供がゆっくりと学びに向かう時間はない。
319			○	○	○	図表を見て改めて標準時数の変遷に触れ、子どもたちの生きにくさを感じた。こどもはもちろん、先生方も忙しすぎる。ゆとりが全くない。
321			○	○	○	標準時数が少ないと、教職員に余裕が生まれ、子ども達との関わる時間が多かったように感じる。今は授業に追われ、子ども達の活動を見取ることができていないように感じる。
325			○	○	○	時数が多い
338			○	○	○	時数が多い。あれこれ詰め込もうとしすぎている。児童たちの実態に合っていない。時数を減らして、効率的に学習できるようにした方がいい。
342			○	○	○	現在の学校は、子どもも教員も忙しなさを感じる事が多く、全体として余裕がない。余裕がないために、さまざまな場面で問題が起きているように感じる。生徒指導が増えたり、保護者対応が増えたり…。週5で全て六時間の授業では、子どもたちが復習したり、家庭でフィードバックしたりすることができないように感じる。以前はそういう場もあったらうに…。
358			○	○	○	現在の時数では、子供も教師も疲弊している。
362			○	○	○	生徒も先生も時間に終われ、ゆとりがない。
368			○	○	○	時数が多すぎる。子どもも教員も時数に追われて、余裕がない。
396			○	○	○	苦手なところの復習をしたり、子どもたちにあった授業をするのに、時数が多くても内容が多岐にわたるため、結局授業に終わられてしまう傾向にある。もっとゆとりのある内容と無理のない時数で、子供たちに丁寧に授業をしたい。
415			○	○	○	放課後の時間がどんどんなくなっている気がします。教員同士の打合せや情報の交換、教材研究の時間がないことは、ダイナミックな活動ができないと感じます。たくさん体験をさせてあげたいと思いながら、いつも教室で授業になってしまっていると思っています。
437			○	○	○	時数を増やせば、児童はしっかり学習できる。しかし、準備がとても大変になる。

441			○	○	○	時数が多すぎて子どもも大人も余裕がない
445			○	○	○	週6時間が続くのは、児童にとって負担に感じると思う。
448			○	○	○	時数が多くなり、毎日6時間は児童の負担が大きいと思います。
450			○	○	○	授業時数が年々増えて、6時間目に5教科の授業が行われることが多くなったが、子どもの集中力が持たず、6時間授業を増やしたからと言ってしっかり学力が身についたとは言えない。
454			○	○	○	子どもも大人もつかれがひどい。時間を増やせばいいとは思わない。
456			○	○	○	今の時数は多過ぎだと感じます。
458			○	○	○	子どもにも教師にも、時間的余裕がない。
460			○	○	○	小学校では、1989年時の6年間の標準時数(5785時間)と、現在が同じということに驚いた。週6日制と同じ量を週5日でやっている。ぎゅっと詰め込むことは、子どもにとっても教員にとっても如何なものかと思う。実感として、子どもが放課後に遊ぶ約束をする風景は少なくなったように感じる。
472			○	○	○	多すぎます。
473			○	○	○	とにかく日々の学習に追われ、疲弊している。
482			○	○	○	単純に多すぎる。1番困ってるのはこども。余裕がなく、疲れている。疲れすぎて知識も身につかない。
509			○	○	○	教員の数が減っているのに時数が増え、現場の負担はどんどん増えている。
516			○	○	○	外国語など、何か入るたびに、時数が増えていくので、教師の前に子供の負担も大きくなっている、と感じました。
529			○	○	○	授業時数確保のため、休み時間の短縮をしたり、モジュールを導入したりする工夫があった。しかし、子どもたちの生活にゆとりがなくなったように感じる。また、教員側にも、多忙化に拍車がかかったように感じる。特に、4年生以上、特段高学年は、週あたりの担当時数が多く、教科数も増えるため、職員の中では、やりたがらない傾向がある。また、子育て世代、問題を抱えた教員は、高学年にはならず、高学年のメンバーが固定化している。そのため、一部の教員に負担が偏っているように感じる。高学年も、毎日5コマで良いのであれば、多少負担感が減るように感じる。もちろん、教科担任を実施したり、専科を導入したりするなど工夫はしているが、やはり子どもが抱える問題が多岐に渡り、対応が複雑化しているため、その分職員間の話し合いも多い。そのため、放課後の時間確保が望まれる。
535			○	○	○	時数が多ければ、いいということでもないのかなと感じます。
536			○	○	○	10年ごとに週の標準時数が1時間上がっていたのには、驚いた。2010年度の標準時数でも、子どもたちの学習は充実していたといえる。むしろ、2023年度は子どもの学習は充実しているが、教職員の教材研究の時間は充実しているとは言えない。放課後の時間ほど、教材研究に使える大切な時間はない。年々、教職員を苦しめているように思える。なんとか、打開できないか。
543			○	○	○	びっしり詰めすぎていて、教員にも子どもにもゆとりなどなく、ひたすらやらざるを得ないことをやり続けるという毎日です。時数にゆとりがあれば、子どもや地域の実態に合わせた教育活動ができるのにといつも歯痒い思いをしています。
548			○	○	○	もっと減らしてほしい
557			○	○	○	29時間は、多すぎると思う。低学年も6時間目までになり、大変だった。
559			○	○	○	働き方改革に逆行しているかと思います。もっと教員にも子どもたちにも余剰が欲しいです。
587			○	○	○	授業時数が多いと感じる。子ども達にも教員にも余裕がない。
595			○	○	○	時数多すぎて子どもかわいそう。どんどん授業進めていかないと終わらないため、つまずいた子を助けきれないこともある。
603			○	○	○	時数が多ければ、子供に学びがあるかといえそうでもないし、今と20年前では学校の在り方も変化しているので、純粹に比べられませんが、昔の方が、学芸会や全校遊びなど子供の楽しい学びがあったかなと。

630			○	○	○	多すぎると感じています。
646			○	○	○	現在の標準時数では、子どもも教師も時間のゆとりがない。
647			○	○	○	時数が増え、内容が増え、子どもと向き合う時間がへり、放課後に補充、子どもと向き合いながら、生活を良くしていく時間がなくなった分、充実した授業から遠ざかっている気がする。
649			○	○	○	標準時数が増え、余裕時数がなくなったことで、補充指導を行ったり、子どもたちとおしゃべりをする放課後の時間やお楽しみ会等を企画するような時間がもてなくなった。現在の教育課程では、すべての子どもたちに十分な学びをほしうできない。子どもにとっても教職員にとっても、もっとゆとりある学校教育であるべきだ。
657			○	○	○	時数が増え、教員の負担が大きくなってきている。
665			○	○	○	多すぎて、子供も教員も忙しすぎる。新しいものがどんどん追加され、ものすごくしんどい。
666			○	○	○	毎年、教務主任がこのことについては頭を悩ませて、子どもの学びの保障と職員の労働時間とのバランスに苦慮しています。個人的には、今日の子どもの生活リズムも考慮すべきことと考えています。結果的に学校にいる時間が長くなっていく一方で様々な選択肢が出てきており、夜遅くまで習い事をしていて、活力不足な子どもも見られます。そのような中、学校で学ぶべきだからと年々時数が増えてきている現実をきちんと見つめてあげてほしいとも思います。
677			○	○	○	子どもにとっては今の時数は負担が多く、特に午後の授業で集中を保つのは難しい様子である。また、支援を要する児童が多く、今の時数では指導内容が指導しきれない。ゆとりあり、じっくり指導できる環境が必要であると感じる。
679			○	○	○	時数が多ければ学力が伸びるというものではない。一斉指導型の授業形態から脱し、生きる力や生き抜く力を育てる、学び方を学ぶ学び手主体の学習を進められるようにしていかなければ、いくら時間をかけても生きる力は育たないと思う。
690			○	○	○	高学年でも5校時が2日あった時は、教員の放課後の時間は今よりも余裕があった。高学年の6校時が多くなればなるほど、児童が帰って職員室に戻るのには4時。それから会議や教材研究をしていると、どうやっても5時には帰宅できない。また、児童も毎日6時間だと、放課後、友達と遊ぶ時間もなくて疲れてしまっている。児童にとっても教員にとっても、オーバーカリキュラムではないかと感じる。
698			○	○	○	やらなくてはいけないことが多すぎてゆとりがない。予備時数をとる6時間がおおくなる。だから事務時間がその後になり、退勤が遅くなる。悪循環である。
712			○	○	○	現状、学校外にも子供の居場所はたくさんあるように感じています。例えば、習い事・塾・こどもセンター等です。子供たちは、そのような場所で自ら学びたいと思ったことを学び、一緒にいたいと思う人たちと過ごしています。現行の標準時数のあり方では、そのような子供たちの自主的で創造的な時間が奪われているように感じています。さらに、友達と遊ぶ時間や地域の大人と関わる時間も奪われ、ソーシャルスキルや地域への所属感が下がってきているように思います。
732			○	○	○	今は時数が多いです。子どもも教師も疲れてます。
742			○	○	○	子どもたちはいそがしすぎます。授業時数が多すぎるので、疲れてしまっています。学校でいろいろなことを背負う時代ではないと思うので、地域や家庭に返していく時代ではないでしょうか。
743			○	○	○	授業時数がどんどん増えて、子どもたちも教職員も余裕がなくなっているような気がします。チームで子どもたちを育てるために、もう少しゆとりある時数に編成してもらい、教職員同士が子どものこと、教材のことについて話ができる時間を確保したいと思います。

744			○	○	○	昔は、学習外の遠足なども充実していた。(学習にも余裕があった気がする。)今は、放課後の時間も無く、高学年の子ども達は、窮屈そうで可哀想。もっと伸び伸びと学校生活を楽しませたい。
748			○	○	○	放課後の時間がなさすぎて、子どもたちは習い事や宿題に追われている。
752			○	○	○	忙しいことは否めない。
758			○	○	○	時数が多すぎることなく、余裕のある実施をもとめます。
761			○	○	○	子どもが忙しすぎる。午前中授業したら、午後から遊ぶべき。自殺する原因の一つは、忙しすぎて余裕がないからかも？
769			○	○	○	余裕がない
789			○	○	○	毎日6時間授業となり、放課後の時間が減った。
791			○	○	○	高学年がきつい。多い。
792			○	○	○	常に時数があり過ぎて子どもにも教師にもゆとりは生まれてない
795			○	○	○	現在教員になって25年ほどですが、新採当時は、教育課程はあまり無理のなかったものであったと記憶しています。いつからか、ぎゅうぎゅう詰めの毎日で、子どもも教員もともに疲弊しているのを感じます。もっと余裕のある教育課程で、じっくりと指導出来たら…と感じます。
796			○	○	○	時数が多すぎる(指導内容が多すぎる)と思う
802			○	○	○	時数の多さ、教科数の多さにより、児童が多忙感を持っていると感じた。
804			○	○	○	子どもたちがどんどん疲弊していつている
808			○	○	○	時数は多いと思う。もう少しゆとりがあった方が子どもにとっても教員にとっても心の余裕が生まれると思う。
814			○	○	○	標準時数自体が多く、年々教員も児童も疲弊しています。特に冬場の高学年は15時半に下校、帰宅時刻は16時半と遊ぶ暇すらありません。人間関係作りにも影響が出ています。
819			○	○	○	標準時数が増えている事が、多忙化の1番の理由だと思います。
825			○	○	○	多いため、児童も教師も多忙です。
842			○	○	○	子どもたちに毎日6時間は負担が大きい。放課後の子どもの世界から学ぶものがたくさあんあるはず(自分で時間の使い方を決める、友だちとの関わり等)。もっと子どもたちに放課後の自由時間を増やしてあげることが、子どもの自主性や協調性を育てることにつながると感じている。
850			○	○	○	時間数が多ければ学習は充実するが、子どもたちは疲れてしまう。
855			○	○	○	外国語週に2時間になってからさらに週の時間割が圧迫されてしまい、時数管理に余裕がなくなっている。
856			○	○	○	授業時数がどんどん増えて、仕事余裕がなくなっていくのを肌で感じてきました。
858			○	○	○	ギリギリで毎年標準時数をクリアしています。大変です
865			○	○	○	多すぎて、詰め込みすぎてる
867			○	○	○	特別な教科の道徳や、外国語科が増えたことで、余裕のある時間設定で授業ができず、じっくりと考えたり、友達とやりとりしたりする時間が減っていると思います。また、教員の仕事負担は増加して、授業の質を下げざるを得ない状況もあると思います。
873			○	○	○	時数が多すぎて、子どもも教員もヘトヘトです
883			○	○	○	子供の忍耐力がおちているのに、カリキュラムの時数が増えていて、子供は学習意欲がさらに落ちてきている。
897			○	○	○	時数が多すぎる。子供も大人もクタクタです。
903			○	○	○	時数が多すぎて、子供にとって負担だと感じます。外国語、総合、道徳などやるが増え、本当に大変だと思います。一つ一つのことももっと丁寧にやるのが大事だと感じます。
911			○	○	○	子どもたちだけでなく教員にも、時間も気持ちも余裕のない生活が続いてる感じがする。習い事が多いのに、毎日遅くまで学校にいるようで。

921			○	○	○	僕が働き始めた2005年の時点で、教材研究等の授業準備[時間]はあまりなく、多くは定時以降の残業でした。にも関わらず、そこからぐんぐんと授業時数が増え、今では1週間の中でそこに割ける時間はほとんどありません。学びの質の低下、子どもの放課後の時間の減少は、子どもの成長にとって大きなマイナス要因になっていると思います。
934			○	○	○	現在の標準時数では、子どもの疲労が大きく、精神的にも肉体的にも万全のコンディションで学習に臨めない児童が多い。
936			○	○	○	多すぎる
951			○	○	○	経験年数が若かったときは、時数が多くても、熱意で取り組めた。また、残業も気にしていなかった。年齢が上がるに連れて、家庭や自分の時間を考えた際に、標準時数以上に組んでいることで放課後に余剰が多く、しんどい。時代が後ろになるほど、子どもが習い事などで土日や週末が忙しく、週明けの月曜日や火曜日が授業に集中できない子どもが増えている。六時間授業を減らさないと体力が回復しきれない児童(集中できない児童)がいるのは事実です。
971			○	○	○	週あたりの時数が多い
980			○	○	○	教職員の仕事の実態とは合っていません。教材研究の時間が確保されていなくて大変です。児童の問題に当たる時間も、子供も教職員も余裕がないです。
986			○	○	○	教員の準備時間が無く、子供の充実した学習につながらない。子供も特活行事など、学校生活についてじっくり考える時間が無いと感じる。
991			○	○	○	小学生の下校時刻は、15時半を過ぎる日が多いのが現状です。日々の学校生活に疲れを感じている子が多くいるように感じます。心身ともにゆとりのある子ども時代を過ごせるといいなと思います。
992			○	○	○	時数が増えることで授業準備する時間が減った。勤務時間内に準備ができないので、いい学習とは言い難い。専科教員がいない学校や学年は児童に皺寄せがいつている。
1038			○	○	○	時数が多すぎる
1050			○	○	○	多すぎです。じっくりゆっくり学ぼうにも時間もゆとりもない。科目が多すぎて子どもも大人も疲弊している
1054			○	○	○	時数が多すぎて子どもにゆとりがない
1061			○	○	○	教えることが多すぎる。
1071			○	○	○	標準時数を守られていないことでなく、テストや地域の行事などもあり、標準時数自体が多い。
1073			○	○	○	以前高学年を持ったときは、話し合い活動やイベントにかける時間があり、楽しんで生活していました。しかし、最近の高学年では、学習内容も多く、しぼりも多かったため、教員も子供も余裕がなく、ぎすぎすしています。下校時刻も遅くなったうえに、習い事もたくさんしている子が多いため、毎日疲れて学校に来ます。学校より家がいいと言われ、悲しいです。
1078			○	○	○	3年生でも6時間授業が多く、子どもの集中が追いつかないときもある。
1085			○	○	○	時間が多いからといって充実するわけではない
1110			○	○	○	時数が多くて余裕なし。
21				○	○	時間的な余裕があまりなく、学習の苦手な児童の補充や、体験させたり、学んだことを応用させる時間がとりにくくなっていると感じています。
35				○	○	6校時はこちらもきつい。双方にいい影響は無い。
36				○	○	授業時数が増えていくことで学習に追われて子どもと関わる時間は短くなるを得ないことは感じます。
45				○	○	現場に余裕がない。時間的なゆとりが欲しい
82				○	○	時数が多すぎます。時間割も複雑になります。

87				○	○	複式の学校なので、標準時数に合わせた時間割を組むのが大変です。現在、様々な事情により、教員が、1人減の状態、二学期に向けた、時間割編成に課題があります。「カリキュラムオーバーロード」、子どもへの影響も含めて、教員への過度な負担は、やはり、じわじわと影響されているように感じます。
112				○	○	時数が多すぎて、6時間まである日が多く、子どもは疲れている様子である。家庭環境の変化も合わさって、疲弊した児童の様子が散見される。教師の多忙感から個に応じた対応ができていない。
118				○	○	ゆとりがない。今年は3年も、水曜以外6限で大変そうです。
124				○	○	ゆとりある教育をするために、時数にもゆとりがほしい。 外国語や総合、道徳などのビルド&ビルドをやめ、やめること、削減できることを検討していく必要があると思う。
133				○	○	時数が多く研修の時間も十分に取れないまま、外国語や総合、プログラミングなどが始まり、教師の負担が大きかった。
138				○	○	子どもの余裕もなく、教員の放課後などの時間も余裕もないようだと感じた。
141				○	○	もう少しゆとりを持たせても良いと思う。
142				○	○	道徳や外国語の教科化によって、授業時数が増えていく一方で、減っていくものはあまりないので、教員の負担が増えているように感じている。
143				○	○	年々増え続けて子どもたちの心のゆとりがなくなっている。
144				○	○	時数がこれだけ多くなっているからこそ、今の忙しさがあるのかなと思ってしまいました。どうしたらいいのか、不安になりました。
150				○	○	もう少し授業時数に余裕があると子どもたちの活動にも余裕が出てきて、充実したものになると思います
152				○	○	子どもも教師もかつかつで以前ほど学習の補充ができる時間がない。学習の基礎をきちんとつけさせたいのですが、放課後はすぐに帰す、休み時間は委員会活動や行事のこと、さらに個別で指導したい人数が多い…。自分の思考も変えているところです。
169				○	○	過去のほうが今よりも少しだけゆとりがあり、教師も子供も時間に追われていなかった気がする。
213				○	○	今の時間割は、教師も子どもも、疲弊するしかないものになっています。5、6時間目は、集中力も低下し、授業をしても効果があるのか疑問です。最近の子どもたちは、放課後の習い事も多く、友だちと遊ぶ時間すら無い子が多いです。教師も子どもたちも、ワークライフバランスを考え直さなければならないと思います。
214				○	○	多忙だった。
219				○	○	6時間授業は子どもが集中できなく、時間ももったいない気がします
270				○	○	高学年は毎日6時間の授業。週の後半になれば疲れが溜まり午後の授業には集中できなかつたり、特性のある子どもは参加できなかつたりした。午後は職員の出張も重なることが多く、入教ができなくなつたり担任以外の職員に負担がいつたりし、空き時間がなくなることもよくある。体育館の状況により午後の体育授業では、事情により参加できない子どもがおり、年度途中で大きく校時表を変えざるを得なくなった。職員も疲れ果て、子どもたちにとって充実した授業、活動になっているか常に疑問に思っている。
285				○	○	時数が多く、子どもとゆっくり話したりじっくり楽しい取り組みをする時間が少なかった。コロナ禍の3ヶ月休校になった年でも、学習内容はなんとか修了できたので、もう少しゆとりのある時間割を組みたい
286				○	○	小学生なのに授業が多すぎる。
302				○	○	時数が多すぎる。定時に終わるわけがない。
303				○	○	標準時数が多いように感じる。
307				○	○	勤務時間に見合う標準時数ではないと思います。
314				○	○	6時間目は10歳以下には辛い。

316				○	○	週のコマ数が増えても、午後の授業が増えるだけ。午後は学習効率も悪く、子どもの疲労感も増えていくだけだと考える。
330				○	○	標準時数が多過ぎる。もっとゆとりがある方が、今の子供の実態に合わせられる。
344				○	○	担任としての時数が多く、余裕がないのが現状です。
361				○	○	1日の授業数が多く、子どもも職員もいっぱいいっぱい。教材研究も勤務時間内にすることは不可能。複式学級ならなおさらである。
377				○	○	とにかく時数が多く、余裕がない。
388				○	○	時間数が多いように感じます。学びの時間を増やすことだけが、子どもの学力向上につながるのでしょうか。教師の負担が増え、質の高い授業料はできないと思います。
390				○	○	子どもも教師も多忙だと感じます。
398				○	○	全体的に授業時数が多すぎると感じている。〇〇教育が多く参入してくることにより、教員の負担は倍増している。
400				○	○	子どもも教員も多忙感が大きいです。
407				○	○	標準時数が多過ぎる。子ども、教師も学校でやるのが多すぎて多忙化している。やらないといけないことが多く感じる。子どもたちが、学校外で好きなことができる時間が少なく感じる。もっと標準時数を減らし、時間と心の余裕をもって学習ができるようにして欲しい。子どもが、学校以外でも、興味のある習い事や運動がでから時間が増え、個性を伸ばせるようになって欲しい。
414				○	○	時数に余裕がないので、追われてやらなければいけないことをやらされている教師が多いと思います。授業研究の為に仲間の先生と学校の外に出て地域教材についての知識を深めたりする時間もなく、机の上での学習ばかりの教師が増えていると思います。
417				○	○	大人も子どもも余裕がないなあと感じています。高学年でも時と場合によっては、6時間授業は長すぎると感じます。朝や休み時間まで委員会等の仕事が入っていることもあり、そうなると本当に子どもも大人も忙しいです。時間的な余裕がなくなると、ギスギスしがち、トラブルが起きがちになると思います。もう少しゆったり学べるような時数にならないものか…とってしまいます。
426				○	○	時数は多いと感じる。5、6時間目などは子供の集中力が低下するため国語や算数などの主要科目は時間割として設定しないようにしていた。時数と学力に相関性があるのかは甚だ疑問である。
438				○	○	詰め込みすぎて、子どもの集中は続きません。もっと心にゆとりが持てる時数にしてほしいです。
440				○	○	学年が低いほど、6時間目の授業に集中できない。高学年でも難しい。授業が詰め込まれているイメージが強く、余裕のない感覚になる。
464				○	○	毎日6時間授業は子供の集中力がもたない。教員も疲弊する。
466				○	○	余裕がなく感じます
478				○	○	標準時数ギリギリまで授業が入っていると、学級閉鎖の対応や苦手などところの習熟度別学習、行事等での子どもへの指導等に余裕がなくなり、教員も児童も疲弊する。
487				○	○	授業時数が多すぎて、家庭や地域での子どもの生活時間が少ないと思います。
489				○	○	暑い日、午後の時間の使い方、校外学習後の帰校後の時間の使い方など、子どもの集中力が無くなった状態での、時間の使い方。
504				○	○	授業時数が多すぎると教師も子どもも余裕がなくなると感じます。
507				○	○	今の時数では子どもたちが学校に拘束される時間が長いと思う。自主性を重んじるなら学校での時間と家庭での時間とのメリハリをつけて、充実した時間が過ごせるようにすべきだと思う。

518				○	○	習い事が多様化している中で、学校での学習とのバランスが取れなかったり、教員も子どもも、一日の授業時数でいっぱいになっていたりして、放課後の余裕がないように感じる
520				○	○	今は時数が多すぎて、窮屈で、子どもも以前より学校の生活で余裕がなく、ギクシャクしています。
524				○	○	ギチギチ過ぎます。一人一人が自宅でも仕事をしているのに、在校時間だけで比較されるのはすごく悲しいです。
532				○	○	1日の時数が6時間なのは大変で、それが週5日は身体的に労力を使う。余裕のある時数の方が子供個人に対して支援ができる機会が生まれると感じる。
537				○	○	時数が多く、放課後習い事もたくさんあったり、自宅まで遠かったり、もう少し子どもにゆとりのある時数にしたい。
545				○	○	午後は子どもたちも疲れている。疲れているなかの学習では学習成果も少なく見える。
546				○	○	標準時数が多過ぎる。
547				○	○	今の時数では、これからも働き続けられない。働き方が変わらない限り、放課後に授業準備や事務作業ができず、残業につながっている。教育課程も効率よく一斉指導が進むように組まれただけで、子ども一人ひとりの分かったできたを確保する余裕などない。結果として、一部の学力の高い児童だけがこなせる時数とカリキュラムであり、それ以外の子にはこなせないものとなっている。言葉を選ばなければ、落ちこぼれ製造機ではないだろうか。子ども達の分かった、できたに寄り添いたいのに、寄り添うための余裕がない。
553				○	○	標準時数・学習内容を減らす。子どもたちも教職員もゆとりをもてる。放課後の時間を充実することへ意識が向き、様々な活動に取り組むことができる。
554				○	○	余裕がなさすぎると感じます。学習指導要領の内容を削減すべきではと思います。教員不足の中、特別支援が必要な児童が増加する中では、毎日4時間授業以内で午後は事務処理時間に回さないと現場は持たない。
566				○	○	週4日間、6時間授業は子どもからしてもきつと感じる。
569				○	○	やるが多すぎるため、研究することができない。低学年に6時間は集中が続かない
573				○	○	週4日、6時間が続くことで教員も子どもも疲弊してしまう。
574				○	○	放課後に様々な習い事等をしている子どもたちが多く、1日が忙しそうです。時数が増えた分、自分で考える時間が増えたのなら良いのですが、覚えることが増えてるように感じます。
575				○	○	子どもも大人も忙し過ぎますね。
582				○	○	子どもたちも6時間授業だと疲れが出始め、早く終わらないかなと感じながら授業を受けている様子が伝わってくる。また、教員自身も6時間授業後に職員会議などの会議が入ると、休憩時間もなく定時になってしまい、授業準備やノート確認などを行うことは、定時内では不可能だと感じている。学校側が努力をしても標準時数が減らない限り、放課後の時間などを有意義に使うことは無理だと感じる。
583				○	○	現在、週に1日1コマをなくして、どの学年も火曜日は5コマになっています。そのように臨機応変できるといいなと思います。また、これは体感ですが授業時数が増えたことで子どもたちの力がついたとは思えません。学習内容を充実させること、そのために教員に準備時間を保証することが1番だと思います。
585				○	○	ほぼ毎日6時間授業のため、子どもたちは疲れ果ててしまっているのが現状です。
609				○	○	今の時数を週5日でまわすのは大変。
612				○	○	子どもたちがとても疲れている印象。5時間で帰れる日が少なすぎる。

648				○	○	6時間の授業が続くことで、子どもの体力的な負担にもつながっていると思います。学校生活はもちろん、放課後も多忙な子供が多くいます。6時間目が終わってから家に着くのが4時前だと、そこから友達と会って遊ぶのも難しい子どもがいると思います。週に2回、朝の時間にモジュールを設定しています。
656				○	○	時数が多すぎて、子供も教師も疲弊しきっているように感じます。人手不足により教師の空きコマもどんどん削られていっています。
668				○	○	標準時数が増える事で、子どもも教員も負担が増しているように感じました。特に午後の授業は眠そうにしている子どもも多く、学びの質は下がっているように見えます。私自身は「ゆとり世代」と言われる教育課程で育ちました。それにより児童に「先生ゆとり世代じゃん。」と言われることもありました。しかし、昨今の教育は、“子どもに無理をさせない”“時間短縮“のためか、思考すること、努力する経験が少ないように思います。今の教育の在り方が、本当に子どものためになっているのか、学力だけでなく、生きる力の向上に繋がっているのか疑問が残ります。
672				○	○	子どもにも職員にもゆとりがないです。
719				○	○	5日間連続6時間は高学年でもきつい。集中できる時間や、疲労度から5時間程度が良い。6時間は週2日程度など。特に、低学年3年生程度までで6時間授業は厳しい。4年生が週5日6時間というのも、現場の感覚では厳しい。
739				○	○	余裕がない
741				○	○	週4日6時間授業は、子どもも大人も大変に感じた。週5日で6時間授業のときもある。勤務時間内に、仕事が終わらなくて大変である。
746				○	○	高学年が毎日6時間で児童も教員も大変。就業時間内では仕事が全く終わらない。
756				○	○	週6時間が多すぎる
757				○	○	最近の子ども達は放課後が忙しすぎる子ども多いと感じている。6校時まで学習してから16時前の帰宅では宿題をしたり友だちと関わる時間が少ない。その弊害が学校生活にも出ているのではないかと。また、教員は時数が多く授業の準備に割く時間を放課後に確保できていない。大規模校になると専科の先生が週あたり24時間など持っていたらすると次の準備や片付けが間に合わず、子どもたちの学習に支障がきていると感じることが多い。
760				○	○	時数が多いと子供も大人も疲れてしまいあまりいい効果はないと思いました。早く帰って身も心もリフレッシュしたいです。
783				○	○	多すぎる。
785				○	○	標準時数が多すぎて大変すぎる。子どもたちも今は集中力が続かないので疲れると落ち着かなくなる。それでも、やらなければならず悪循環に。子どもたちの下校時間が遅くなるとそれだけ放課後の時間も無くなり、仕事も終わらなくて困る。こんなに必要だろうか。
805				○	○	時数が多く子どもも教師も余裕がない。
811				○	○	時数に囚われてしまい、児童の実態に合わせた指導ができない。この場合の実態とは、学力だけでなく、体調や体力などを指す。環境の変化が非常に大きく、設定された時数で通年実施していくことは児童の体力や家庭事情にすぐわかないと強く感じている。例えば、通学に徒歩50分かかる学区設定の勤務校の場合、毎朝登校するだけで体力の疲弊が大きい。さらに季節によって様々な要因が増え、過酷な登校の後の過密な授業時間設定、その後の下校をとっても保護者も不安に感じている。
820				○	○	とにかくやることが増えたと感じています。
826				○	○	各教科で考えると時数は多く感じないのですが、1日の子どもの生活を考えるとやることが多いと感じます。やらせたい気持ちはありますが、やることが多くて難しいです。
828				○	○	高学年でも6時間目まで集中できない状況でした。指導内容の厳選を。

831				○	○	高学年については、日々忙しさを感じます。5時間の日は、放課後にもゆとりがあり、子どもたちも友達と遊ぶ時間もあるので、ほぼ6時間は忙しかったと感じました。
840				○	○	時数が多すぎると、授業準備が大変になり、授業の質が下がったり残業が増えたりしました。
847				○	○	毎日6時間授業の高学年は疲れているように見える。
857				○	○	多すぎると感じています
876				○	○	標準時数が多すぎます。内容も子どもの実態とあっていません。もっと子どもの実態を見てほしいです。
940				○	○	すごく余裕のない日々になっている気がします。もっとゆとりたる毎日を。
943				○	○	子どもがやるが多すぎる。忙しすぎて遊ぶ時間もなくなかわいそう。
987				○	○	習い事をする子が増えている中、下校が遅いと、就寝時間が遅くなってしまふことにつながるのでは下校は早くできるといいと思います。
989				○	○	多過ぎるため、教材研究や分掌の仕事ができない。現在は、学年の中で一部教科担任にしている。
1002				○	○	ゆとりがない。授業準備に追われている。理科専科の配置はよかった。
1010				○	○	子供たちも教諭も疲弊していつている気がする
1011				○	○	多すぎると思います。もう少しゆとりをもった生活をしたいです。子どもと授業以外で関わる時間が足りませんし、授業準備が間に合わず、結局充実させるためには、時間外勤が当たり前になります。
1017				○	○	教員の持ち時数が多い。なかなか改善されず授業準備の時間が取れない。
1020				○	○	単純に時数が多い。もっと減らすべきと考えている方が多い。
1021				○	○	時間数が多すぎる。午後からは選択制やクラブ活動や地域の方との触れ合いの時間などにし、指導要領の内容を減らしていくべき。子どもも6時間の授業は苦しいと感じている。毎日ヘトヘトになっています。教師の労働時間も必然的に長くなってしまいます。学校に対して保育所のように思っている保護者も多くおり、頑張った分の達成感が年々薄くなっていつている。時数が増えることでいいことは何もありません。
1040				○	○	今の子供達はとても忙しいと思います。時数も増えて充実しすぎているのではないかと思います。また、教員の負担感も増えている。
1058				○	○	最近の子どもたちは、放課後に余裕がないように感じます。授業を終えたらすぐに習い事、という子も多く見られます。
1065				○	○	時数が多すぎると感じます。
1067				○	○	時数が多すぎて、子供と教員に疲れが見えます。
1081				○	○	標準時数を削ってゆとりを生み出したいです。
44				○		標準時数が多すぎる。こどもの自由な時間と教員の教材研究の時間がない。
192					○	低学年だと、標準時数を達成し、授業時数が余ることもあるが高学年ではぎりぎりという声もよく聞くので、時間割構成や休日の数など、どこかで学年層に合ったあり方にならないかと思う。
231					○	標準時数が増える一方で減らないことによる、低学年団と高学年団の空コマに大きな差が生まれています。
332				○		やや多い。1日に同じ教科を2回やらざるを得ない日がある。
345				○		疲れる
346				○		6時間目に疲弊している子供たちをよく目にします。
386				○		余裕がなく、せかせかした毎日を過ごしていた。子どもも教師も余裕がなく、もっといろいろなことに挑戦したかったが、準備もできなかった。
498				○		高学年の時数が多く、1日の生活の中で結局力を抜いて授業をしなければ子どもも教員も倒れてしまう状況。手を抜くことが分からない経験の浅い人や真面目な人ほど潰れていきます。子どもも気を抜く事を許されずしんどいと思います。
526				○		何でもやればいいというものではない。余裕のある教育が必要だと考える。

621					○	4年生は6時間目になると、集中力が切れ、ほとんど集中が続かなかった。学習内容が増えているので、こちらも授業しなければいけないが、集中できていない中で進めていくと、定着しない。学習内容、時数ともに多いと思う。
661					○	標準時数は足りていて、教育を行うにあたっては充実していると思う。しかし、学級担任一人一人の負担としては、高学年になるほど大きいものとなっていた。
669					○	減らして欲しい。負担が大きい
680					○	学校によっては先生が足りておらず、ほとんど空きがないという方がいます。
740					○	ゆとりがない
747					○	単純に多い。教科も過剰な教え込みになっている。
771					○	授業数が増えたことで、子供も教師も時間的な余裕が無くなったと感じる(いつも授業に追われている、しかし教材研究の時間は取れない)。本校では、国語だけモジュールを行っているため、高学年も週2日5時間の授業になっている。
861					○	児童の時数が多く帰る時間が遅く、定時までにはほとんど自分の仕事ができません。
927					○	児童も教師も詰め込んである日程のため、週の後半になるほど疲れが見えます
954					○	時数が多すぎて子供も大人も疲れている。時間を多くすればいいと言う訳では無い。
977					○	時数が多い気がします。子どもの良さや可能性を引き出すために子どもも教員も心にゆとりを持てると良いと思います。
996					○	六時間の日はばかりで放課後の時間が少なく、委員会や行事の児童打合せなどが、中休みや昼休みに当たり前に行われているのが残念。もうちょっと五時間の日があるといいと思います。
1119					○	小2ですら6時間学習を強いている。もっと放課後の時間を与えて、自主的な活動を選ばせるべき。
624	○	○	○	○		5時間の日が多いと、放課後に個別指導をしたり児童と遊んだりする時間が取れてよかった。英語教育などの○○教育が増え、今の子どもたちは忙しそうだと感じる。学校がいろいろ担いすぎている気がする。 最近では教員の力量がなく(自主的な研修や教員同士の学び合いの時間が取れず)、塾のような指導法が主流になってきて、子どもに主体的な学びをさせられていないと感じる。
631	○	○	○	○		時数がふえ、余裕がなくなった。授業以外のことがふえた。
310	○	○		○	○	もう少し、ゆったりと学習を進めたいです。
827	○	○			○	TTや支援員など手厚くなっているがぎゅうぎゅうな感じを受けます。総合外国語などの科目がキツクしているようにも思えます。基本の国数などに当てていた時の方がゆとりが感じられました。
1106	○	○	○			5日制になって、余裕がなくなったように思う。時数が足りなくて内容を十分に理解させながら進めることができなくなった。放課後の時間も少なく、勉強を見てあげたり、子供たちと話したり、遊んだりする余裕もなくなった。教師自身の教材研究や同僚や先輩と話し合う時間もとりにくくなり、時間外での無理が、全体に歪みを作ってしまったように思う。
1112		○		○	○	色々な教科が詰め詰め状態で、自由裁量の時数がないと感じる。
221		○		○	○	授業数が多く、ゆとりがもてないと感じる。
77		○		○	○	今の子どもたちも教職員も、6時間授業の日は疲れて、荒れやすい。もっと6時間授業を減らしたり、給食を食べて帰る日があったりしてもいい。
578			○	○		学力が低い学区ということもあり、1日6時間の授業は子どもたちにとって集中力に欠ける時間が多く、厳しいものでした。元々の授業内容が多すぎて、児童に教育課程が合っていないことがそこに見て取れました。
727			○	○		とにかく子どもも教員も忙しかったというのが正直な感想です。
50			○		○	目一杯授業を詰め込んで子どもも大人も苦しいです。
970				○		時数が多すぎて、消化するのに手一杯です。子どもも疲弊しきってます。

3. 内容量と時数の関係 183件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
4	○	○	○	○	○	発展的な学習の取り扱いなど、教科書の記述内容が多く、常に学習進度を気にしながら進める必要があった。その他にも新たな施策の児童の対応準備、他団体からの協力要請など、よほど全体量を俯瞰する調整力がなければ不可能だと感じる。学力テストなど数値学力特化対応も拍車をかけてきた。
119	○	○	○	○	○	しなければいけないことが増え、学習時間も必要。余裕がなく、深まりや体験にかける時間が充分でない。
153	○	○	○	○	○	時数と教えるべき内容が釣り合っていないので、最終詰め込むようにして教えてしまう。情報、環境、安全(不審者対応)、外国語の外部検定など、時数内では収まらない。結果、意欲を失う児童が増えている。
315	○	○	○	○	○	学校でしなければならないことがどんどん増えているので、多忙。
389	○	○	○	○	○	いろんな教科を入れすぎだし、実技教科が減って子供の学校生活が貧しくなっている。いわゆる学力に意識がいきすぎていて、子どもが豊かに育つカリキュラムができない。欲張りすぎて、結局中途半端ですね。
423	○	○	○	○	○	とにかく、現在は毎日6時間授業で、その後の少年団活動を考えると、子ども達は忙しすぎると言わざるを得ない。教員をみても、働き方改革とは名ばかりで、仕事の量は減っていない。小規模校だと、休むと学校が回らなくなってしまうこともしばしば。日々の教育を考えると、標準時数にばかりとらわれ過ぎて、もっと時間をかけてあげたいけど、いたしかたないことも。放課後に取り組みと、その後に影響が出ることもあり、十分にできないのも現状。
601	○	○	○	○	○	週5日制になり、教員は放課後に余裕がなくなり、家庭によって学力や生活力の差が著しく開いたと、私は考えます。授業の内容は減らず、教師はこなすのに精一杯。実感です。
605	○	○	○	○	○	時数が多すぎるだけでなく、学習内容も難しくなり、内容が定着できない子どもが増えた。
637	○	○	○	○	○	一日に内容を詰め込まなくては行けないので勉強が苦手な子にはつらい
653	○	○	○	○	○	週5日になって、週6日と同じ時数の授業をし、今ではさらに科目も時数も増えました。また、朝の読書や昼の算数タイムは時数カウントしていません。昔と比べると、子どもは朝も放課後も学校で遊ばなくなりました。時間と安全の問題です。教師は、放課後にスポーツや文化活動をする活動はなくなりました。放課後の時間が少なく、担当の仕事は黙々とこなしていて、他の人の仕事のことまで考えなくなりました。時数を減らしてほしいとは思いますが、減らす矛先が、癒しの時間の音楽家庭科図工書写などになりがちなのを危惧します。
670	○	○	○	○	○	土曜が、減っていく過程で、働く側として、週に二回休みがある事はとてもゆとり(生活に)が生まれ、働き続けられると感じたこと覚えてます。生活や総合が導入されるのも、子どもたちの成長を一番に考えながら何をどのように取り組むか教材研究で教師にもワクワクの希望があった。今は、内容が多すぎてきちんと子どもが理解している前に時間的制約から次に進まざるを得なく、学びがたんたんと教科書で進み、塾の先生になったような感じがします。学ぶに値する内容を感動をもって学んでいるかな、と心配になります。今はとても窮屈で(内容が、下学年に降りている事で量も増え)日々追われている感じがして、子どもからも、なんか学校は、忙しすぎると言われます。やる気を削いでいないかなとも感じます
733	○	○	○	○	○	現在のは教科も増えて余裕がありません
806	○	○	○	○	○	時数以上に、学習内容や学校に指導をさせることの要求が多すぎる。それらの内容を指導させるには、時数なり、人員なりの補充が必要だ。

810	○	○	○	○	○	標準時数そのものが議論の対象になるのは問題のすり替えにすぎない。教師一人当たりの授業時数も多いが、授業時間に収まりきれない内容も押し付けられてきたと感じている。それは、ずっと改善されておらず、教師の工夫に頼ってきた。元々不可能なことを何とか辻褃を合わせてきた実態を教育政策に携わる方々に知っていただきたい。
829	○	○	○	○	○	標準時数と現代の教育思想が、合っていない。
851	○	○	○	○	○	児童の実態が大変になっている上に、新学習指導要領になり、指導時数が足りない教科がある。
1001	○	○	○	○	○	社会情勢の変化とともに考えなくてはいけないので、一概に昔がよかったと言えない部分もある。ただし、現在、道徳や英語、その他の〇〇教育のように政治主導で教育現場に導入された様々な教育内容が現状の教科の学習を圧迫し、教員の勤務実態にも悪影響を与えている。ビルドビルドビルドで積み上げ続けた教育内容を精査しなければならないと感じている。何かを削ることなしに新たな内容を増やし続ける人たちは何を見て、考えてこれらを実践せよと言っているのか甚だ疑問である。
1019	○	○	○	○	○	色々な事が入ってきて、カタカナ表記だったり、全部いい事なのかもしれないが、現場での負担は大きい。教員が足りていない。なおかつ、愛着障害やヤングケアラーやら、児童の発達障害など、多方面に関わっての今日的課題が多いなか、対応に追われ、児童指導だけでなく、モンスターペアレンツも多く、放課後の対応に時間を費やすと教材研究や事務処理の時間が作れず、残業が多くなる。
1130	○	○	○	○	○	とにかく忙しくゆとりがない。授業の工夫や個別が難しい。放課後の遊びが減り、学校嫌い、友達との関係の希薄さが、感じられる。以前は、みんなで教科書の内容について検討したり、自主編成をしたり、教材の工夫や個別の対応を考える時間があったが、教科書の内容を終えるのに精一杯で、追われている。しかし、組合が弱体化しているせいかもしれないが、導入の度戸惑い、ちょっとした疑問は感じていても、いつの間にか、少しずつ気がついたらこうなっていたように思う。もうすぐ教員生活を終える身だが、のびのびと自主自立できる子どもたちの育成ができた時代を知らず、教科書を教える時間の確保の妨げになる行事や委員会活動や子ども同士の時間を面倒だと感じる若い先生が増えている(そうせざる得ない)ことに不安を感じている。
5		○	○	○	○	やるが多すぎる
6		○	○	○	○	標準時数、指導内容が多すぎます。
24		○	○	○	○	時数とともに課題教育など、学校に任されることが多すぎて、ゆとりがない。児童も教師も余裕がなくなっているように感じる
175		○	○	○	○	次々と新しいことが増えて、子供達も教職員も追われている
176		○	○	○	○	授業時数が多い上に新しく導入される内容に追われ、児童、教職員ともに疲れている
177		○	○	○	○	多すぎて、子どもたちがアップアップしている。詰め込みと深い思考を求めるのは、疲れる教育。
211		○	○	○	○	総合的な学習が入って来て、芸術教科が減り、十分に音楽や図工などに触れさせることができなくなった。その後も外国語が導入され、1日が窮屈な日程となり、子どもも教員も時間に追われている。放課後、さまざまな活動をしている子どもも多いので、むやみやたらに学校の時数を増やすのではなく、自分のやりたいことに打ち込める時間も子どもには必要だと思う。コロナで学級閉鎖や自宅勤務となった時に、オンラインで授業をしたのは、時数にカウントされないのもおかしいと感じた。

218		○	○	○	○	数字を改めてみることで、時数が年々増加していることがよく分かった。学校に求められていることが多く、それらをすべてこなすためには、標準時数を増やすしかなく、休みが削られ登校日を増やすしかない状況に陥っている。社会情勢、個が求めているものが多様化していくなかで、減らすものがなくすべてを学校が請け負うことは限界にきていると感じる。
256		○	○	○	○	毎日が忙しく、子どもたちも教師も進度に追いつかない感がある。
326		○	○	○	○	現行の教育課程では標準時数を大きく上回る。
392		○	○	○	○	過密すぎる。内容も複雑化している。子どもも教職員も大変。
405		○	○	○	○	学習内容の難易度が、下の学年においてきて、難しくなってきた。授業コマ数が多すぎて、窮屈である。
420		○	○	○	○	標準時数が多すぎ内容が多すぎて、子どもの生活に時間的にも精神的にも余裕がなくなったと思います。かつては道徳、総合、学活は息抜きの時間になっていたが、それもきっちり授業となったので。教員も放課後の余裕がなくなり、職体することもなくなった。
449		○	○	○	○	時数もそうだが、教えるべき内容が多くなってきているので、だんだん窮屈になってきた。
493		○	○	○	○	授業内容が多すぎて消化することが難しい。学習内容が多いと児童が習得するまでに時間を要する。探究的な学習を進めるためには学習内容の削減、および週の授業時数を減らし、児童が個々で学習できる時間を確保する必要がある。学習内容を増やして探究的な学びで資質能力を伸ばすことの両立はできない。
521		○	○	○	○	教科の時数のみ増えて、特別活動などは減り、学校生活が味気ないものになってはいないかと感じる。
523		○	○	○	○	教科以外の取り組みがいろいろあって、教科の学習を削って(端折って)きた印象が強い。人権、共生、食育、環境、キャリアなどなど…。あれこれ。地域のこと、行事のこと、あれもこれもという印象。
531		○	○	○	○	ゆとり教育とはいったいどんな教育なのか?色々な事が学校教育においてきて、やらなければならないことが多すぎると思う
563		○	○	○	○	日数を減らすなら、中身も減らさないと、超勤の温床になる。
564		○	○	○	○	学習内容が多すぎるから、授業時数を多くしてしまっているのではないか。
602		○	○	○	○	標準時数で学習内容を終わらせるのは、子供達の実態に合っていないと感じている。教科が増えているのに時数には限りがある。学力低下も当然と言える。
770		○	○	○	○	させるべきことが多すぎる。こなせる子はいいが、低位の子はつらそう。
772		○	○	○	○	どんどんやるが増えている、授業にゆとりがない。とにかくどんどん終わらせないと時間が足りない!
775		○	○	○	○	学習内容が多く、忙しく余裕のない生活になっている。
794		○	○	○	○	学校でやらなければならないことが増えすぎて、(〇〇教育や市の抽出での〇〇指定校など)授業のことを準備したり振り返ったり子どもたちの様子に心を配ったりするための教員の心の余裕がない。
852		○	○	○	○	増える一方で大変です。小学校5年の算数はとても厳しいです。難しいし、時数が足りない。やるべきことが多すぎる。
900		○	○	○	○	6年生は忙しすぎる。覚える量が多くて、放課後も忙しく、数年後には新たなモノが次々と導入される。
913		○	○	○	○	学習課題の内容が年々難しくなり、今の生活経験の少ない児童にはただでさえ厳しいのに、時数もなく、できる子が伸びるシステムと思うことが度々ある。

919		○	○	○	○	ほぼ毎日6時間授業で子どもたちは、放課後、子供同士で遊ぶことが殆どないように思われた。少年団活動や習い事が同じだとまだ良いが。子どもたち同士のつながりが弱いように感じた。時数を確保するために、昼休みを取ることができない日が週に2つある。進度が速く、ついていけない子がいる。(特に早生まれの男の子が多いように感じる)〇〇教育が今日の教育課題ということで入ってくるが、増えた分何かを減らすということがない。教育課程がきつくなる一方だ。業務に追われ、休日も教材研究や教材の準備、行事の準備、校務分掌の資料作りと休まる時がない。若い人たちに紹介できる環境にない。
923		○	○	○	○	標準時数通りでは、指導要領の内容や教科書の内容が終わらない。
963		○	○	○	○	今の学習指導要領では、児童も教職員も過密すぎる。もう少しゆとりある教育課程を編制すべき
1031		○	○	○	○	内容を減らさないと時数だけ減らしても意味がない
1037		○	○	○	○	以前と今を比べると、子どもたちの生活が忙しくなっている感じがします。下校後の過ごし方も関係しているとは思いますが、学校生活もかなり窮屈な感じがします。指導内容と時数が合っていないような気がします。
1070		○	○	○	○	ゆとり教育と言いながら、昔一時間取れた内容が、練習問題の一部として扱われている。
1076		○	○	○	○	毎日やるが多すぎて、余裕がない。
1104		○	○	○	○	標準時数が多すぎると、教科などの学習だけで追われてしまう。授業以外にも学校で大事な特別活動などに関係する活動や、行事の活動の時間が無くなってきている。授業もちろん大事だが、学校では教科だけでない活動から子どもを育てることも大事だと考えるので、標準時数がもう少し減るといいなと感じる。そのために、教科で押さえる見方、考え方を教員が意識して時数を減らしていけるようにしたい。また、教科横断型のような単元を組むことで、時数を減らすこともできるだろう。このアンケートでは、標準時数と、学習の充実だけの関係だったが、標準時数だけで充実していたかどうかを判断するのは、少し難しく感じた。しかし、教員が工夫することで、標準時数を減らし、授業や活動をさらに充実したものにできると考えるので、自分も努力していきたい。
1129		○	○	○	○	2002年～は「ゆとり」どころか、少なくとも教師にとっては、ものすごく大変になった記憶しかありません。指導時間的にもその辺りから、忙しくなったと感じていました。さらに、総合的な学習の導入は道筋が決まっていなかった分、教員も子どもも路頭に迷う事が多く、試みとしては悪くなかったと思いますが、うまくいっていなかった印象が強いです。教科も指導時間が足りなく、また総合的な学習も下準備が大変で、その辺りから、「激務」を感じるようになりました。あわせてその辺りから、学校評価等も始まり、多忙化に歯止めがかからなくなった印象を受けます。
1133		○	○	○	○	35週でカウントすることをやめてほしい。土曜日に授業があったときは、午後が楽しみだった。学習内容がどんどん増えて、時数も増えて、学校でやることが増えすぎて、先生方も子どもたちも忙しすぎる。忙しすぎるので、急かすことが増えて、悪循環な気がする。
29			○	○	○	どんどんやらねばならぬことが増えていく一方で子どもにも負担が大きいと思う。
31			○	○	○	履修内容が多過ぎて、児童生徒がやらされた感につながっていたり、発達面で課題のある児童生徒が学習についてこれずにいる。
51			○	○	○	学校の担う学習内容が多すぎて、教師も子どもたちも疲弊している。
54			○	○	○	やる事がどんどん増えていき大変。
60			○	○	○	今の教育課程は、教える内容が多すぎ。教育格差が広がるのが必然である。数学教育に携わっているが、統計分野が無駄に多く、数学教育の本質とズレている。

62			○	○	○	授業時数の増加は、子どもと教職員から余裕を奪っていったと感じている。主体的、対話的、深い学びを行うには、時間的余裕が必要であり、現状では教科書を進めるので精一杯になっている。教科書の内容も増えるだけでなく、一単元あたりの設定時間が特に高学年は短かすぎる気がする。もう少しじっくりと教材を味わわせたいが困難である。最近までコロナ禍で教職員どうして会食をすることもなくなり、チームとしての士気も下がってきている。指導内容の取捨選択を進めて、本当に必要なものだけ残してもらいたい。
66			○	○	○	やる事がたくさん増えていくのに、子どもの基礎学力をつけられる時間がなかなか取れなくなっていく気がします。
71			○	○	○	時数が多すぎる。また、指導内容も多すぎる。
79			○	○	○	あれもこれもと詰め込みすぎて、時間的ゆとりがなく子どもたちどうしの学び時間が減っていると思う。
95			○	○	○	今の標準時数と履修内容はオーバーすぎて、子どもが荒れています。それに対応する教師は精神的にも肉体的にもやられ、それを証拠に毎年欠員がでてくる次第です。保護者の立場からしても、毎日時間がなさすぎです。道徳は教科としなくても、日々子どもと関わるなかで、やってます。自分たちにあった現場でやるので、十分と思います。
116			○	○	○	このアンケートをやってみて、標準時数という枠だけで、子どもや職員の学校生活が充実しているかどうか判断するのは難しいです。時数を削減したほうがゆとりが出るのは当然ですが、教科の内容、種類その他タブレットなどやるべきことがどんどん増えて複雑化しているのにそれに加えて音楽会や作品展、運動会などなど行事の内容は変わらない。子どものために、保護者のためにと言われると全て最優先されるのが良い考えになっています。具体的に何を削減したり組み合わせたりできるのか、そういう考えのもとで大切にすべきことを残していきたい。例えば理科の学習も観察や実験の時間も惜しいため、タブレットで結果を見たり検索したりしてあっという間に終わらせてしまいませんか。子どもも大人もドキドキ・ワクワクする学びの機会を大切にしたいです。
120			○	○	○	授業内容が詰め込みすぎです。追い立てるように授業を進めています。授業時数にゆとりがほしい。
147			○	○	○	標準時数が多い、指導する内容が細かく多すぎて、教師も子どもも余裕がない。
149			○	○	○	時数を削減するだけでは解決できないと感じる。指導内容と行事の実施とのバランスが難しい。
154			○	○	○	学習内容が増えて、時数も増えましたが、大変忙しいように感じます。
164			○	○	○	過密過ぎて、学習内容が十分理解できないまま進度に合わせないといけない。余裕がない。
186			○	○	○	標準時数だと算数が定着しない
190			○	○	○	現在時数に縛られて行事が減り、子ども達が協働する喜びを感じる機会が減っている気がする。
194			○	○	○	次第にやる事が多くなってきた。余裕がない。
212			○	○	○	指導要領が改定され、さらにやる事が増え、「子どもたちがいろいろなことに追われて可愛そう」と感じることもある。運動会などの行事を精選するのではなく、しっかりやらせてあげて教科ではなかなか味わえない達成感を感じさせてあげたい。そのためには、今の授業時数は多すぎる。
223			○	○	○	標準時数や指導内容が多すぎて、それをこなすことが目標になってしまっている。
229			○	○	○	外国語や総合的な学習の時間などにかくやることや学習内容が多く、子供も先生方も余裕がないように思います。
230			○	○	○	時数と内容が合わず子供の負担が大きい。
235			○	○	○	やることばかりが増えていて、子供も教師もいっぱいいっぱいです。
240			○	○	○	やる事が多すぎて一つ一つが煩雑になっている気がします。

241			○	○	○	教科が増え、既存の教科の指導内容が増え、子どもの負担が大きくなりすぎている。今、標準時数の見直しが図られているが、期待するだけ無駄だと感じている。
255			○	○	○	年々、やることが多くなり、教師にも児童にもゆとりがなくなっている。求められることが多くなり、厳しい。
294			○	○	○	時数は増えているのに、やらなければいけないと言われることが多すぎて子どもたちに合わせた学習に取り組みにくかった。
327			○	○	○	やることがたくさんで、追われている感じがある。
328			○	○	○	時間数の問題よりも、カリキュラムが多すぎて、時間数の中で学習しきれない問題の方が大きいのではないかと思います。協働的探求を進めるのであれば、話し合いや意見を交流させる時間を確保しないと教育効果は上がらないのではないかと思います。知識を定着させる部分はICTをもっと活用して、繰り返し学習できるシステムを作り、話し合いや交流活動については、もっと対面で活発に行えるようにしていく必要があると思います。家庭学習での目標と学校での目標を整理し、時間数を調整することで、充実した学習時間を確保できるのではないかと考えます。将来的には、小学生も自分のキャリアを見つめ、単位制を導入するなど、個々の目標を設定できるようにしていけばよいと思います。これだけ個性を尊重したり多様性が言われているのに、学校教育だけ画一的に集団学習を行っているのは、ナンセンスだと思います。義務教育は、小中9年間、柔軟性なく同じ目標に向かって全員が取り組むので、不登校など様々な問題が表面化してきているのではないかと思います。
371			○	○	○	標準時数が多すぎる。子どもも、教師も余裕がない。学習時間の増加により、点数に結びつかない行事等が削減されている。
461			○	○	○	やらねばならないことが増えたという印象がある。子どもたちにも、実に多様なことを求めなければならなく、負担は増えているように感じる。時代に合わせて変容していくことは必要だと思うが、何かを増やしたのなら、その分不要なものを削減していかなければ、できるものもできなくなってしまうのではないと思う。
501			○	○	○	学校でやるが増えましたが、本当に必要なのかな?と思うことも増えたと思います。
505			○	○	○	2005年採用だが、初任から数年はまだ授業に余裕もあり、教員の裁量権も割りとおあった。しかし、2010年代以降は兎に角、内容を終わらせることに追われ、○○教育の押し売りで全ての中途半端にやらざるを得ない。同時に○○スタンダードの流行に伴い、教員個々の裁量も減っていき、どの教室でも同じような授業が求められていったように感じる。標準時数の増加は安価な大量生産教育を助長していると思えない。
506			○	○	○	標準時数の基準の見直しがあると思う。時数や履修させる内容があっていない。準備に時間がかかりすぎるのに、空き時間もなく準備しきれない。
510			○	○	○	子どもたちにとって、多すぎる内容を詰め込んでいるため、消化不良のまま、すぎていると思います。もう少し、余裕を持って進められるように減らして欲しいです。
517			○	○	○	どんどん授業時数は増えているがやることも増え授業の内容が充実してきているかと言われると疑問が残ります。
522			○	○	○	教える量が増えたことで時間も増えたと認識している。毎日6時間目は集中していないように感じる。
561			○	○	○	総合や外国語、ギガなどの情報教育、キャリア教育、いじめ[略]などの道徳教育が増えていく一方で、減ることがない教育課程に疑問を感じる。授業時数だけでは対応しきれないものが多く、負担になっている。授業時数を増やすだけではない別の対応策が必要。
593			○	○	○	各教科の教えることが多くなり、標準時数が増え、全体の時数も増え、6時間の日も増え、児童・教員ともに疲弊している。

594			○	○	○	指導内容が多くなり、子供の実態から、もう少し時間を割きたいと思っても、なかなか出来ずに次へ進むことが多かった。もう少しゆとりを持った学習になれば良いと感じている。指導内容の精選する必要性があるのではと感じる。
600			○	○	○	目標、学び方が変わったことと、時数という考え方があっていないのではないかと思います。
604			○	○	○	一つの側面として、時間があり、指導要領の内容があると、多忙になります。また、新しいもの入れているのに、時間があまり変わらないのも、多忙となります。充実ではなく、大人も子どもも多忙という印象です。
607			○	○	○	時数が増えた分、内容も増えたので、子どもも教師も負担が増え、より多忙になりより学力をつけるのが困難になった。
608			○	○	○	教科が多すぎる
616			○	○	○	学ばせる内容が多ければ多いほど、時数も必要に応じて比例する。時数を問題視するより、学習指導要領における学習内容を削らなければ難しいと感じています。
641			○	○	○	5,6年生に外国語が週に2時間入り、他教科の学習内容も減ってはいないので、様々な教科にしわ寄せあり。総合的な学習の時間の内容を簡略化する、行事を減らすなどして対応。しかし、地域によって総合的な学習の内容は様々であり、何を減らすかが課題。社会的な様々な問題を学校教育で何とかしようとするので(情報モラル教育、消費者教育、歯科指導などなど)ますます各教科にしわ寄せが来ている。学力低下となるのは当然であると思う。時数を増やすことで補っているのかもしれないが、教員研修や人材確保などは現場に丸投げ、またはトップダウン形式で指令のみが来るので(段取り準備も現場まかせ)教職員は大変ストレスを感じている。児童生徒の負担も大きい。
643			○	○	○	内容を終えるのに必死です。余裕のあるカリキュラム作成をお願いします
685			○	○	○	内容が多く標準時数を満たすのでいっぱいいっぱい。
729			○	○	○	学習内容が増えすぎて、教員も子どもも余裕が無い生活になっていると思います。
754			○	○	○	やらなければならない内容が多すぎて、負担感が大きい。
778			○	○	○	兎角、指導内容というよりも指導教科が多すぎる。平坦かつ安定したペースでの活動はある程度求められていたし、そうしなければ終わらなかつた。特に、若手はかける時間が上下動するので、大変だ。
779			○	○	○	やることが増えた一方で、削減できていないため、子どもも教師も切羽詰まった状況
821			○	○	○	高学年はいつも忙しく、「常にやるべきことに追われている」という印象。教育課程をこなすことで精一杯です。子どもにゆとりがないです。先生にも。
880			○	○	○	限られた時間の中にやることを詰め込みすぎて、全く余裕がない。急な変更も多く、混乱することが多い。追い立てられるように過ごす毎日では、子供の情緒に悪影響しかない。
881			○	○	○	やることが増えすぎて、何が本当に必要なのか分からなくなってきました。増やすなら減らしてほしい。
885			○	○	○	総合、外国語、道徳、次々と教科が増えているのに削減されるものがなくなってしまったら、こうやって、教員の生活は限界になります。教員に負担の大きい標準時数が、子供の負担にならないわけがありません。
904			○	○	○	こんなに年々時数を増やしていたのか、と驚きました。何か辛いなあということの積み重ねですね。時数は増えるけど、指導内容も増えるので、時間が増えても内容は薄いという矛盾した状態が引き起こされていると思ひますに。
909			○	○	○	やることが多過ぎて、余裕がなく、内容の十分な理解ができないまま、次の単元の学習に進まなければならない。内容を厳選して、もっと一つ一つの学習の中身を深めていける教育過程にしてほしい。

946			○	○	○	詰め込み過ぎて消化することが大変だというのが印象としてあります。何かを増やすのであれば、削ることをしないと新しいことはできないと思います。根本から見直す必要を感じます。
950			○	○	○	段々と子どもたちとゆっくり学習する時間がなくなってきた。立ち止まって考える時間がなく、子どもたちを急かすように学習にあたり、なんとか内容を終わることが中心で、子どものためにやっている感じがなくなってきた。また、子どものための活動を考えたりそれを実践する機会が持てない。教員としての楽しさがなくなっている。
984			○	○	○	とにかく、今現在が時間に追われており、しんどいです。学習の内容がちゃんと子どもたちに身につけていないのも、時間に追われて、準備が難しいこともあるからです。もっと、ゆとりをもち、子どもたちと向き合いながら進めていきたいです。
1012			○	○	○	いろいろな教科が入り、時数が増えているのがよくわかった。
1062			○	○	○	平日の日課が過密すぎる。子どもたちが疲労している。
11				○	○	教科化した内容もあり、学習する量が増えて、教員や児童生徒にとっても非常に負担であると感じる。余裕がないのはどの現場でも同じではないだろうか。このままでは本当に疲弊していくばかりであるというのが正直な思いである。
23				○	○	標準授業時数が膨らんでいると思うが、それには学習内容の増加が大きく影響していると思う。働き方改革を進めるために、週当たりのコマ数を減らしたいと考えても、学習内容を終わらせる必要性がチラつき、教育課程として抜本的に変更する事が難しいと感じている。
25				○	○	プログラミング教育をはじめ、本来定められた時数外をあてにした学習すべきことが過多となっている。また、6時間授業があたりまえとなる現在の小学校の状況は明らかに子どもたちの意欲低下につながっていると感じる。
90				○	○	時数より習得した内容が重要だと感じます。
114				○	○	教科書をこなすことに追われて、授業をやりくりするのが大変です。
115				○	○	外国語やプログラミング教育など、さまざまな〇〇教育が、導入され負担を感じる。
167				○	○	〇〇教育という名のもとの学習活動を総合の時間でよく取るので、本来総合でしたいこと、またそれによる圧迫で他の教科の授業時数を削らざるを得ない実態があります。
180				○	○	日々過密になっていて子どもたちへの負担も多くなっていると感じる。
185				○	○	ただただ多すぎる。初等(中等もか…)教育で扱うべき内容が多すぎる。子どもからすると必要感が感じにくい内容も少なくない。あれもこれもどれも…という感じ。高度な内容を扱うことが本当に資質能力の育成につながるのか疑問。
203				○	○	時数が足りません。やることばかり増えて、教科書が終わりません
216				○	○	大事なことだらけなのはわかるが、何でもかんでもつめこまれすぎな印象。
265				○	○	学習で扱う内容が多いので、子どもの学校生活を圧迫しているように思う。
267				○	○	求められるものが多く、なかなかやらなくてはいけないことが多いと感じる。
282				○	○	学習内容の肥大化により、現場の教師のみならず、塾や児童や親等がさらに忙しくなり、ゆっくり顔を合わせて話し合う時間がとれなくなっている。
299				○	○	取り組ませることに手一杯になってしまい、準備が整わないまま授業をしたり、定着を見届けられないまま次の学習に取り掛かったりしてしまうことが多々ある。
313				○	○	やるが多すぎる

347				○	○	教えることが増えている。しかし、学習の進度についてこられる子が減っている。誰も取り残さない教育を求められながら、働き方改革のために時数だけが減らされても、負担は減らない。大人にはできる時間管理も、小学生には難しい。嘔吐やおもらしをしたり、休み時間な出来事を引きずって何も手につかない子がいたりする。そもそも、確かめテストとテスト直しをする時間が、時数だけに囚われて、計画から削られている。学力差が開いて、塾だよりの家庭もある。標準時数はあくまで目安で、内容をどの子にもわかるよう教えるには、時間が足りない。と、常々思っています。
356				○	○	学ぶことが多く、追われるように授業を受けることも多かったと感じる。子供が興味を持ったものについて、とことん考える時間が設けられるようになるのではと考える。
373				○	○	やるが多すぎて児童も教員もいっぱいいっぱいです。標準時数の押さえがコロナ後に変わったような気がします。
381				○	○	「東アジア型」のつめこみ教育から、いつ抜け出すのか、楽しみです。 同時に、「新しいことを増やす」とこと、「優先順位をつけて減らす」とことのバランスが悪い今の現状、とても残念に思います。今の政府?の教育方針に希望がもてません。しがらみが悪いのでしょうか。野党も文句を言うばかりだし。若い人間が政治に関わる必要がある?でも政治活動はできないし…日本の教育はお先真っ暗だと思っています!(30代)
399				○	○	学校でやらなければならない学習が多すぎて教員、子どもともに疲れきっている
429				○	○	学習内容とそれに伴う標準時間が多過ぎると感じます。
469				○	○	今の教育課程及び授業進度は、適応できる子供もいるが、それはほんの一部だと思う。授業の中身に追いつけなかったり、もっとじっくり考えることができるゆとりの時間が必要な子は大勢いる。教員も同じで教育課程をこなすことが精一杯で、教員一人一人の子どもに対する思いが生かされていないと考える。
471				○	○	教科の内容で教えるべき項目は増えたのに、時数は変わらないので、常に時間に追われる学習(終わらせるための学習)になっている。
502				○	○	やるが多すぎて、こなすことに意識が割かれる。また、テストやテスト返し、行事ごとが計算に入っていないためか、算数等の授業が指導書通りではまず間に合わない。そのために圧縮が基本になっている。学期中に間に合わず、次の学期に回すことがよくある。コマ数が多くなったことで放課後の時間が減り、準備にかかる時間が減っている。気持ちにも余裕がない。
533				○	○	教科書をこなすのに精一杯で、とても忙しい。
534				○	○	時数の増減をテーマにするのではなく、時代に即した子どものための学習内容の精選や見直しが前提でありその上で授業時数の議論になると思う。同じ授業時数でも、指導すべき内容が見直され削減されれば、駆け足で時間に追われることなく一つの学習に充実して取り組めると思う。
627				○	○	やらなければいけないことが多すぎる。(教科的にも内容的にも)
634				○	○	上から降りてきた通りやっていたら、小学校でやらなければならないことが多くなりすぎた。子どもも大人も余裕がなく、こなすだけで精一杯。そこにさらに授業改革やらICTやらと言われても。やること増えてるのに教員は減っている。教室内での支援を要する子も増えている。国は我々に何をさせたいのかと疑問に思う。
642				○	○	学習内容がどんどん濃くなっていき、難しくなっていくことから、標準時数では足りないといった感覚になりました。時数もですが、内容も本当に小学生がここまでやらなければならないのか精選していくべきなのではと思います。
645				○	○	時数が多い印象。子どもたちもかなりしんどそう。特に5年生の算数の内容がかなり重たいので、余裕がなく時数が必要になってしまう。時数と学習内容のバランスの見直しが必要。

671				○	○	指導項目が多すぎるので、時数よりも教員の指導項目の精査の方が大切なように感じます。
684				○	○	五年生を担当していましたが余剰がなく苦しかった記憶があります。(特に算数)5年は指導内容も多く子供たちもゆとりをもてず忙しく過ごしていたのでゆとりある活動ができるよう学習内容に見合った時数編成であって欲しいと思います。行事と学習、委員会等の活動の充実が図れる時数を求めます。
705				○	○	教科に+αの学習が増えたことにより、ただでさえ学習が厳しい学校だと、ただの詰め込み学習にしかありません。なかなか空き時間も無いのに、教科は増えていく一方なので、教師側の負担は減らない現実…それが、子供たちに対して、充実した学びができる環境を整えることができないことにも繋がっているのではないのでしょうか…。子供たちが充実した学びができる環境を整えることができる、時数になって欲しいです。
738				○	○	覚えることがたくさんありすぎて、時数とのバランスが悪く感じた。
762				○	○	年々やるが増え、子供も教員も疲弊しており、力が身についているかと言われると、難しい。モジュールを取り入れた学校では、子供が早く帰る日が増え、教員が放課後に余裕を持つことができたと聞く。
807				○	○	標準時数どうこうよりも、学習内容がとにかく広く多すぎる。
813				○	○	どう考えてもムリ。詰め込みすぎて、内容の工夫・充実よりも消化するので精一杯。
832				○	○	教科書の内容がどんどん増え、それに伴って時数も増えていきました。息を抜く日が少なく、子供たちも帰ってからの用事も詰まり、子供も教師もやらされ事ばかりで疲弊しています。時数については、モジュールカウント以外に工夫が思いつきません。
866				○	○	教えることが多く、時数も多く、児童も教職員も疲弊していると思う。
877				○	○	やるが多すぎる気がします
878				○	○	標準時数の中で、やることや負担がどんどん増えているように感じる。
879				○	○	やらなければいけないことが増え時数は増えるのに教員は減っていき、教員一人一人の負担は増えるだけです。
918				○	○	することを削らないと子どもはアップアップしています。
924				○	○	算数などは内容によってはもう少し時数がほしいときがある。
974				○	○	やるべきことに対する時数が足りない。やるべきことが多すぎてきりが無い。
1015				○	○	やらなければいけない内容が多すぎることに加え複雑な児童が増え、どんなに時数があってもやりきれない。
1051				○	○	児童にとって、時数や学習内容が盛りだくさんで高学年になるにつれて疲弊具合が増している印象があります。なので、時数についてはこれ以上は増やせないと思います。
1080				○	○	学習量が多いです。
1086				○	○	教科が増え、やるべきことが多く、標準時数に収めることが難しい。
1092				○	○	学習内容が標準時数では理解に至らない場合もあるので、配當時数を工夫しなくてはならないこともある。移行してきた単元などは特にそう感じる。
1107				○	○	指導要領の内容が増えていく一方で、減らないため、標準時数が増えていくのは必然かと思います。ただ、子どもたちのことを考えると、覚えること、やるが多すぎてゆとりが少ないように感じます。
1126				○	○	標準時数は問題ないと思いますが、新しい考え方や、タブレット、外国語、道徳科などが増え、教員の負担が激増しています。また、新しいことが始まると、その分子どもたちの時数も増えざるをえなく、ゆとりのある充実した学習が確保されているように思えません。こなさなくては、習得させなくてはいけないことに追われている日々です。かと言って、標準時数を増やすことは、教員にとっても子どもにとっても負担なので、望んでいません。
1132				○	○	とにかくこなすことで精一杯なイメージ。基礎基本を大切にしたり、じっくり課題にそれぞれの能力に合わせて取り組んだりする時間がない。

184					○ 現在はアンケートやチャレンジテストなど、授業外で取り組むものも増え、以前に比べ時間が足りない気がします。
264					○ どんどん、することが増えていて増やすならなにかを減らしてほしいとおもいます、
343					○ 標準時数と各教科で身に付けるべき内容量があっていないと感じる。
541					○ コロナが流行した年からの就職でしたので、以前と比べると出来ませんが、算数の時数は足りないなあと思います。時数については、生活が多様化している子供たちにとって合っている子もいればもっと自分の時間(習い事など)が欲しい子もいるかな、と思います。
556					○ 時間を増やすのも減らすのもいいが、単元が減らない限り増やすしかない。減らしたところで単元が減らないとキツキツになってしまう
664					○ 学習内容に対して、時数が足りないと感じることは多々ありました。そのため、急足で授業を進め、十分に学びを深めることができませんでした。そのため、例えば調べ学習に必要な時間を考慮するなど、実態に即して時数の設定をしてもらいたいと感じています。
931					○ 時数が多すぎる。しかし、それよりも学習内容が多すぎて時数が足りない。その結果教員も子どもも余裕がなく大変苦しい。充実とは程遠い。
1018					○ 5年生の算数がギリギリになってしまうほど、内容が詰まっている。

4. 標準時数の中に35で割り切れないものがあること 21件

	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
52	○	○	○	○	○	多すぎる。教えることが多く、教材研究を時間内でする余裕はない。割り切れない家庭科や社会、音楽の組み合わせなど難しい。
488	○	○	○	○	○	割り切れない授業時数のため、毎週時間割を作成し配付する時間が増えた。詰め込み教育をしなければカリキュラムが終わらないため、厳しい子はどんどん置いていかれる。学力保障のため、給食時間や休み時間を削って補習をしている。
494	○	○	○	○	○	標準時数が増えたこと、5日制になったことで、放課後の時間が削減され、子どもの補習や放課後の活動が取れなくなった。また、教材研究や授業準備、課題づくりなどの時間が持ち帰りをふくむ時間外になった。時間割の固定ができず、時数集計が複雑になり、教科の進度の調整が面倒になった。時数確保のために時間割が数パターン作られた。年度末になると、標準時数確保のため、時数不足の教科を多くするための学習が進められた。
562	○	○	○	○	○	35の倍数となっていない教科は時間割が組みにくく、交換授業が行いにくい。高学年は週30時間となり、窮屈。
619	○	○	○	○	○	2.5時間等の時間配分になり、A週B週等時間割が複雑になった。
922	○	○	○	○	○	週あたりの時数が35の倍数でなくなったときから、毎週時間割を組む作業が入り、多忙化の一翼を担っていた。また、教科の指導が過密になり、行事にあてる時間がほとんどなくなり、学校での楽しい活動が年々削られたと感じてきました。学校5日制は良かったが、時数の削減と併せて導入すべきであった。そのために過密さがより強くなった。
486		○	○	○	○	時数が増え、子どもが疲弊している。我々も。本当にやりたいことを探す時間も取れない。時間割が毎週同じだった時代は、今よりずっと事務的作業が少なかった。余計な配慮余計な計算余計な作業に時間を取られている。子どもに力をつける教材研究に時間を使いたい。
812		○	○	○	○	35週で考えられているので、35で割り切れる時数にしてほしい。子供たちのリズムがあちこち行くので、忘れ物などが多くなる。
1005		○	○	○	○	週により、教科が変わってしまうことは、あまり良くない。時数が増えているが、学習内容も多くなっているため、ゆとりがない。学校がやることが多い。教員が子供とゆっくり関わらず、多忙化している。
1027		○	○	○	○	固定の時間割が作れる時数になれば、毎週時間割を作る手間が省け、子供の忘れ物が減るのではないかと思う
1113		○	○	○	○	35週で割り切れなくなった時から、時数集計の業務の負担がものすごく大きくなった。
1118		○	○	○	○	学習時間に対して学習量が多い。もう少しゆとりがあるべき。また、1コマを複数教科で分けなくてもいいようにすべき。
382			○	○	○	割り切れない時数は、煩雑化をより推し進める。A週B週など週ごとに違う日課を作ったり、学期に何回など計画を立てたりしたが、高学年になればなるほど、出入りの関係も含めて時間確保が難しくなった。個人的には、時数より、学習内容を子供が十分に理解したかが大事であると思う。
428			○	○	○	A週B週と隔週で教科がちがうので、週案簿が無いと不安になります。
691			○	○	○	教科担任制を導入するには、各教科、週数あたりの時数に端数が出ないほうが運用しやすい。

707			○	○	○	週に2.7時間など割り切れず、毎週時間割が変更になります。なるべく変わらないよう心がけています。1年生が毎日5時間、2年生が週に1回6時間授業は必要のないと感じています。
868			○	○	○	毎週、時間割を作るのが大変なので、毎週同じ時間割でできる時数だと教員の業務負担が減ると思います
1120			○	○	○	35で割り切れないのがやり辛さを感じます。毎日6時間授業は私たちも大変ですが、子どもたちもきつそうです。
145				○	○	体育と家庭科で、週ごとに入れ替わりをすることはあったが、運動会等の体育的行事が入ると家庭科ができないことがあり苦勞していた。なので、体育との入れ替わりは実施しなくなった。
560					○	時数に対して教科数が多すぎる。現在6年を担当しているが、理社図国(小単元のみ)で交換授業を週に3時間ずつ行うと国語と算数が時間割上、週3.5時間となってしまう。学習内容を精選したり教科を統廃合するなど工夫して欲しい
1008					○	割れない週数のため毎週教科が変わるのは子どもにとって良くない

5. 特別活動の標準時数が35しかないこと 11件

	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
102	○	○	○	○	○	特別活動が高学年2時間だったことについては、当時はクラブ、委員会も正規の授業時数の中にありましたが、時数改訂後は、時数外にプラスで入れなければ実施できなくなり、実質時数増となったと記憶しております。
324	○	○	○	○	○	モジュール学習をとりいれ、効果的に運用した。木曜日、金曜日の6時校は、児童の集中力に問題があると感じている。教える内容の精選をもっと現場にゆだね、標準時数を柔軟にとらえられるようにしてほしい。卒業式の練習は、内容いかに変わらず、時数にカウントしてはいけなと言われる。内容によっては、教科の目標に照らし合わせた指導をしている。
597	○	○	○	○	○	学習内容、〇〇学習等が多過ぎる。また、学活が1時間になったことで、学級会が定期的に持たなくなり、話し合いの能力や自治的能力を育成する機会がとても少なくなった。
713		○	○	○	○	指導要領で委員会活動やクラブ活動をしなさいと言っておきながら、時数の保障がされていないことが納得いかないです。
1123		○	○	○	○	委員会活動など、授業時数としてカウントしないものが多々ある。これらを考慮しながら標準時数を設定しなければならないでしょう。
110			○	○	○	実際はさらに時数にカウントされないで(カウントできる項目がない、という見解で。しかも時数外としてもカウントできないという理由で)行われている自治的な活動が、子どもの休み時間を平然と削って行われており、さらに、そのことの問題意識がなく、「自主的な活動なのだから」と平気にすり替える教師が増え、愕然としている。
268			○	○	○	学校によって始業式や終業式、保健の測定や運動会といった行事などが教科としてカウントされていないことで授業の時数に大きな差がある。なぜ、自治体によって授業時間が違うのか意味が分からない。
887			○	○	○	月～金のコマがパンパンである。休み時間にも委員会活動や児童の学習指導生徒指導など、児童も教職員も時間的なゆとりは感じられない。現行の学習内容の見直し、精選、時数の見直し。[略]ここに来て特活の時間の必要性を感じている。
75				○	○	やらなければならないことを必死で消化するような感覚です。コマ数もそうですが、コマ数に対して、やらなければならないことが多すぎます。また、教科の時間を使って(削って)行事や特別活動に取り組まなければならない状況が1年を通してあるので、教師も子供も落ち着いて勉強できる時間がほとんど無いと感じます。特に私の勤めるA市では、宿泊行事は4年生からあり、音楽会、運動会、図工作品展など、準備に時間がかかる行事や活動が毎年行われており、過密なスケジュールだと感じます。コロナをきっかけに、各校行事やカリキュラムを見直しているところですが、大きな改革、改善に繋がって欲しいです。
406				○	○	時数が多くて教員に余裕がない。また、以前と比べて行事や特色ある活動が削られている。子どもを取り巻く環境が多様になっている今だからこそ、そういった活動の必要性を感じている。
688				○	○	この時数だと余剰がないため、行事に時数を使うと本当にカツカツのスケジュールであった。

6. 時数編成の工夫 86件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
111	○	○	○	○	○	標準時数のスリム化も必要ですが、履修内容の見直し、精選、教科書内容のスリム化も同時にはからないと、結局詰め込み教育に終始してしまう。親は、教科書をきちんと教えてもらっているかをかなり気にしています。教師側の重点教材の考え方は、親には通用しません。
163	○	○	○	○	○	標準時数が多すぎるし、ねばならない学習内容も増え過ぎ。本来、総合的な学習の時間は、子どもたちと相談しながら学習を多岐に展開していく時間であったはずなのに、今は、英語やパソコンなどこれをこれだけして!と決めつけられ、それに乗っ取られて、本来の総合的な学習の時間ではなくなっている。時数が増えた際の工夫、①モジュールの活用した日課表の工夫、②「何が子どもたちにとって大切な時間か」を話し合い、内容精選する、③②を踏まえ、なくても構わないと判断した時間の廃止→ 毎日の掃除時間、チャイム、「子どもが」好きでないと判断した行事等。
364	○	○	○	○	○	最近、子どもたちの下校が16時あたりとなり、しんどいだろうなと思うことに加えて、放課後に、友達としっかり遊べる日も減っています。朝の学習の時間のモジュールを1時間でカウントするだけでも、早く下校ができると思うのですが、なかなかそれも難しいと言われてしまい…。
422	○	○	○	○	○	高学年がほとんど6時間授業になることで、放課後の余裕はなく、クラブ、委員会活動は縮小。学校行事も縮小になり、子どもたちが楽しみにしているものを減らすことになった。
492	○	○	○	○	○	週休2日になった事で毎日の時数が増え、さらに外国語や総合的な学習が入って、時数が増えて負担が大きくなった。モジュールの時間で1コマの計算にして工夫した時もあった。
722	○	○	○	○	○	あくまでも標準といいながらもそれを越えるように計画されていた。特に、2020年代は、全く余裕のない時数で、教育の質が問われる事態になった。午前5時間授業等の工夫もしてみたが、小手先の教育課程の変遷では、何とものならないことがわかった。時数を増やすことが学力向上につながるのか、○○教育の名前で、交通整理もせずに学校現場に導入する無責任体質を変えない限り、時代に即した教育は成り立たないだろう。時数を増やすことが、学力向上ではないことに気がつくべきだ。
1009	○	○	○	○	○	時数を確保するために、モジュールを活用していましたが、端数の計算が面倒で、時数票を提出する時期は、憂鬱だったことを覚えています。
93		○	○	○	○	管理職が、モジュールを時数として認めません。実際に朝学で漢字学習していますが、何のカウントにもならない時間になっています。
105		○	○	○	○	今の勤務校は時数カウントを行い、標準時間に達しているのに、給食がない日は短縮40分×4時間で帰るなどしています。また朝にモジュール15分×3回で1時間にしています。全学年木曜日は5時間目までです。4年以上は金曜日の月1回のクラブ活動。5,6年はそれに加えて委員会活動をし、あとの2回は5時間目まで帰宅します。わりとこの時間はゆったりしています。隣の学校ではそうではないと聞きます。終業式の日も4時間学校にいたりとか…。本当に学校、校長によって異なるのかなと感じます。
113		○	○	○	○	本校では学期はじめ、終わりは給食後下校するなどできるだけ時数を減らすようにしている。また、朝の15分3日も時数にカウントしている。
168		○	○	○	○	帯時間を設け、15分を3つで1カウントしていたこともあった。

311		○	○	○	○	以前よりは、学校行事や活動など様々なことについて、削減、改善はされているが、それ以上に増加している。多忙であり多忙感も増長している。
652		○	○	○	○	詰め込みすぎ。毎日四時過ぎまで、陸上記録会の練習などがあると4時半まで子どもの指導。退庁時間は4時40分で、定時に帰ることは不可能。帰ればそれだけ後からしわ寄せがあり、翌日以降の準備をしないと自分が苦しい。結局は自分が進んで時間外に仕事をしているようになっている。標準時数を減らさなければ働き方改革にはならない。午前に5時間授業をして、放課後の時間を確保している学校もあるが、過密スケジュールになることは否めない。子どもたちの集中力や持続力は10年前とは比べ物にならないほど変化している。このまま同じような指導を同じような時数で行うことは無理がある。早く時数削減をして、各校の実情にあった時程が組めると、子どもにも職員にも余裕が生まれると思う。
673		○	○	○	○	1日の時数がどんどん増えているのが実感できた。昔に比べて先生も児童も学校生活が忙しく、慌ただしくなっている。高学年は特に、委員会や実行委員会を休み時間に行く必要があり、遊ぶ暇さえもないこともある。先生も当然付き合うため同様である。土曜日授業があった頃は、土曜日の午後、先生たちは近隣校で集まり野球のリーグ戦をしていたたそうである。月?金も、子どもを帰したらゆっくりできたらいい。今は、放課後も会議等何かしらあり、休憩時間はあるが、誰も休憩していない。休憩したらその分帰宅が遅くなるからである。校内の働き方改革は、十分進んだ。効率化、精選、やることはやりつくした感がある。国が人を増やす。お金がないなら学習内容を減らして授業時間を減らす。そうしないと、多忙は変わらないだろう。個人的には、総合は小学生には必要ない。基礎的な知識技能の習得に力をそそぐべき。英語は翻訳機がこれだけ進んでいるのだから、大人になって必要な人が学べば良い。小学生に必要なし。
890		○	○	○	○	毎日6時間授業では、児童も教員も疲弊する。午後は活動的で楽しく学習できるよう工夫していたが、毎日の授業準備もその分増えて大変だった。
893		○	○	○	○	現在は、まだ予備時数が多く高学年になると週29時間もあるので、放課後の時間もあまりとれないし、担任希望する先生があまりいない。成績処理の期間として2・3週間高学年で週4日5時間、週1日6時間、週26時間でやってみた。そちらの方が教師も子どももゆとりがあった。
1041		○	○	○	○	行事の削減の中、生きる力を求められ、子どもたちに考えさせながら取り組む活動をすすめたいが授業の余裕がなく厳しい。
1043		○	○	○	○	新しい教科等が増え、教員共に余裕がない。楽しめる行事はどんどんなくなり、ICTなど教師のスキルや自治体の整備状況の格差も見られる。長期休みの日数を減らし、日々の時数を分散させるなどの工夫が必要だと思う。しかし、行事1つをとっても変えることを嫌う管理職に、改善を求めても進まない現状がある。
1105		○	○	○	○	標準時数に近付けることで、小学校教員の教材研究、事務仕事の時間を生み出しています。また、子供たちにとって負担なく効果的な授業を模索することの大切さを、改めて感じられるようになりました。
3			○	○	○	年々多くなっていることが負担となっていて、冬季は6時間目が終わると日が傾いているので、長すぎると思います。また、A市では独自の標準時間数を設定し2011年ころから実施していたので、これ以降の時数が増えたときには負担感が増したという実感は少なかったです。A市では多くの学校がモジュール制を取り入れ、朝学習に3分の1時間、週3回行うことで下校時間が遅くならないように工夫していました。
7			○	○	○	教育課程、やることが年々増えてきた。外国語をモジュールで朝の学習に実施する等、工夫したが、とにかく空いている時間に詰め込むような感じで、子どもにも、教員にも、どんどん余裕がなくなってきていた。やらなければ、こなさなければ、問題なく一日を終えなければ、と自ら追い込んでいくような実態である。

13			○	○	○	時数も多くて大変だったが、それ以上に教科書の内容が多すぎて、以前はできていた学級独自の活動や、少しゆったりする時間、復習をする時間などがほとんどとれなくなった。学校では毎週水曜日をノー掃除デーにして、下校時刻を早くする工夫をしたり、クラブを減らして年に数日5時間授業にするなどしたりしていたが、結局そこに会議が入るので学級事務の時間はほとんどなかった。
37			○	○	○	自治体の方針で週28時間になり、1時間ですが、子どもも教職員も余裕ができ、きちんと授業時数も確保されています。
38			○	○	○	標準といいながらも、内容が多いのでその時数内で子どもに力を付けさせるのはかなり難しいと感じた。そのため、朝の時間を使ったりと工夫はしていたが、子どもにとって充実していたかは疑問。今年度から時数が1コマ減ることになり、放課後に余裕ができた。学習内容を減らすことで、教員・子どもたちともに余裕ができ、充実した学校生活を送れるようになっていくのではないかと思う。
106			○	○	○	本校では、朝学(15分=1/3h)を週3回(以上)漢字学習など行い、国語の時間1h加算している。
158			○	○	○	余剰をとってはいたがコロナによって余剰がなくて何とかなることがわかった。つめつめの教育課程は教職員だけでなく、何より子どもの負担です。
178			○	○	○	学校現場での工夫では、もういっぱいだと思います。子どもたちも6時間の日が多く疲れている気がします。学習内容を精選して、やめるものはやめるなどしなければ増えるばかりです。○○教育と名をつけて学校に任せているものが多いのではないのでしょうか? 減らしましょう。
234			○	○	○	モジュールで時数をカウント
278			○	○	○	クラブ活動が減ったり働き方改革の視点に関連してだったりなどから、子どもたちにとって学校が「通いたいな」と思う場所から、徐々に離れていっている気がします。
289			○	○	○	年々6時間授業が増え、6時間という授業時間に子どもたちも少しずつ慣れてきているようだ。午前5時間にすることで、午後の授業が1時間に本校はなっているので、6時間授業の長さ、辛さは、少し緩和できているかもしれないと感じた。
290			○	○	○	小学校の教育課程に、外国語や総合、プログラミングなど、矢継ぎ早に押し付けられたものや、内容が積み重なりすぎていて、現場の創意工夫で何とかするのは限界!
323			○	○	○	道徳や外国語の教科化などに加え、教科指導の中でプログラミング教育などの実施等、様々な活動が上乘せになりました。持ち時間を減らすため、高学年(5、6年)の体育時間を一方の学年担任が受け持ち合同で体育をする対応はしてきました。しかし、単学年の学習内容では学習活動をするのが難しく、また、週あたり一時間だけの合同体育は、学年の学習内容の進度に合わせずらく、系統的に内容をつなげていくことも大変でした。
335			○	○	○	本校では、午前5時間制等子供も教師も負担を少しでも減らす工夫をしているが、限界がある。多様な子供たちがおり、どの子も余裕のない毎日を送ることになり、悪循環になっていることが多い。

355			○	○	○	外国語にせよ何にせよ、やった方が良くという思いで増やすばかりなため、今までの時間割では限界が来るのは目に見えていたと思う。学校ごとに業間休みや昼休みを削ったり、予備時数を調整したりと苦肉の策を行っているが、児童（特に特別な支援を要する児童）の負担感が増している。負担感が増している状態で、授業が充実するわけがないと思う。（その中でも児童自身はがんばっているとは思いますが）小学生に外国語って本当に絶対必要ですか？その前に国語を確実にやろうよと思うのは私だけですか？また、職員にとっても負担感が増しているが、その上で働き方改革をせっついてくる状況に「無茶を言うな」と言いたい。[略]時数が増えるなら、それに伴って実働できる適切な人的措置を考えないとならないと思うが、それがなされないのに職員に余裕ができるはずもない。その状態で充実した授業に繋がられるかは未だに甚だ疑問である。蛇足が過ぎましたが、以上です。
374			○	○	○	標準時数が増加し、かつ必ずクリアしなければならないものとして扱われたことから、予備時数確保のために授業日数・総授業時数は増加の一途をたどりました。しかしここ数年で、やむを得ない事情で標準時数に達しない教科があったとしても、そのことのみをもって法令違反とはしない、という文科省の通知が出されたことによって、余剰時数を抑え総授業時数を削減する教育課程編成が可能になりました。これにより、現任校では行事の見直しと併せて週時数を削減し、最大週28コマで運用しています。ただし、その分各教科の授業時数をより適切に管理する必要があるため、そちらに労力を割かざるを得ません。
379			○	○	○	教科数や時数が増え（外国語、道徳、総合）慌ただしくなり、子どもも学校も疲弊している。実技教科を午後に回すなど時間割の工夫をしたが、限界がある。学びが充実したとは思えない？
384			○	○	○	週時数が増え、子どもが疲弊しているように感じる。モジュールを取り入れることで一時間を確保している。
393			○	○	○	予備時数を極力減らして本校の教育課程は、子供に無理がないので、いいと思う。
457			○	○	○	そもそも、各地域で気候なども違うのに、全国一律というのが納得いかない。また、高学年でも週27.28で可能な学校もあるので、そちらも考えていただきたい。
530			○	○	○	教員の授業研究の機会を確保するため、モジュール学習を導入し、やりくりをしていた。また、5日間全て6時間は子供にとって負担が大きく、学習効率も低下する印象。
538			○	○	○	時数が多くなり、充実するかと思ったが、6時間目を1日減らすために15分ずつの短時間学習を週3回入れたことで、逆に余裕がなくなってしまった。
576			○	○	○	朝の時間15分をモジュールとして3回で1時間にカウントしています。昔に比べて子どもたちの自由な時間が減ったので、ずっと学習しているような感じがします。6時間目になると子どもたちも疲れています。習い事の時間に間に合うようにさようならをした後急いで帰る子どもたちを見て、なんだか大変だと感じています。
596			○	○	○	外国語活動や外国語科が入って、時間割組むのが大変で、国語とか算数とかを帯でとったりした。

633			○	○	○	現代の子どもたちは習い事も多く、共働きで学童へ行く子どもも多く、土日は家族の時間となると平日子ども同士で遊ぶ経験が少ない。親同士が友達じゃないと遊べない…といった声もよく聞かれる。6時間目までであると、子どもは疲れてしまうようで、時数のわりに授業が充実しているかという正直自信がない。教科が偏らないように…など時間割を工夫してメリハリをつけたいが、教科担任制の導入で交換授業をしているとそれも難しい。また6時間目が終わって子どもが下校すると16時、そこから保護者対応や会議、丸付けなどをすると授業準備の時間も休憩時間も勤務時間内には取れない。教材研究が後回しになってしまい教員相互の高め合いができていないことも授業の充実に向けた課題となっている。
675			○	○	○	標準時数が多すぎる。子どもにも教員にも余裕がない。工夫をすればするほど、教員の負担は増すばかりです。
678			○	○	○	モジュールで稼いでいた感があります。
709			○	○	○	標準時数と勤務時間は切り離せない関係です。標準時数が多い高学年担任は低学年担任よりも勤務時間が長くなったり、抱える業務が多くなったりしてきました。低学年は、余裕時数が多すぎるので、標準時数を基に、適切な週コマ数を設けて、午前授業の日をつくるなど、早めに下校させるなど柔軟な対応をしていく必要があります。そうすることで、低学年担任は、担任外の業務や、高学年の専科指導など業務を均等にすることができます
724			○	○	○	学校により時間帯は違いますが、45分を3分割した15分を3回で、1時間扱いにするモジュールが取り入れられました。45分の授業と同等の内容にはやはりならなかったと感じます。
859			○	○	○	6時間授業が増えることで、放課後の授業準備の時間が圧迫されます。私の学校では、月に一回程度半日の日がありましたが、授業準備や事務処理に時間がかけられるのため、教員に大変好評です。
955			○	○	○	今は時数が多く、教師も子どもも負担が多い。モジュールを取り入れないと大変。
993			○	○	○	低学年は毎年、標準時数がかかりオーバーします。低学年は学習内容が標準時数内で終わります。低学年は空き時間がなく、クラブも委員会も担当しているので、週27時間持ちます。モジュールは扱いづらいです。
1039			○	○	○	標準時数よりも、かなり上乗せで時数を確保しているため、実際はもっと多い。もう少し減らして、子どもも教員もゆとりがある方がいいと思う。放課後のゆとりを産むために、本校は、日課を変更しているが、子どもたちの休み時間は短くなっているため、それも可哀想かなと思うところである。
1108			○	○	○	10年前は、週28コマは当たり前でした。空きもなくそれが普通でした。マヒしていたのだと思います。そう考えると、現在は、空きがあるので楽になりました。
26				○	○	現行の指導内容を標準時数内でやろうとすると、なかなか余裕がない。子どもたちが分かっていないなあという様子でも、復習の時間をあまりとることができない。(足踏みをすると、学期末や年度末にしわ寄せがきてしまうので)。とにかく学習を進めることを優先しなくてはならず、学校行事に向けての準備もどんどん簡素化(よい面もあるが)していく一方。子どもたちにとって、これでもいいのだろうか。
39				○	○	筑波大学が、カリキュラムオーバーロードという言葉を出していました。教育課程の内容が授業時数を超えているのではないかという考えです。僕はこの考えに賛成する立場です。今の子どもは忙しすぎますし、教職員にも余裕がありません。教育課程の内容を削るべきです。具体的に何を削るべきかは、答えられません。現場はかなり工夫をしています。掃除を削ったり、朝学習を見直したり…でも限界があります。子どもは学校、デイサービス、塾、社会体育と大忙しです。標準時数のみで起きている問題は少ないのでは無いかと思います。スマホの普及、核家族化、物価高の上昇…ここらへんが複雑に絡み合っ、あらゆる生きづらさを生んでいると僕は考えます。

63				○	○	特別支援学級の児童が増加傾向にあり、個別学習の取り出しの為に、学年よりも先に特別支援学級の方で時間割を考えるようにしていた。
225				○	○	モジュール学習をうまく使えると楽になるのではないか。
227				○	○	全体的に多いイメージがあります。これは学校教育で求められる内容が多くなったり、質も高いモノを求められているからだと思います。行政の精選縮小化、モジュールタイムの活用など行なっていますが、一日辺りの学校生活は隙間なくゆとりない生活を子供達は送っています
254				○	○	モジュールで15分を3日行い、水曜日を5限としていました。毎日6限は子どもにとってしんどいです。いじめや嫌がらせがなかったとしても、欠席者は多くなると考えられます。
275				○	○	マネジメントしていけば、もっと少ない時間数でできます。教科書会社が出している教師用(通称赤刷り)が、全て指導の邪魔をしている。時間数に関しては、モデルとしての扱って良いのでは。
331				○	○	現在は、やるべきことが増えすぎている。学校ごとの精選にも限界があると感じる
349				○	○	モジュール(15分×3)を設けて、1日に少しずつ授業時数を確保し、全体として授業日数を減らし、長期休暇ができるだけ長く取れるように工夫していた。→標準時数が多すぎて、教員の働き方や、子どもの生活への圧迫感があり、それを軽減しようとしていた。標準時数がもう少し少なくても、学習内容の充実には特に問題がないと感じる。
410				○	○	現在は、長期休みを減らして、授業時数を確保しているので、子どもにも教員にもゆとりが不足しているように感じます。
416				○	○	単純に、小学生には時数が多いと感じます。児童会活動が負担に感じるほどです。行事を休み時間に行うなど、子どもたちは休む時間もありません。特別支援の児童たちにとっても、とても窮屈な日課です。
421				○	○	必要な教科が増えるばかりで余裕がなくなっている。何かを増やすなら他を減らすことも考えてほしい。あまりに授業時数が増えてきていたので学校では授業時数を減らした。
431				○	○	1週間のうち6時間目が多いのは子どもも大人もきついです。集中力も続きません。体力も持ちません。効率も悪いです。本校は校区が広く登下校に時間がかかる点も6時間目授業が多いことは子どもを危険に晒すひとつの要因です。朝学習のモジュールを行うことで6時間目の日を1日減らしました。しかしまだ足りません。年々、道徳、外国語、ICT活動などやらなければならないことがおろされ、内容も回数も増えていきます。そのせいで基礎的な学習がじっくりできず、学びの積み重ねが積み重なりにくくなっています。今のつめこみ教育、大問題です。やるだけやって力をつくまでにはできていない。頭に残っていない現状。内容削減、時数削減。子どもにも休息、自主的な学びの時間、仲間と遊び人間関係を学ぶ時間など、それぞれが使える自由な時間が必要。

433				○	○	授業時数が多く、子どもが疲弊しきっていた。それでも、学習指導要領に明記された指導内容を学習するには、時間に余裕がなかった。コロナをきっかけに、教職員で議論を重ね、授業日課を見直し、6時間日課でも15時下校ができるようになり、子どもにとっても教員にとっても良い改革となったが、「幼稚園より下校が早い」「そんなに早く下校されては困る」等の保護者の声から、校長会で日課を元通りに戻すように言われ、一方的なトップダウンで今まで通りの日課になった。「子ども主体」を掲げながら、指導内容を終わらせることに追われ指導の要素が強くなり、「民主教育」を掲げながら、多数決での決定が多くなり、少数派の意見を軽視することが多かった。ソサエティー5.0で「創造性」を謳いながら、新たなものを生み出すための時間が保障されていなかった。何度も同学年を経験していれば、学習内容に軽重をつけながら一年間の学習を行えるが、小学校において、その条件が当てはまる教員は限られている。結果、指導内容が終わらなくなり、余剰事業時数を積み上げることにつながっている。
495				○	○	総合、外国語、道徳、ICTなどの国からのものがどんどん増えるばかりで、子どもたちが本当に付けるべき力が身に付いているのか疑問である。専科指導の充実でかなり助けられているが、学年よっての差が大きすぎる。例えば6年生では4教科専科。4年生では1教科。平等にはできないが、できるだけ分担できればいいなと感じている。
570				○	○	高学年になればなるほど、時数も多く、負担も多いので、専科の先生を配置して少しでも負担が軽減されるように工夫されていた。
663				○	○	行事を合わせるとやる事が多く、子どもも忙しい印象がある。余剰も減らす動きがある中で、時間に追われた対応が優先的になり、余裕を持った指導に難しさを感じる。
939				○	○	モジュールなどを活用して平日の授業時数も工夫されてきています。業務改善の観点からやっていますが、やはり平日の授業時数と教材研究時間が見合いません。ゆとりを持って勉強したいと思う反面、時数がカツカツで思ったようにできない時もあります。
948				○	○	モジュールの活用が難しい
1016				○	○	大規模校は教科担任制を取り入れ、教材研究の時間を確保し、充実した教育活動ができるかもしれないが、中小規模校では実現が難しいと思う。
1093				○	○	今まで行事で行っていた時間を削減し、教科等の指導要領のねらいを達成できる内容と関連付けて、標準時数に入れていくことで、教科の内容も満たし、週時数が1時間でも減るとゆとりが出てくると考えています。
1099				○	○	モジュールなど、15分単位の朝の学習も45分で1時間カウントで子供の実態に合わせて工夫していた
1124				○	○	教える内容に対しては、もっと増やさないと無理な時数だと思う。物理的に増やすのが無理なのだから、教えている内容を削るという行為が当然必要だが、なぜかやることは増えていくので、現場レベルで取り組める働き方改革や教育課程の見直しは、すでに限界を超えている。国としての判断が必要だが、期待するだけ無駄なので、これからも倒れる教員は増え、教員になりたいと思う人間は減り、また現場に残る人の負担が増え、という負のスパイラルで教育は衰退していくと思う。
81					○	小規模校に勤務していたのでクラブ活動が成立せず、モジュールで全校で縦割り班活動をしていました。
125					○	A市の小学校で勤務していますが、僕の所属する学校では、毎週水曜日は5校時までとなっており、会議をその日に行なったりゆとりを持って業務を行うことができます。全ての曜日で5校時とは行かなくても、いくつかの曜日であれば業務的に楽だなと思いました。
283					○	モジュールを活用して週の時数を減らしていた。

475					○	やることが多く、時数が足りないと言っている場面が多い印象です。結果的になくなるのは子どもたちが楽しめる行事関係で、寂しく感じます。
797					○	高学年で、5時間授業の日を増やせると思う。
896					○	今勤務している学校は、前年度小学校2年生で週に1回6時間授業の日がありました。しかし、今年度は朝の時間を活用することで(1回15分×週3回)時間を確保し、毎日5時間授業になりました。
914					○	時数が多すぎて、放課後外で遊ぶ時間が減り、習い事も遅くまですることになり、かわいそう。1-3年生は、時数に余裕があれば1月から週時数1時間カットしている。
841		○		○	○	標準時数のあり方というよりは、教育内容の検討が必要だと思う。子供達の生活時間としては、無理のない時間だとしても、自分が子供の頃にあった学習発表会や遠足、運動会などの楽しい行事が削減され、学習の詰め込み、学力向上ばかりがクローズアップされ、息苦しい。学習が苦手な子にとっての、居場所づくりが難しい。
613		○	○	○		学校の特性に合わせて自由に組めるような自由さが今はもうない。
123		○	○	○		小学校高学年の教科担任制の導入により、担任の空き時間が増加し、授業準備時間が取れるようになった。本年より特別支援学級の担任の授業がこれまでの国語、算数程度ではなく、約50%の授業内容を通常学級から特別支援学級で持つことが義務付けられた。特別支援学級担任にとって大変負担増となっている。少人数であれ、異学年でマックス8人の障害がある児童への対応は、一人では厳しいケースが多発している。市町村によって支援員が配置されているものの、不足している現状があり、増員が急務である。その年ごとに児童の実態も異なるため、これまでの配置人数で対応できないケースがある。ところが行政はそのようなケースに対応できる予算がなく、教務主任や空き時間の教師にT2として入ってもらうなど、教員の負担増がある。

7. 要望や提案 216件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
53	○	○	○	○	○	内容を精選し、ゆとりある時数に戻した方がよいと思う。
83	○	○	○	○	○	いろいろなものを増やしに増やしてパンパンな状況を改善するべき。こんなに増やして、結局、日本の学力は世界の中で通用しない学力でしかない。ゆっくり子どもたちと過ごした時代のほうが、世界に通用する日本人だった気がする。
134	○	○	○	○	○	課題教育の範囲が広がったため、授業時数の増加が行われたが、児童の集中力が続かなくなりかきりできるかというそれは違うと思う。課題教育をアウトソーシングできる仕組みがあるとよい。そのことで、専門性の向上と雇用の創出につなげるよう政策に反映させてほしい。
206	○	○	○	○	○	時数確保に追われる。総時数も減らしてほしい
228	○	○	○	○	○	学校の裁量で子どもの実態に応じて、時数を決められるようになるとういなあと思います。体験的学習をできるような時間の使い方をしたいです。
250	○	○	○	○	○	子ども達は昔と比べ疲れている。子どもにも教職員にも余裕が必要だ。毎日、4時間授業でいいと思う。
279	○	○	○	○	○	標準時数より人員を増やし、一人の持ち時間を減らすことが最優先だと思う。
291	○	○	○	○	○	どの教科も35で割り切れる時数にしてほしい。
334	○	○	○	○	○	6時間の日を減らすことが、必要と考える。
359	○	○	○	○	○	学校は午前授業で集中して取り組むような標準時数が、理想である。午後は芸能やスポーツなどの地域の社会教育に任せられるとなお理想的である。
419	○	○	○	○	○	時数が多すぎる。思い切って、午前みの授業とし、午後は地域に返し、その中で生活、総合、体育、クラブなどに充てるのが望ましい。短期間で成果を求める学習を、学校教育に求める時代は終わった。改革しないと、定額働かせ放題の教員待遇は、変わらない。働き方改革は、改善されないぞ!子どもにとって、その道の専門家による指導の方が、幸せなこともある。俄によるとってつけた様な教えより、ずっとましなことも、たくさんある。
436	○	○	○	○	○	若い頃は、時数が子どもの生活に合っているかどうか、考えたこともなかった。昔は、子どもを学校で長い時間引き受ける責任感のようなものがあつたが、今の子どもの実態からすると、標準時数は少なくてよい。また、教員の予備時数神話、いわゆる時数が足りないと教科書が終わらない、学力をつけきるか不安、という意識を変えないと、学校は変わらない。
474	○	○	○	○	○	毎日、6校時まで学校にいるのは、平日の放課後、子供達が遊んだり活動したりする時間が限られる。放課後、自由な時間を多くしてあげたい。だから、時数を減らす工夫をしては、どうでしょうか。
485	○	○	○	○	○	時数が多すぎて、学習に対する集中力が続かないような感じがする。学習内容や行事を見直して、時数を少なくしたほうが、よいのではないかと思います。
500	○	○	○	○	○	教員も児童も授業時数や内容が多すぎて消化しきれない。海外のように教育指導要領の内容を精選してゆっくりじっくり取り組めて、個別最適化が可能な基本的な内容に抑えてほしい。現場は書類の作成、提出、調査等、授業とは関係のない仕事に追われて疲弊している。早急に教員数の確保を行い、カウンセラーや弁護士等の専門家を配置してほしい。このままでは教員になりたいという人材がいなくなってしまう、日本は崩壊すると大変危機感を感じる。

586	○	○	○	○	○	時間割を組む作業や授業の準備などを考えても各教科などの時数は、35で割り切れること、週時数は、28以内(学校行事や児童会活動なども含む)であることが望まれる。そのためには、時代に合わせて何かを増やすときには、同等数の削減を必ずすることを前提に考えて欲しい。
598	○	○	○	○	○	専科を導入する教科を増やすなどして、1人が受け持つ教科数を減らすと、負担が減ると思います。
625	○	○	○	○	○	時数的には充実しているように見えても、現在5日のうち4日が6時間授業というのは、学習する児童にも、授業する教員にも、負担しかありません。教員の人数も不足している中、教員の有給休暇がどんなに保障されても、それを補う教員の負担だけが増えました。教科内容の削減と標準時数の削減と、教員の充実をお願いします。
667	○	○	○	○	○	時数は、35で割り切れる数にしてほしいと思っています。教員の負担を減らすため、標準時数を減らしてもらいたいとは思いますが、それ以上に教える内容(量)を減らしてもらいたいと思います。理解した内容を、復習する時間すらありませんし、そもそも児童指導が入ると、授業を進めることもできなくなります。余裕をもった計画で進めていけたらと思います。時数が多くても、充実しているように感じられた昔は、授業以外の仕事が、今より少なかったからだろうなと思います。
726	○	○	○	○	○	指導要領の内容が増え、指導時数がめいいっぱい。学習指導要領の内容削減とともに、標準指導時数を1000時間以下にしないと、子どもも学校に余裕がない
737	○	○	○	○	○	五日制は定着しているにも関わらず、制度前の時数で5日につめこまれ、かつ英語教育、ICT教育など新しい教育課題などの対応で膨張している。いじめ、不登校、生徒指導上課題、発達特性など子どもをめぐる教育課題も多様で深刻な状況が加わり、一人の担任が関わり、こなしていける教育課程にはなっていない。教員一人あたりの授業コマ数を上限規制し、これに沿った教員の定数改善をしない限り、主体的、協働的で深い学びの追求達成は過重にあると思う。総時数も標準から大幅に多いところに是正通知されるようだが、現場はなぜそうせざるを得ないのかこそを理解すべきだと思う。規定の時数で十分学力定着ができない内容過多のため、加力や補充の時間設定をあえてしないといけない根本の問題点を文科省は考えるべき。結局は、水曜日5時間以外はフル6時間の週時間割になっている。
759	○	○	○	○	○	余剰時数を有効に活用し、児童も教職員も時間的にゆとりのある、実効性のある標準時数を考えるべき。
835	○	○	○	○	○	標準時数は削減することが望ましい。放課後の遊ぶ時間が少ないと感じる。
874	○	○	○	○	○	現在、高学年は週29時間の授業時間で、学習している。教職員、こども、どちらにとっても、授業時間が多過ぎる。週あたりの授業時間を20時間程度にする必要がある。
995	○	○	○	○	○	今の標準時数の授業をすると、授業だけで勤務時間は終了します。勤務時間内に仕事を終えるには、時数を減らして勤務時間内に授業準備をするようにして欲しいと強く思います
8		○	○	○	○	時数を減らさないと、教員の仕事は減らないと思うし、メンタル的にも改善しないと切に思う。
15		○	○	○	○	今現在は理科専科をしており、週当たりの持ち授業時数は12時間程度。この時間であれば教材研究の時間も十分に確保でき、授業内容も充実させられる。現行のカリキュラムは詰め込みすぎており、担任一人では対応しようがない。カリキュラムの見直しがなければ人を増やして週当たりの持ち授業時数を最大でも20時間程度にする必要があると感じる。
19		○	○	○	○	今は、標準時数は多く、子どもたちにも教職員にも負担が大きく、学校を楽しむゆとりはない。子どもたちが学校楽しいと思えるように、時間のゆとりが必要。思いきって1コマ削ってよいと思う。実際にできている市町村もある。

55		○	○	○	○	学習の定着をはかれる児童と、もっと時間を必要としている児童がいます。教職員は授業をするだけでいいのであれば、そこまでの話ですが、一人ひとりの学びを大事にしたいので、もっと余裕のある内容にしてほしいです。
58		○	○	○	○	5日制以降の子どもたちの生活において、時数が多過ぎます。放課後や休み時間に培われる関係性が著しく損なわれています。教員も忙しく、ごくたまに時間が空いているときに、そこを狙ったように子どもたちは話しかけてきます。子どもも教員が忙しそうにしているのを見て、話しかけたい、聞いてほしい気持ちを抑えているのです。時数を思い切って削減し、子どもたちにゆとりを取り戻すべきです。
68		○	○	○	○	教科が増え、毎日余裕なく学習時間が詰め込まれ、教師も児童もじっくり学習に取り組めていないように感じます。もう少し、ゆったりと学習できるような時数や学習内容になれば…と思います。
207		○	○	○	○	私が、小学生のころの、一～二年生は、四時間授業。あれが、なつかしい。ゆとりほしいですね。
220		○	○	○	○	学習内容が多岐多様になったので、準備がかなり必要となったが、担任一人でいろいろやるのは無理がある。教科担任制をもっと進めて、教員を増やして、学習内容を充実させたい。
253		○	○	○	○	週あたり、授業時数を詰め込むだけ詰め込んで、子どもたちと語らう放課後の時間も無くなった。職員会議の時間さえ生み出せない、放課後の打ち合わせもできない。そして、埋められないその時間は、超過勤務となって職員の心と身体健康まで奪うようになりましたよね。前回の指導要領改訂のときから想像がついていました。疲弊する教育界になるということが容易に想像できました。現場感覚の無い人たちが、これだけ時数を増やしたからこうなったわけで、週あたりの時数を減らし、6時間授業日は多くても週に2回までとするべきです。こんなに遅い時間まで子どもたちを勉強漬けにしても、学習効率はあがりません。昔のように「この指とまれ」で遊べる時間を増やす方が、子どもにも大人にも大切です。学習指導要領が次に改訂される頃、私はもう退職。残念で残念で仕方がありません。子どもと語らう時間が無いのですから。
276		○	○	○	○	勤務時間と授業時間の割合が、適切な勤務時間を阻害している。特に、小学校は壊滅的である。持ち時間が多い小学校では、職員数を増やして、持ち時間を減らしていく必要がある。でなければ、たくさんある時間数は子供にとって苦痛以外何も無い。今の時間数を減らすではなく、教師の持ち時間を減らして、充実した学習こそ意味があると思う
280		○	○	○	○	高学年は大変なように思います。標準時数が週1、2減るといいのですが
336		○	○	○	○	6時間授業の増加、休み時間の減少など、子どもたちの負担はおおきい。また、教科が増えてきているので、時数は増える一方で、精選してほしい。成績処理も電算化の一方で、量的に増えたと思う。
348		○	○	○	○	本当に必要な授業時数の精選が必要だと、思っている。
375		○	○	○	○	指導内容が増えると標準時数も増えるので指導内容の精選が必要。
402		○	○	○	○	内容が多すぎるために時数も多くなっている。内容を絞り時数を減らすことで充実した学習ができる。現場で自由に取り組めるような内容時数が必要。
403		○	○	○	○	時数を増やしたことで、単純に学びが充実すると思っている人がいるのが不思議でなりません。機械ではありませんので、作業時間を増やせば多く作れるというものではないことに、なぜ気づかないのか。不思議です。
411		○	○	○	○	放課後に少し余裕をもてる時数は、週25から週27程度と感じている。子どもにも、ほぼ毎日六時間授業はかなりハード。
442		○	○	○	○	小学校は中学校と違って専科も少なく、標準時数イコール授業時数ですよ。一度トラブルが起きるとそちらに追われてしまいました。副担任がいればどれだけ助かったかと思います。ぜひ副担任を増やしていただき、業務の削減に繋げていただければと思います。

444		○	○	○	○	何もかもが、子どもたちの学びに必要な…と、教育内容を盛り込み続けてきた弊害は、とてつもなく大きいと感じています。文科省や教育委員会の言いなりになって、従順に「学び」を子どもたちを押しつけてきた教員は少なくなく、今となっては、その、盛り込まれ過ぎた「学び」の中で認められ、その価値観の中で成長した若い方が、学校現場にたくさん新たな教員として入ってきています。「教育」とは何か語られない学校、職員室。学校教育は、壊れていくばかりです。早く、標準授業時数を見直していただきたいし、昔の学校みたいに、子どもたちとゆっくり語り合う空間を増やしていきたいものです。
480		○	○	○	○	小学生に6時間授業は長すぎる。集中力も続かず落ち着きもなくなり非効率。標準時数を減らすべき。また、学校で学ばせるものが多すぎる。日常生活の指導や人間関係、SNSなど学校が担い過ぎる。学習指導を中心なら行うべき。
497		○	○	○	○	現在の状況は、週のコマ数が多く、教職員にも、子どもにとっても負担が大き過ぎる。改善が必要と思う。
614		○	○	○	○	学習内容を現代に必要な内容に精選して、学習内容を減らし、標準時数を減らした方がよい。学校にいる時間が長い。
618		○	○	○	○	土曜日があった頃は、まだ6時間授業の日が少なく、やることができていたが、最近は毎日がフルで学習しなければならない。これから教えることを精選し時数を減らしていくべきだ。
622		○	○	○	○	週6日の方がゆったりと学校生活が送れていた。学習においても、余裕をもってできていた。週5日制が今はいいが、現行の制度は詰め込みすぎ。せめて少し前の制度の方が、子どもの負担も少ない。標準時数のあり方は、今の子どもの現状をみて考え直すべき。
623		○	○	○	○	週5日制を考えると、2008年がしっくりくるが、「確かな学力アピール」からゆとり教育や総合の充実が蔑ろにされた。時数もだが、学習内容も同時に精選が必要だと思います。
629		○	○	○	○	小学校のほぼ毎日6時間は、教師も児童も辛い。空き時間が全くないと、授業の準備ができない。小学校は4時間から5時間でないと無理。または教師の持ち時間を週20時間程度に抑えるべき。
693		○	○	○	○	標準時数をクリアするために、モジュールなども利用して頑張っているが、そもそも、時数というよりも、やる事が多く、新しい教科もどんどん詰め込まれて、余裕もゆとりもない。子供を教えるためには、まず教員の働き方にも国は政策をしてほしい。子供が帰ってからの、四時から会議など、疲労でしかない。会議後からの教材研究もままならないまま、保護者のクレーム対応とか、30年前にはなかった業務が山積みです。標準時数をクリアするために1時間を40分という動きがありますが、例えば理科の実験や、音楽、家庭科、体育など、専科だったら教室に入って少し授業をしたらすぐにおしまいのように感じます。教科を減らす事が最優先かなとも思います。
715		○	○	○	○	ゆとり教育が始まって、落ちこぼれる子が少なくなり、こどもたちも表情が明るくなった。今は、授業時数が多すぎて、こどもも教職員もいっぱいになっている。ゆとり教育の頃とまではいなくても、もう少しゆとりある教育課程になってほしい。
718		○	○	○	○	1日にあまり授業を詰め込み過ぎてはいけないと考えます。
734		○	○	○	○	教える内容を選択制にすることで、もう少し削減してほしい。そうすれば、標準時数を減らすことができる。
750		○	○	○	○	モジュールをうまく使って 学力を保障しながら、6時間の日を減らしたい
764		○	○	○	○	もっと削る
818		○	○	○	○	現在の指導内容のまま、時数だけを減らすのは、子どもも教員も苦しむだけ。
823		○	○	○	○	標準時数を変更することで、子どもたちに不利益が生じないようにすることが、大切だと思えます。

846		○	○	○	○	学校にいない時間(放課後や休日)も子どもにとって大切な時間だと思うが、その時間は家庭状況によるので、充実した時間を過ごせる子どももいるが、学校にいた方が心配もなくなるしいいという場合もある。担任としては、学習の準備時間も確保したいので、子どもが学校にいない時間も欲しい。
912		○	○	○	○	標準時数という名で、学校はなんかあったら困ると言う事で、プラス50以上の時数を余剰でとり、行事や委員会、クラブと毎日六時間授業では、体が持たない。昔はよかったかもしれないが、今は、生徒指導上の仕事も授業後にある。教科担任のいない学校は、仕事が終わらない。なんとか、標準時数を少なくするか、教科担任を入れるかしてほしいと思います。
941		○	○	○	○	6時間授業を減らしたくとも、指導内容が多くて難しい。急いで教えるゆとりのない姿が見えるから週コマを減らせない。教科書をちゃんと見てから、予備時数を減らすようにしてほしい。
944		○	○	○	○	今、週時程で5時間の日を増やそうとする動きになっており、その分、夏休みに登校したり、創立記念日や県民の日を授業日にしたりする傾向にあります。また、前文科省永岡大臣が、余剰時数分を洗い出すということですが、学習内容が多く、現在でもキツキツで終わる状態なので、内容を精選しなければどうにもならないと思います。また、何でも学校で行うという風潮を世の中から無くさない、教員不足は解消しないと思います。
960		○	○	○	○	児童にとっても教員にとっても現在の時数は負担が大きいので、授業時数を減らしてほしい。
973		○	○	○	○	年々忙しくなっている。人を増やしてほしい。
1056		○	○	○	○	時数を増やした分忙しくなり、結果として必要な学習に力を集中させることが難しくなった。さらに1日の学習時間が増え、教材準備の時間が減っているのに学力向上を強いているのは矛盾していると思います。必要な学力を身に付けさせるのであれば、学習内容や教科の精選、または学校行事や校務分掌の見直しなど海外の取り組みを参考に抜本的な改革が必要だと思います。
1091		○	○	○	○	児童が自主的に計画して活動する時間がなくなったと感じる。今の児童こそ特活の時間が大切だと思う。
1096		○	○	○	○	指導内容を精選して、1000コマ以下にして欲しいですね。教員にとって放課後の時間がすくないことは明日の業務に支障が出る。
1102		○	○	○	○	毎日6時間は子どもにとっても、教員にとっても負担が大きい。もう少し少なくてよい。指導内容を厳選して、もう少し減らせるとよい
1127		○	○	○	○	標準が多すぎて、学校への拘束時間が長いです。子どもたちも先生も「疲れた」と言うことが多くなっています。会議では、児童の具体的な様子を語りながら、余時数が増えすぎないように毎年要望しています。(これは冗談話ですが、「私が文科省大臣になったら毎日5時間授業にする!」といつもまわりに言っています)
1128		○	○	○	○	個人的な見解ですが、毎日、午前授業で良いと思います。午後は、会議、教材研究にあてる。それが、質の高い人材育成になることでしょ。
1131		○	○	○	○	現在の教育課程では子ども達が疲弊している。時数詰め込みのため休み時間は短くなり、B日課によりさらに窮屈に。授業は子ども達が自分で考え判断する余裕もない。国は総時数削減の大鉈を振るべき。
9			○	○	○	標準時数が増えることで、空き時間がなくなり、子どもと向き合う時間が減ったり、時間外勤務や持ち帰り仕事が増えている。働き方改革で業務改善だけを進めるのではなく、標準時数の改善も必要不可欠だと考える。
14			○	○	○	指導要領の変化により学習内容も増えたことから持ち時間数も増大した。教育内容を精選し、学習指導要領の内容も削減しなければ、標準授業時数も減らせない。ぎゅうぎゅう詰めの毎日では、また、学習内容が多すぎるとは、子どもたちのゆたかな学びは望めない
17			○	○	○	高学年でも、週27時間が限界だと思う。担任の待ち時数は22時間程度が適切だと思う。そのために人を増やすべきだと思う。

57			○	○	○	学校現場にもう少しゆとりが必要だと考える。それは、子どもたちにとってもそうだし、教職員にとってもそうだと思う。年度はじめや学期はじめには4時間授業にしている時があるが、その時は子どもたちにも教職員にもゆとりがあり、教育活動も充実しているように感じる。抜本的な時数の改定を望んでいる。
69			○	○	○	外国語・外国語活動を週1、2コマ担任がしなければならなくなったことは明らかに担任の持ちコマ数を増やした原因になっています。しかも導入前の多文化の要素が無くなり、中学校の英語の語彙力やスペルに直結するやり方で、責任も負担も増えています。また道徳の教科化に関しても、持ちコマに変化はありませんが、評価が加わったことで業務増は間違いありません。今回の中教審でも議題に上がった、50時間超にもなるような余分のある計画は必要ありません。それよりも職員会議のある日は給食、掃除(必要なら昼休み)後に子どもを帰すことは、たかだか月に一度のことなので可能だと思います。学校の働き方改革は喫緊の課題であることをもっとアピールし、その程度のことでも社会に受け入れてもらえる努力は教育行政に行ってもらわないといけないことだと考えます。標準時数が増えたことで、学校現場から余裕が無くなっていることは間違いありません。次の世代に余裕を生むためにも、このアンケートが活かされることを願っています。
91			○	○	○	自分の学校の教育課程を変える道筋を考えていきたい。また変えていった事例があれば教えていただきたい。
94			○	○	○	現場の雰囲気を見ると授業時数を減らして欲しいのは山々ですが、そんな雰囲気がないのが実際です。誰かが声をあげて変えていかないといけないと思います。余剰時数を越えているから良いではなく、本当に必要なことは何なのかをしっかりと考えていきたい。
99			○	○	○	授業時数を減らすには子どもに教えるべき内容を精査する必要があると思います。子どもの実態に合わない内容で苦しんでいる子どもが増えるばかりです。標準授業時数を減らすためにも内容の精査をしてほしいと思います。
100			○	○	○	時数にこだわるのではない、教育を進めていきたいと思いました。
108			○	○	○	6時間目は特活などでないと授業として成立しづらいと思います。モジュール授業等で、現場は工夫していますが、授業時間を減らすことや、35時間の倍数の時間数にして、毎週の教科を考える負担を減らしてほしいと思います。
126			○	○	○	どんどんやるが増えて、授業時数も増えていっているようで、子どもたちにとっては苦しいのではないかと感じます。授業をする側としても、6時間目はなかなか苦しいです。子どものやる気に照らしてみても、5時間目までで終わって、教師も子どももゆるやかに過ごせる方がいいなと思いました。私自身は小学生時代は土曜日に学校があり、平日も放課後が長かった記憶があります。たくさん遊んでいました。高学年から土曜日が少しずつ休みになっていきました。両親もその時代、教師をしていましたが、今よりもっとゆっくりしていたよと話していました。子どもにとって、本当によい教育課程になれるといいなと思います。
130			○	○	○	学習する内容や教科が多すぎて子どもたちも教員もとにかくやらなきゃおわらせなきゃという気持ちになってしまい、悪循環。しかも授業時間内だけではおられない中身もたくさんあるので。余裕がないと深い学びはできない!学習内容を減らし、標準時数も減らし、コマ数も減らし、ゆとりのある学校現場にしたい!
135			○	○	○	そもそも多すぎる。本当に小学校で学ばなければならないのか、吟味する必要があると思う。毎日5時間授業にただで、私たちの働き方が大きく変わると思う。
174			○	○	○	児童にとっても教員にとってもゆとりある時数設定をして欲しい
191			○	○	○	標準時数を現在の2/3程度まで減らしてほしい。多忙化や働き方改革が叫ばれている中、予算を付けずにできる改善は、時数の削減しかない。諸外国並みか、週休3日制にすべき。

193			○	○	○	授業時数を減らしても学力は変わらないと思う。子どもも教員も余裕がないので、(教えることを減らすよう)国に動いてもらいたい。
197			○	○	○	子どもたちに教える内容だけに注目が行き過ぎて、それを教える授業の準備等の時間に配慮がない。教えることと授業準備はセットとして考えていただきたい。
201			○	○	○	週5日制になったばかりの時は、土曜に行っていた時数を平日に移動することで問題なく教育課程を進めることができていたが、総合を増やした後に、成果や必要性などからカリキュラムの精査を行わずに、外国語を導入したことで標準時数がどんどん増えることとなった、必要な物と削減する物のバランスをとって、児童や先生方に負担が過剰にならないようにしてほしい。
232			○	○	○	外国語が週2時間になってから、子供たちの負担が大幅に増えた。60分授業、午前中の5時間授業、6時間授業+クラブ・委員会など、様々な方法で各学校で対応している。いずれも負担が大きく、常々改善が必要だと感じている。少なくとも高学年では、週当たり1時間のコマ数減が必要である。
243			○	○	○	今教職員も子どもたちも授業がいっぱい余裕がないように感じます。授業時数を見直す取り組みがすすんでいるみたいですが、(週3日5時間授業等)早急にそうしてほしいと思います。
261			○	○	○	結局すべてのものが足し算になっていることに問題があると感じます。標準時数は全体の総数なので、足し算ばかりではなく、引き算できるものが大切になると思います。
271			○	○	○	横断的に教科を扱えるといいと思う。
287			○	○	○	900時間程度で大丈夫ではないでしょうか？
298			○	○	○	学習指導要領が変わるたびに、新しい時代に必要な力・内容が増える一方で減るものがなく、時数が増えていくばかり。教員にとっては指導できる範囲も広がるばかりで、研修を受けて対応することが基本だが、研修を受けたところで指導できないものばかり。家庭からは、年々要求が強くなるばかりで厳しいのが現状。全ての教科領域の標準時数の見直し=指導内容の精選が必要。
318			○	○	○	各教科で求められる力が変わって来て内容が多くなり、外国語や道徳、ICTなど新しく増えものもあります。現場として、やりきれない感があります。学力の二極化も進んでいて、基礎学力が身に付かない児童には時間が足りません。そういった実態もあり、時数管理が曖昧になっている担任もいます。管理を厳しくすることはできますが、報告書類を増やすと多忙感が増してしまいます。確実にを行うことがコンプライアンス的に当たり前なのですが、小学校では、例えば担任がコロナやインフルエンザで1週間不在になると助勤となり、計画通りの課程ができていくかという甚だ疑問です。計画はきちんとすべきですし、確実に実行すべきですが、本来はそうすることで子供たちの力が伸びるはずで、それが子供の力を伸ばすことにつながっていない実感としてあります。子供たちに力をつけられる、教員が生き生きと働けるようにするためには、学習指導要領の内容の削減をし、それを踏まえて標準時数も20年前程度に削減してほしいです。
367			○	○	○	子供の負担や教員の負担を考えると1日5時間で充分。行事の内容を精選し、効率よく教育課程の必要時数の見直しをしていきたい
385			○	○	○	極端な話ですが、午前中に授業を行い、給食や掃除をして帰るくらいが丁度いいと思う。
395			○	○	○	今の時数は子どもは苦しく、集中が続かない。もっと減らして余裕をもたせたい。
425			○	○	○	標準時数が多すぎて多忙化、長時間労働が是正されない。学習指導要領の内容削減を切に望む。
508			○	○	○	授業は午前だけで十分
513			○	○	○	授業時数が多すぎる。もっと減らして、ゆとりのある学習を行いたい。

514			○	○	○	余剰はなくても十分学習は終わる。もっと少なくともよいくらい。
515			○	○	○	子ども一人ひとりに丁寧に向き合う事が大切で、それが求められている。しかしやることは増え、教員は減り、教師一人ひとりの負荷も限界にきている。人を増やすか、やる事を減らすしかないと思う。標準時数を減らすべきだと思う。工夫ではなんとでも出来ない域にまでできてしまっているように思えます
567			○	○	○	時数をもう少し少なくともよいのでは。
577			○	○	○	子供は変わっていない。社会の有り様が変わってきている。求められる人間性も時代と共に変わってきていて、今はそのスピードがとても速い。近代教育以降、時数の増加、内容の拡充、競争によって資質能力が向上した一部分は評価しつつも、現代に求められる力を育むために学校で教える内容の精選、時数の削減は必要と考える。
579			○	○	○	標準時数の課題ではないかもしれないが、昼食後の児童の学習の質、集中力が大きく落ちることが感じられる。小学校の段階では、食後のカリキュラムや時数は考えを改める必要があるように感じる。
584			○	○	○	学校で教えないといけない事柄が年々増えてきて、時間はいくらあっても足りないです。教員の多忙化につながっていると感じています。5時間、6時間授業のあとに、会議や学級事務に追われています。児童にも負担が大きいと思います。一方で時数を少なくすると放課後の過ごし方に問題が出てくると思います。学校以外のこどもたちが過ごせる居場所や選択肢を増やすことも必要だと思います。
591			○	○	○	標準時数もそうだが、まずは予備時数についての認識の仕方を変えなくてはいけないと思う。
640			○	○	○	子どもたちの在校時間が長い。予備時数は、最低限にして、子どもも大人も生き生きと生活できる学校にしていきたい。
658			○	○	○	量より質の向上を期待します。
659			○	○	○	これだけ多忙化やブラック化が社会問題になっています。学習内容を精算することで、標準時数を減らして、放課後の時間を確保してほしい。
660			○	○	○	六時間終了後に、会議や保護者対応をしています。そんなことをしていると、あっというまに定時を迎えます。本当にこれで授業準備をして、子ども達と向き合えるのか不安です。何でもかんでも学校が引き受ける時代は終わったと思います。社会全体で、子ども達の成長に関われるように、五時間終了を実現してほしい。また、授業準備をする時間を確保するために、子ども達が安心して安全に登校できるためにも、教員にも余裕を確保してほしい。
662			○	○	○	6時間目は高学年でも体力的にも精神的にも厳しい。全学年5時間もしくは4時間でも良いと思う。
683			○	○	○	総合的な学習や外国語活動など教育の内容が増えていくにつれて、標準時数も増加している。一方、ICTの活用は現在欠かせないものとなっているが、ICTの基本的なスキルを教える時間が整備されているとは言えない。内容を精選し、子どもたちにある程度のゆとりが必要。
686			○	○	○	標準時数の削減は、教える内容とセットでないと現場を苦しめるだけ。教える内容が多く、時数を削ると「すべての子どもの学ぶ力を保障できない」。特に社会経済的に苦しい地域はなおさら。だから、標準時数だけを減らすのは、本当にやめてほしい。
692			○	○	○	もっと内容を精選すべき。教科ごとに進化させようとするから子どもも教員も苦しくなっていく。そして、実力が身に付かないままになる。教科は基礎基本を充実すべき。そして、今の子供たちには特活など人との関わりを学べる時間が重要

702			○	○	○	時数が増えたことにより、余裕のない生活を送る子ども達の姿を見ることが多くなりました。カリマネが大切、というのは分かりますが、そこにメスを入れるのはなかなか難しいと感じています。正直、自分より上の世代の方々の中に、昔の教育課程の在り方が良いという前提で、それを今の教育課程にそのまま当てはめようとしている人達が出て、その人達に困っています。子ども達は放課後もとっても忙しいです。もちろん教職員も。心を育む教育は、余裕の中で展開できると思うので、まずは時数を減らして欲しいです。ただ、現場の教職員の意識が変わることによって変わるものもたくさんあると感じています。
717			○	○	○	もっと減らしたらいいと思う。学習指導要領も内容を減らす方向で考え直すべき。
751			○	○	○	子どもも教師も時数に縛られて余裕がありません。心に余裕がもてるような取り組みに改革してほしい。
765			○	○	○	時数を増やせばいいというものではないと思う。
815			○	○	○	学習内容の量に無理のない時数を勘案していただきたい。
822			○	○	○	教育の質を上げるためには、準備が大切です。始業前の準備の時間、放課後の時間。この2つを確保するのが大事だと感じています。
849			○	○	○	学校の時間数も多く放課後も習い事が多い子どもたちの心のゆとりがないように感じる。小学生のうち、もっとゆとりをもって過ごす時間があるといいと思う。
854			○	○	○	標準時数が増えすぎです。国から、やることばかりが増やされ、何かが減ることはなく、ひたすら大変になっていると感じます。授業でやることをもっと精選し、時数もそれとともに減らしていくべきだと考えます。
888			○	○	○	モジュールを実施し、6時間の日を少なくしていた。教員が定員数配置されておらず、1人あたりの持ち時数が多く、分掌負担も大きいので6時間は本当に大変。予備時数を最低にして、余裕のある働き方ができる教育課程を組んでほしい。
889			○	○	○	週5日制でも、初めの頃は余裕があったように感じる。最近は、高学年が毎日ほぼ6時間なので、子供も教員も余裕がない。学校教育で、あれもこれもと増やしたからではないか。真に何を学ばせたらよいか、現場の声を聞きながら考えていって欲しい。
895			○	○	○	毎日5時間でもよい。個別最適が授業だけではなく、生活に生かされるとよい
916			○	○	○	6時間目不要。5時間目も、ないとさらに良い。授業の準備もできずに、授業している。
933			○	○	○	6時間が毎日の生活では、子どもたちは疲れ切っていると思います。もっとすべきことができる、やらされているではなく、やりたいと思える時数にできたらと思います。
938			○	○	○	オール5時間程度が子供の体力を考えるとふさわしいと思います
945			○	○	○	小学校は、1日5時間が限界です。6時間目はクラブか委員会で、教科学習はなし。これを実現するには、全国学テ廃止するしかない。
967			○	○	○	教員の働き方改革は、標準時数の削減が必須だと思います。特に、小学校高学年の外国語は導入の過程がやや強引であったと感じます。小学校の外国語の実際の成果や課題を挙げつつ、削減廃止でよいと感じています。
979			○	○	○	内容を精選して、毎日5時間で終わるようにすればよい。
981			○	○	○	標準時数を減らし、家庭の教育力に頼るようにしたらいいと思います。
988			○	○	○	働き方改革というのであれば、放課後時間を確保することが必要。
998			○	○	○	時数が増えたことで、内容も増え、理解できない子も増えたように感じる。標準時数&指導内容をもっと減らして、子供も教員もゆとりがあったほうがよい。

999			○	○	○	標準時数が多い。総合や外国語など様々なものが入ってきて増えているのに減るものがない。学び方によって各教科の内容を押さえつつ、資質能力を身につけることは可能。(教科横断的におさえられるものもある。)それよりも6時間目まで行わなければこなせない標準時数のあり方が問題であるとする。各教科の標準時数はもっと減らして良いとする。
1006			○	○	○	学習内容が増えすぎて、ついていけない子がかわいそう。もっと内容や教科の精選をしたほうがいい。教員の負担にもなっている。
1022			○	○	○	標準時数が、授業実施最低時数として取扱われてしまっている。履修漏れさえなければ、標準時数を下回っても何ら問題はない、という公の取り決めにしてほしい。標準時数を下回っていても学習活動が十分に成されている学校の工夫を広めていくことで、子どもの負担を減らし、教員の働き方改革の一つとしてほしい。
1053			○	○	○	今の時代、毎日5時間授業が、子どもも教師もゆとりをもって生活できるのではないのでしょうか。6時間目までであると、集中が続きません。
1068			○	○	○	日々、追われている様な気分になる。教師も児童も疲れている。
1100			○	○	○	授業時数が、多すぎる気がする。学習内容を精選し、必要なことにしっかり時間をかけてあげられるように余裕があったらいいと思う。
1101			○	○	○	校内体制の工夫や専科の活用などでそれぞれの先生方に週に何時間かでも空き時間等、個別に業務を行う時間があれば、今の時数でも問題はないと思いますが、それが難しい場合は週時数の削減が必要だと思います。
30				○	○	時数も教える内容も多すぎて、慌ただしい日常を送っています。けれども、その内容は時代に合ったものかと言われると微妙なものも多いです。さらに時代に合わせて追加された内容(外国語、プログラミングなど)は追加されるだけで、その分何かが削られることなく現場に丸投げされているように感じます。そのため十分な力をつけられるような授業ができず、ただ日々をこなすだけになってしまいがちです。標準時数が全学年5以下になり、時代に合った本当に必要な学習内容に精選していただけたらいいのになあと思います。
42				○	○	もっと柔軟にゆとりを持って学習させたい。
46				○	○	授業時数と教育課程が多いと思います。内容の精選をしたらいいと思います。
61				○	○	時数の在り方や捉え方も重要だと思いますが、現在取りだ出されている時数の課題については、業務改善、働き方改革を柱として議論されることが先行しているように思います。それより、今の子どもたち、子どもたちの未来を柱に何が必要で何が不要なのか、改善すべきなのかを議論すべきではないのでしょうか。
67				○	○	活動内容だけが増え、子どもや教師の負担が増えている気がします。働き方改革が進められている中で、学習内容や教育課程を、考える必要があるとおもいます。
103				○	○	現在の時数は多すぎて、子どもも大人もゆとりが全くありません。ゆとりを持って集中して学習に取り組める時数の策定を望みます。
104				○	○	時数だけを議論すると共に学習内容の精選をしていくことで子ども達や教職員にとってもよい環境になると思いました。
210				○	○	高学年でも5時間の日を作り、放課後に余裕をもたせたい。
217				○	○	少なくしましょう。
233				○	○	やるべき教科だけがが増えていくことで、教員も子どもたちも余裕が無いように思う。やるべきことを精選すべきだと思う。特に外国語の必修化は負担が大きい。
239				○	○	教えることが多く、知識伝達型の授業にせざるを得ない印象です。今求められている力を伸ばすために、指導内容と授業時数を大きく見直し、子どもたちがじっくり考えたり、話し合ったり、興味関心に応じて学習したりする時間を学校で十分に確保できるようにしてあげたいです。また、より質の高い授業をしていくために、先生たちが放課後の勤務時間内に教材研究をする時間を確保すべきです。少なくとも1時間以上はほしいです。

273				○	○	個人差があるが、現在は放課後の習い事の時間が増え、忙しい児童と保護者が増えているため、もう少し時数を減らしてもいいのではと感じる。
292				○	○	低学年の6時間は必要無いとおもいます。5時間でも時数は足りるのではないのでしょうか、？
401				○	○	余剰時数がかかなりある低、中学年はもう少しゆとりのある編成でいいのかなと感じます。
408				○	○	学習すべき内容(指導要領)がどんどんと充実していき子供達の学習に幅が出てきていることは良いと思うが、増やした分に対する削減や増員などがいないため、現場の教員の負担だけがどんどんと増え続けている。今まさに謳われている個別最適化を目指すのであれば、言葉だけを先行させるのではなく、環境の整備から着手してもらいたいと思う。また、時代に合わせた学習内容の取捨選択もお願いしたい。もし、これからも学習すべき内容を増やし続けるのであれば、[略]授業を1人で担当できる教員を増やして欲しい。そうしないと負担は減らない。
434				○	○	することが多いので、内容を厳選していただきたいです。
451				○	○	とにかく標準時数が多いです。教員も子どもたちも、心のゆとりを持てることが第一だと思います。もっと削減する方向で世の中が動いて欲しいです。
455				○	○	時数が多すぎて児童も教員も疲労が見られる。教員に関しては特に、休憩時間の会議なども見られるため、標準時数を減らしていく必要があると思う。
465				○	○	児童の発達段階を考慮しても、6時間目の授業は身になっているか疑問に思う。教師も児童も5時間目までで終わる事ができれば、より充実した時間を過ごせるように感じる。
467				○	○	現在40歳ですが、私たちが学生だった頃はもっと子どもも先生ものびのびして過ごしていたと思う。それは、やはり基本1日5時間の時数がよいのではと思います。
477				○	○	金曜日は7時間目までありました。帯タイムとして学習させたりして、下校時刻が16時20分などが当たり前でした。とてもきつかったです。標準時数も減らしてほしい。高学年が特にきついです。
481				○	○	外国語活動(英語)といった以前はなかったものも小学校で取り組むことになり、今一度外国語も含め、学活、総合などの教科の中身がどれほど必要性があるのか、取捨選択が必要なのではないかと思う。
491				○	○	「今の子ども達は忙しい」という印象を受けます。学習する内容も多く、それをこなすだけの時数が必要となり、その結果オーバーしてしまう。放課後、宿題をしたり習い事に行ったりすると、遊ぶ時間もなく、人間関係やコミュニケーションにも少なからず影響を与えているような気も…。時数はもちろんですが、学習内容も精選して、必要なものをじっくりゆとりを持って取り組めたらと思います。
519				○	○	たまに午前授業の週などあると子どもも教員も余裕を持って生活することができます。学校で詰め込まなくても良いのではないのでしょうか。
571				○	○	高学年は6時間授業が当たり前になっています。普段から子どもたちは学習をがんばりますが、成績処理期間等で毎日5時間授業という方が、ゆとりをもって学びに向かえていると思います。授業でも、深める意見が出ると感じます。音楽や家庭科のように週1~2時間の授業では、学習指導要領に書かれている目標を達成するのは難しいと感じます。どの教科も大切だと思うので、全体のバランスを考えながら授業時数を見直してほしいです。

581				○ ○	下校の時間が早いと習い事が増やされたりしないのか心配です。ただ、もう少しGIGA端末の活用が進んだら、個人で調べたり予習復習の時間が増えてくる。そうすると、家に持ち帰らせたりして学校で過ごす時間を減らすのか、学校で個作業や意見交換の時間を増やすのか、それによっても変わってくると思います。学校のあり方も変わりつつあるのかなと感じているので、学校の学び方を鑑みてよりよい時数を設定してほしいと存じます。土曜日があるのは精神的に休まらないので無理です。
588				○ ○	毎日の授業時数が多く、「今日も6時間か」と、学習が苦手な児童はぼやいています。教科が増えているので、もっと他の教科の時数を減らしてもらいたいです。
611				○ ○	子どもが遅くまで、学校に滞在しすぎです。時数が増えてばかりです。おかしすぎます。子どもをなんやと思っているのですか。時数を減らして、子どもを早く帰してあげたい。家庭の時間や遊ぶ時間を確保してあげたい。
626				○ ○	教員も子どもも疲弊している。短縮期間中は双方に精神的、時間的、体力的な余裕があり、落ち着いて過ごすことができた。また、勤務時間内に教材研究の時間も取ることができたため、授業の質も向上した。多岐にわたる指導内容の増えた分は減らすことで時数を減らし、落ち着いた環境で密度の濃い学習ができるように保障すべき。
699				○ ○	標準時数について自分が感じたり同僚と、話題にしたりしていることを2つ挙げる。一つは、内容や目標の思い切った精選の必要性だ。学習内容や目標を踏まえた数字だと理解しているが、放課後定時までには授業準備などを行う時間はほとんど残らない。休み時間や掃除の時間、朝学習の時間を見直すなどの工夫をして、放課後の時間を増やそうという取組は広がっているが、限界がある。また、無理な時間短縮によって子どもがいる時間にゆとりがなくなったと感じる声も多い。給与面でも、求められるものに対して見合った額とは到底思えない。もう一点、標準時数を思い切って引き下げる案だ。日頃私たちは、この標準時数を踏まえて教科書会社で作った年間指導計画例を基に、各教科等の授業計画を立てることがほとんどだ。いくら学校に委ねられると言われても、年間全ての学習内容を網羅しながら、精度の高い指導計画を立てるなど、思いはあっても現実的ではない。時間を縮めて精度を上げるとなると簡単ではない。安易かもしれないが、標準時数が少なくなるだけで、それに基づいた教科書会社の年間指導計画例が変わる。それを参考にすれば、現場の負担はかなり軽減されるのではないかと考えている。
704				○ ○	標準時数が増え続けていて働くのがしんどいです。現勤務校では繁忙期(7月、12月、3月)が全て5時間になるのですごく働きやすいです。前勤務校はそれがなく、残業が午前0時を回ったことも多々ありました。
749				○ ○	持ち時間が多すぎる 年間の標準時数を各学校余剰を考えず標準時数にすべき
768				○ ○	毎日5限まで、土日休みが教員にとっても子どもにとってもゆとりがあり、いいと思う。
774				○ ○	標準時間数が長いように感じます。なかなか、勤務時間内に仕事が終わるようにはなっていないので、給与などを改善してほしいです。
776				○ ○	学習指導要領の中身がどんどん増えていくなかで、標準授業時数も増えていった。学習指導要領の精査から必要だと思うが、時数をぐっと減らすとくみも必要だと思う。誰がそれを行うことができるのか。難しい課題である。
780				○ ○	標準時数の定義をもっと周知すべきと思います。また、妥当な総時数のモデルなどを周知すると各校の混乱が少なくなると思います。
799				○ ○	余剰時数はいらぬから、週あたりのコマ数を減らして欲しい。
803				○ ○	もっと時数を減らすべき。子どもも大人も大変すぎる。
830				○ ○	大人も子どももやる事が多く、日々追われているように思う。標準時数が減っていくことを願います。

833				○ ○	6限の日が多くなり、子どもの集中力が持たず疲弊している。時数で教育効果を高めるのではなく、今の社会にあった内容、質を高めるべきである。社会はリモートなどの働き方改革が進んでいるが、教育現場では時数が増えるという時代錯誤感が否めない。SDGsが求められている世の中である。いつまでも向上志向、ほしがるといふ考えを変えるべきでないか？足るを知る、今あるものを大切にする。他の生き物のことも考え共生していくを基本に良い意味で頑張りすぎない世の中になるような教育課程を抜本的に本気で考えてほしい。
836				○ ○	時数は多すぎだと思います。特に5年生などは進度に追われて逆に学習が充実していなかったり、放課後などの予定も詰まっていたりして余裕がない生活になっている印象がありました。やることを増やしてばかりでなく減らしていくことも必要ではないかと思います。
837				○ ○	教科書を網羅するには必要だが、子どもにも教師にも余裕が無すぎて、現実的ではないと感じる。内容の精選が必要だと感じる。
839				○ ○	余裕時数とよばれるものを考慮することなく、時数ぴったりで年度始めから計画し、5時間授業を増やす方が、教師児童双方にとって余裕が生まれ良いと思う。
860				○ ○	業務を増やすだけ増やして、減らさず、それなのに残業代は出ず、一生懸命仕事をしてもらっているのにそれは自主的なものでやりたいからやっていると思われることがとても悔しいです。我々は聖職者と言われているようですが、ただの人です。他の公務員と同じようにせめて残業代は出していただきたいです。いい加減、定額働かせ放題は困ります。内閣改造前の長岡文科大臣は結局何も仕事をしていませんよね。記憶にあるのは、誰でも言える、「調査をします」ただそれだけではありませんか。どれだけ財務省などから馬鹿にされているんでしょうか。国民からはそう思われているということをお願い加減自覚していただきたいです。標準時数くらい、今すぐに減らしてください。それができないのであれば、職員一人当たりが担当する時数を減らせるよう人員を大幅に増員してください。財務省から予算を勝ち取ってください。何が異次元の少子化対策なのかさっぱりわかりません。これでは少子化加速対策ですよ。
862				○ ○	6時間の日が多いことで、子供達が疲れ、教材研究のために教員の退勤時刻が遅くなる。やる気のない子供達に、疲れてイライラした教員が注意し、空気が悪くなる…のようなことが何度もあります。せめて6時間の日が1日でも減ったら、とても楽になると思います。
926				○ ○	今時の子どもたちの生活に標準時数は合っているのか疑問があります。近年は、できるだけ少なくするようになりましたが、本来は全学年5時間までで十分だと感じます。基本的に教えるべきこと、子どもたちからすれば学ぶべきことが多すぎる気がします。そのために、子どもたちが取り残されてしまうし、救いきれないように感じてなりません。システムの根幹が変わらなくては、何も変わらないと思います。
935				○ ○	教員を増やして、教科ごと準備する時間を増やして欲しい。
937				○ ○	教える内容を精選して、時数を減らしていけると良い。
962				○ ○	子ども達の気持ちの面、教師の授業準備の面を鑑みて、毎日4校時で給食後清掃して帰るのがベスト。
964				○ ○	点数をとるための勉強は、これだけICTが発達した今なら、どこでもできます。けれど、30人前後の人数でなくてはできないこと(学校でないとできないこと)は、なくてはいけないことだと思います。経験重視型の3から40年前の学校に懐古の念を抱きます。
994				○ ○	あれもこれもやろうとした結果、子供と大人も苦しんでいる現状があります。例えば、外国語では、学力の差がより顕著になってしまったように思います。時代が変わってきているのですから、今の時代に合わない学習内容は勇気を出してカットしてはどうでしょうか。時数が減れば家庭での時間も増えますし、今はあれこれ詰め込みすぎな気がします。

1000				○	○	標準時数はこのままでいいと思う。
1013				○	○	多忙感が増し、子どもも一杯一杯な現状があるため、指導内容の削減が求められていると感じる。
1024				○	○	6時間授業の日を減らし、子ども同士が自由に関われる放課後の時間をできるだけ長く保証してあげたい
1029				○	○	6校時まで授業をしたら、放課後に何か活動することが難しい。授業でできなかった分を放課後に補習したいが、会議等もあって時間がとれない。標準時数を見直して、5校時になるだけで、働き方や時間にゆとりが生まれると思う。
1036				○	○	時数が多い。もっと少ない時数でも教育内容は充実するはず。昨今の忙しい子どもたちの実態を鑑みても、時数を減らし、下校時刻を早くする必要がある。ゆとりをもって生活できるような工夫や時数改善が必要。
1069				○	○	必要な授業時数は充分にクリアできているので、夏休みの終わり時期を8月31日にすることや出張の行きやすさをもっとできるように、働き方改革ができればと感じる。
1083				○	○	いろいろ詰め込みすぎているので、1つ1つの教科を厳選して、充実させたい
1111				○	○	多すぎる。何でもかんでも学校に○○教育を押しつけ、既存のものを減らさないものだから、教育課程は膨大になる。時数を減らせない。情報関係の指導もしなくてはいけない中、習字、そろばんなどはいつまでも続けることは理解できない。はっきり言って不要。時代が変わってきているのだから指導要領を大胆に削り、本当にゆとりをもって学びたいものに時間を割くことのできる学校現場にしていかななくてはならない。
47					○	2年生以上は、1週間の授業数を1時間ずつ削減してもいいのかなと感じることがあります。暑い時期の午後は、子どもたちも教員もかなりきつそうです。
251					○	もっと少なくても良いのでは
305					○	モジュールや専科を進めることで、少ない授業時数で充実した授業を進められるようにしてほしいです。
306					○	時数は増やさないでほしい。時数と勤務時間が合っていない印象がある。最初に時数が決まっても、欠員がでて結局増えてしまう。
470					○	標準時数や指導内容を減らすなどの工夫が必要だと思う。子供も教員も疲弊し、余裕がなくなる。
527					○	時数が足りないからと言って、目一杯しているが、十分に足りていると思うので、改善していただきたい。
694					○	教科書がかわり、教える内容が多いため、時数を減らしても教える内容も減らさないと意味がないです。理想は、全て4か5時間授業であれば、いいです。
1014					○	教える内容が多く、子どもたちが一つの単元を学習するのに時間が足りない。また、6時間目まで集中して学習できないことや、下校時刻が遅くなってしまふことが多い。読書の時間や休み時間などを削って早く帰している学校もあり、のびのびとした学習ができるようにゆとりある標準時数を目指して欲しい。
1084					○	今後、コミュニティスクールなどが、充実してくれば、週4の日課でも、良いのでは…?と少し考えたりすることがあります。
1	○	○	○	○		現行の標準時数は多すぎます。履修内容も教員にも子どもにも負担になっています。標準時数が、最低基準になった事も問題だと思います。内容の精選が必要だと思います。
845				○	○	基本的に時数が多すぎると感じる。もう少し教育課程、指導内容を見直し、児童生徒も、教職員もキツキツで余裕がない状況から脱却すべきだと思う。削減されず、増やすのみ。なんでも「指導要領」や「教科」に盛り込めばいい風潮がある。10年ごとに、指導要領が行ったり来たりするのはやめてほしい。
864					○	道徳や英語、ICTなど小学校が請け負う学習が増えている。なら、人材を増やして欲しい

8. 不登校との関係 20件

整理番号	77年 標準 時数 下で 勤務	89年 標準 時数 下で 勤務	98年 標準 時数 下で 勤務	08年 標準 時数 下で 勤務	17年 標準 時数 下で 勤務	自由記述
365	○	○	○	○	○	新卒時代から10年余りの期間は、放課後にゆとりがあり、子どもたちと触れ合う時間もあった。土曜日も授業があったが、午後に学級行事などが入っても、気持ち的に余裕があった。今は子供も先生も、窮屈な日常を過ごしていると思う。不登校が増えたのも、日常のゆとりが減ったことは、関係ないとは言えないのではないかと思います。
80		○	○	○	○	することが多すぎて、余裕がない。不登校の児童も増え、その中には学校のカリキュラムに余裕がなくしんどい児童もいる。
676		○	○	○	○	時数は増えたが、内容を詰め込みすぎて、子どもたちの中には、途中から、ついていけない子も。そこから学校に行きにくくなる子もいます。
721		○	○	○	○	現在の標準時数は、子どもたちの拘束時間が長すぎる。子どもたちは疲れ切ってしまい、長く勉強したところで、学習内容はそれほど落ちていない。また、1日6時間授業だと、子どもたちが帰ったらあつという間に勤務時間が終わってしまい、さまざまな仕事は勤務時間外に行くことになる。超過勤務や持ち帰り業務が日常化して、教員の働き方も苦しくなる。1日5時間くらいで終われるのが、子どもにも教員にもちょうどいいと思う。以下、個人的に感じること。たまにある5時間の日、子どもに「今日は5時間だね!嬉しいね!頑張ろう!」とつい声に出して言ってしまう。でも、子どもたちも嬉しそう。学校が苦行の場となりつつあるのではないか。もちろん、時間だけの問題ではない。学習内容もここ20年で目まぐるしく変わったのも大きいと思う。不登校が増えるのもうなずける。だって、苦しいんだもん。子どもも、先生も。
798		○	○	○	○	外国語が入ってきてから、増加のみで削減がない。以前に比べ、明らかに教育課程に余裕がなくなっている。学校行事(遠足など)やクラブの削減などで対応する学校も多く、子供にとってのお楽しみがなくなっているのかもしれない。不登校増加の一つの要因であるとも考えられる。
902		○	○	○	○	毎日6時間学習は、学校以外の自分、プライベートの自分の時間を奪うことに繋がっている。遊ぶ時間がなく、一日の中で、リラックスするゆとりすらない。不登校、学校嫌いな子が増えてしまう一因になっている。
1042		○	○	○	○	週の時数が全て満杯で、教師・児童共にゆとりがなく、じっくり語り合う時間がない。以前は放課後がゆったりしていたので、児童もリラックスして色々語り合っていた。そこで信頼関係も深まり、実は不登校も防げていたのでは…と思う。
1047		○	○	○	○	子どもの生活環境が変わってきていて学校生活に乗り切れない子たちが増えているのに相変わらず余裕のない学校生活でますます不登校のリスクは増しているのではないかなと思っています。
1075		○	○	○	○	時数が多くて子どもも大人も疲弊している。不登校児の増加との関連がある印象です。それについても知りたい。時数を増やしたからと言っても学力低下するわけではないことをもっと大きくとりあげ、思い切って、時数を減らして、子どもも大人も余裕を持って生活できるようにしてほしい。教員志望者が減っているし、現役の教員も定年前にやめていく現状もある。ストライキ状態にある。これ以上、精神的な病気になる状況をなんとかしてほしい。給料をあげてほしいわけではなく、一人当たりの仕事量を減らさないと解決しない。それには、まず、時数を減らすのが早道。

427			○	○	○	現在の標準時数では、学校での拘束時間が長く、子どもたちの集中力が落ちません。週末の6時間目ともなると、子どもたちも疲れ切った中で学習することになり、学びへの意欲が下がっているように感じます。また、不登校が増えている昨今、学校の拘束時間が長いことで、かえって学校嫌いや学びの意欲の低下を生んでいるように感じます。
599			○	○	○	学習内容等、やらねばならぬことが大幅に増えており、子どもも教員も必死である。それらを全てやりきれている子どもの数は減り、ついてこれずに勉強が嫌になり、不登校になる子どもの数は増えている。毎日の6時間授業は、放課後の子どもの時間と余裕を奪い、遊んだり習い事をしたりすることも制約されている。子どもも教員も、「常に何かに追われている」感覚があり、子どものうちから精神疾患になったり、メンエールになったりすることが近年起こっている。
766			○	○	○	学校にやってほしいと要望され、授業の内容が増える一方です。専門性が薄らいでいきます。減らさずに増やしていくと、今後授業数確保のために夏休みや冬休みなど減らさなければいけないようになります。私達教職員は長期休みしか休めないのに、働かなきゃいけない日にちが増えてとてもつらいです。大人が辛いなら子どもの気持ちも前向きにはならないと思います。体力的にも気持ち的にも子どもの気持ちはこの多すぎる時数では前向きにはなりませんね。不登校増えると思います。
800			○	○	○	時数が増えるにつれて教師も子どもも忙しくて余裕がない。これでは、不登校がますます増え、教師になる人も減っていく一方である。
838			○	○	○	毎日、6時間目まで授業、その後に習い事で子どもたちの余裕がありません。その結果、精神的に荒れたり不登校になったりしているように思います。[略]
204				○	○	教員の数が足りていないのに時数が多く、多忙化の要因の一つである。また、時数が多いと子どもにゆとりが生まれず、勉強嫌いや不登校児童生徒の増加につながる。
703				○	○	余白がなく、子どもたちも職員も疲弊している。不登校傾向の子は、よく6時間目が負担だと言っている。
745				○	○	6時間は、子どもにとってかなり疲れるようだ。始業式の4時間や5時間の日の子どもたちはイキイキしている。不登校傾向の子も、4時間や5時間だと登校へのハードルが低くなるのではないのかな…と日々感じている。
920				○	○	不登校児童が増加している近年、不登校傾向の児童たちは、コロナの影響で行った分散登校や4時間目までの日は、登校することができていた。そのことから、今の子どもたちにとって、6時間がたくさんある現標準時数は、しんどいように思える。児童にとっても教師にとってもゆとりのある標準時数にしてほしい。
22					○	5・6年生を担当していましたが、ボロボロの校舎の中、暑くても寒くても毎日6時間日課で、子どもたちも職員も疲弊していました。時間的余裕がなく、常に詰め込まれた内容で、「この内容を学習させて、国はどうさせたいのだろう？」と疑問に思うことばかりでした。時間的にも精神的にも余白がないことで、不登校や学校不適應の子どもが増えています。定着に必要な時間は全員異なりますし、個別最適化の観点からも何をもって「標準」なのか疑問です。「これは『学習した方がいい』『これも『学習させた方がいい』が山のように積み重なっていて、現場はパンクしています。午前中4時間→給食→清掃、で下校するぐらいの日課で済むレベルでの、標準授業時数の大幅減を切に求めます。
64					○	学習指導要領の内容に対する標準時数は少なすぎる。現行の学習指導要領を主体的対話的で深い学びの中で実践するためにはこの時数でも難しい。しかし、時数を増やすことは教員の負担増、児童の負担増につながっており、不登校や学力不振で取り残される児童が後を絶たない。標準時数に対して不満はないが、この学習指導要領の内容を精選していかなければ、この格差はさらに広がると思う。

東京学芸大学 大森直樹研究室主催・公立小学校教員対象

標準時数の変遷についてのアンケート 回答ご協力依頼

公立小学校教員のみなさま

東京学芸大学の森直樹です。公立小学校教員のみなさまにご協力いただき、標準時数の変遷についての研究をすすめて、アンケートにご協力をいただければと思います。

小学校の教育課程、とくにその授業時数は、国が定めた標準時数(教育課程基準の1つ)にもとづき各校が定めており、学習指導要領の改訂等にもとづいて変遷してきました。各期の標準時数下の教育課程について、公立小学校教員の方々に経験にもとづく感想をいただき、今後の教育課程基準のあり方の改善に活かすことが本アンケートの目的です。よろしくお願いいたします。

アンケートフォームのURLおよびQRコードはこちらです→

<https://forms.gle/PH9oBJAZ5ouf52JE9>

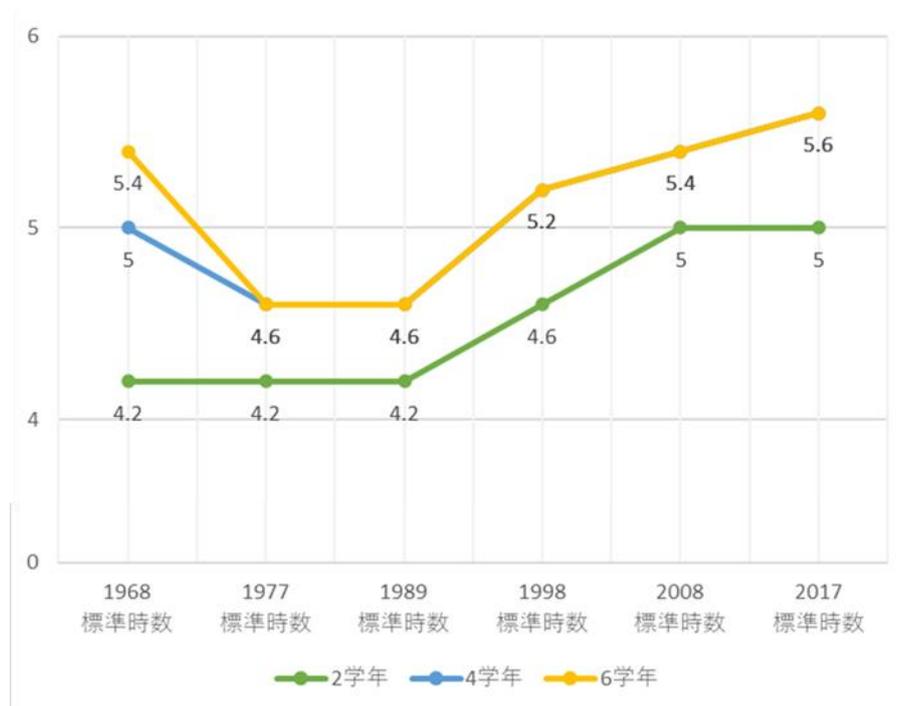
スマートフォン・タブレット等から回答可能です

回答は匿名で集計され、所用時間は2～5分です

回答締め切り：2023年9月29日



【参考：小学校の平日1日時数の変遷】



- ・特別活動(特活)の標準時数は差し引いている(各期でカウントが異なるため)
- ・週6日の1968~1989標準時数については「週コマ数-4時数(土曜の時数)÷5日」で算出
- ・週5日の1998~2017標準時数については「週コマ数÷5日」で算出
- ・週コマ数は「標準時数÷35」で算出(35は標準時数を週標準時数に換算する係数)
- ・1977標準時数より4学年・6学年は1日時数が同じ

このアンケートは、一般財団法人教育文化総合研究所が協力しています。

お問合せ TEL 03-3230-0564 / メールフォーム <https://www.k-soken.gr.jp/pages/3/>

標準時数の変遷についてのアンケート

こちらは、東京学芸大学・大森直樹研究室が主催するアンケートです。小学校の教育課程、とくにその授業時数は、国が定めた標準時数（教育課程基準の1つ）にもとづき各校が定めており、下記の図表0のように変遷してきました。各期の標準時数下の教育課程について、公立小学校教員の方々に経験にもとづく感想をいただき、今後の教育課程基準のあり方の改善に活かすことが本アンケートの目的です。回答は匿名で集計され、所要時間は2～5分です。よろしくお願いいたします。

【図表0】 小学校の平日1日時数の変遷



- ・特別活動(特活)の標準時数は差し引いている(各期でカウントが異なるため)
- ・週6日の1968～1989標準時数については「週コマ数-4時数(土曜の時数)÷5日」で算出
- ・週5日の1998～2017標準時数については「週コマ数÷5日」で算出
- ・週コマ数は「標準時数÷35」で算出(35は標準時数を週標準時数に換算する係数)
- ・1977標準時数より4学年・6学年は1日時数が同じ

問0

現在お勤めの公立小学校の、所在都道府県を以下から選んでください。
1つだけマークしてください。

<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 岡山県
<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 広島県
<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 山口県
<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 長野県	<input type="radio"/> 徳島県
<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 香川県
<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 愛媛県
<input type="radio"/> 福島県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 高知県
<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 三重県	<input type="radio"/> 福岡県
<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 佐賀県
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 長崎県
<input type="radio"/> 埼玉県	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 熊本県
<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 大分県
<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 宮崎県
<input type="radio"/> 神奈川県	<input type="radio"/> 和歌山県	<input type="radio"/> 鹿児島県
<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 鳥取県	<input type="radio"/> 沖縄県
<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 島根県	

問1 1977年の標準時数(1980～1991年度実施)の期間、小学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ 問2にスキップします

1977年の標準時数(以下、1977標準時数)について、図表1をご覧の上、ご回答ください。

【図表1】1977標準時数(1980～1991年度実施)について

特徴

- ・6日制
- ・標準時数1015を35で割ると週29コマ(4～6年)
- ・その中で標準時数70、週2コマが特活
- ・全教科の標準時数が35の倍数

時間割例(小5)

- ・1989年の歌志内市立歌志内小の記録から作成
- ・自主活動を追加して週30コマ

	月	火	水	木	金	土
1	国	国	国	国	国	道
2	算	算	算	算	算	学活
3	社	音	社	体	図	児/ク
4	理	家	理	音	図	
5	体	体	自主活動	家	社	
6		国		理		

問1-1 1977標準時数(6日制、小4～6は特活を除くと週27コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

- 合っていた
- やや合っていた
- やや合っていなかった
- 合っていなかった

問1-2 1977標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

- 充実していた
- やや充実していた
- やや充実していなかった
- 充実していなかった

問2 1989年の標準時数(1992～2001年度実施)の期間、小学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ 問3にスキップします

1989年の標準時数(以下、1989標準時数)について、図表2をご覧の上、ご回答ください。

【図表2】1989標準時数(1992～2001年度実施)について

特徴

- ・6日制
- ・標準時数1015を35で割ると週29コマ(4～6年)
- ・その中で標準時数70、週2コマが特活
- ・全教科等の標準時数が35の倍数
- ・1994年9月に月1回の5日制が導入、1995年4月に月2回の5日制が導入

時間割例(小5)

	月	火	水	木	金	土
1	国	国	国	国	国	道
2	算	算	算	算	算	学活
3	社	音	社	体	図	児/ク
4	理	家	理	音	図	
5	体	体		家	社	
6		国		理		

問2-1 1989標準時数(6日制、小4～6は特活を除くと週27コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

- 合っていた
- やや合っていた
- やや合っていなかった
- 合っていなかった

問2-2 1989標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

- 充実していた
- やや充実していた
- やや充実していなかった
- 充実していなかった

問3 1998年の標準時数（2002～2010年度実施）の期間、小学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ 問4にスキップします

1998年の標準時数（以下、1998標準時数）について、図表3をご覧の上、ご回答ください。

【図表3】1998標準時数(2002～2010年度実施) について

特徴

- ・ 5日制
- ・ 標準時数945を35で割ると週27コマ(4～6年)
- ・ その中で標準時数35、週1コマが特活
- ・ 社、理、音、図、家、体の標準時数が35で割り切れない

時間割例（小5）

- ・ 特活を2コマ配当したので（「児/ク」「学活」）27+1で週28コマ

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	道
3	社	理	社	理	理/社
4	音	家	体	体/家	図
5	体	国/算	総	音/図	学活
6		総	児/ク	総	

問3-1 1998標準時数(5日制、小4～6は特活を除くと週26コマ) 期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

- 合っていた
- やや合っていた
- やや合っていなかった
- 合っていなかった

問3-2 1998標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？
1つだけマークしてください。

- 充実していた
- やや充実していた
- やや充実していなかった
- 充実していなかった

問4 2008年の標準時数(2011~2019年度実施)の期間、小学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ 問5にスキップします

2008年の標準時数(以下、2008標準時数)について、図表4をご覧の上、ご回答ください。

【図表4】2008標準時数(2011~2019年度実施)について

特徴

- ・ 5日制
- ・ 標準時数980を35で割ると週28コマ(4~6年)
- ・ その中で標準時数35、週1コマが特活
- ・ 4~5社、3理、3~6音、3~6図、家、5~6体の標準時数が35で割り切れない

時間割例(小5)

特活を2コマ配当したので(「児/ク」「学活」)28+1で週29コマ

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	算
3	社	理	社	理	社
4	音	家	理	体/家	図
5	体	外	体	音/図	学活
6		総	道	総	児/ク

問4-1 2008標準時数(5日制、小4~6は特活を除くと週27コマ)期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

- 合っていた
- やや合っていた
- やや合っていなかった
- 合っていなかった

問4-2 2008標準時数期間の教育課程では子どもの学習は充実していましたか？ 1つだけマークしてください。

- 充実していた
- やや充実していた
- やや充実していなかった
- 充実していなかった

問5 2017年の標準時数（2020年度～実施）の期間、小学校教員として勤務しましたか？
1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ 問6にスキップします

2017年の標準時数（以下、2017標準時数）について、図表5をご覧ください。

【図表5】2017標準時数(2020年度～実施)について

特徴

- ・ 5日制
- ・ 標準時数1015を35で割ると週29コマ(4～6年生)
- ・ その中で標準時数35、週1コマが特活
- ・ 4～5社、3理、3～6音、3～6図、家、5～6体の標準時数が35で割り切れない

時間割例(小5)

特活を2コマ配当したので(「児/ク」「学活」) 29+1で週30コマ

	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	算
3	社	理	社	理	社
4	音	家	理	体 家	図
5	体	外国語	体	音 図	学活
6	外国語	総合 学習	道	総合 学習	児 ク

問5-1 2017標準時数(5日制、小4～6は特活を除くと週28コマ) 期間の教育課程は、子どもの生活に合っていましたか？ 1つだけマークしてください。

- 合っていた
- やや合っていた
- やや合っていなかった
- 合っていなかった

問5-2 2017標準時数期間の教育課程では、子どもの学習は充実していましたか？
1つだけマークしてください。

- 充実していた
- やや充実していた
- やや充実していなかった
- 充実していなかった

問6 標準時数のあり方についてお気づきの点がありましたらご記入ください。
感想やご意見、当時の学校での工夫、印象的な出来事など、なんでも結構です。

質問はこれで終了です、下の「送信」ボタンをクリックして送信してください。ご協力ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

著者

■大森直樹

東京学芸大学現職教員支援センター機構教授

1965年7月31日東京生 教育史

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~omoriken/>

調査協力者

■一般財団法人教育文化総合研究所

2016年設立 前身は1991年設立の国民教育文化総合研究所

<https://www.k-soken.gr.jp/>

標準時数の変遷に関する調査

—結果と提言—

2024年 5月 7日発行

著者 大森直樹

発行所 東京学芸大学大森直樹研究室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

Tel :042-329-7350

Fax :042-329-7350